

平成 20 年度
県立体育センター研究

スポーツ指導者の質と水準に関する
観点別評価基準の開発

神奈川県立体育センター
指導研究部 スポーツ情報室

目 次

テーマ設定理由・目的・内容及び方法	・・・	1
スポーツ指導者の質と水準に関する観点別評価基準の開発	・・・	3
開発した観点別評価基準による調査		
1 回答者の属性	・・・	12
2 単純集計	・・・	15
3 項目の必要性別クロス集計結果	・・・	19
4 指導対象者別クロス集計結果	・・・	29
開発した観点別評価基準による調査への考察	・・・	42
観点別評価基準作成に関する今後の方向性	・・・	50
資料	・・・	51
参考文献	・・・	67

スポーツ指導者の質と水準に関する観点別評価基準の開発

スポーツ情報室 磯貝靖子 水野昌享 黒岩俊彦 田所克哉
横浜国立大学 海老原修

【研究テーマ設定理由】

多様化する県民のスポーツニーズに対応するため、高度な専門的知識と実践的指導力を兼ね備えたスポーツ指導者の育成は不可欠である。

しかし現状では、スポーツ指導者が身に付けておきたい基礎・基本の知識・技能等について、統一した指標が示されていない。そのため、スポーツ指導者が有する知識や指導技術等を自ら振り返り、何をどのレベルで身に付けているのか、また不足しているのかを具体的に判断することができない。

そこで、スポーツ指導者が身に付けておくことが望ましいと思われる基礎・基本の知識・技能等を体系化すると共に、その水準を自己評価することができる観点別評価基準を開発し、スポーツ指導者の資質の向上を支援することが必要であると考え、本テーマを設定した。

【目的】

県民の豊かなスポーツライフを実現するため、多様化する県民ニーズに対応したスポーツ指導者の育成に向けて、スポーツ指導者が自らの指導を振り返り、さらなる資質向上をめざした自己研鑽に努めるための指標となる、質と水準に関する観点別評価基準を開発し、スポーツ指導者の資質の向上に資する。

【内容及び方法】

1 研究の期間

平成 20 年 4 月～平成 21 年 3 月

2 研究内容

スポーツ指導者として身につけておくことが望ましいと思われる基礎・基本の知識・技能等の項目（観点別評価基準）について体系化するとともに、その水準を自己評価することができる観点別評価基準を作成する。

3 研究方法

(1) スポーツ指導者の質と水準に関する観点別評価基準の開発

- ア 文献研究及び先行事例等資料収集
- イ スポーツ指導者の質と水準に関する意見交換会の実施
- ウ スポーツ指導者の質と水準に関する観点別評価基準の作成

(2) 作成した観点別評価基準（質問紙法）による調査

- ア 調査期間
平成 20 年 10 月下旬～平成 20 年 12 月上旬
- イ 調査の方法
質問紙法によるアンケート調査（対象者へ直接郵送、返信用封筒により回収）
- ウ 調査対象者
神奈川県スポーツ指導者連絡協議会及び神奈川県スポーツリーダーバンク登録指導者
1544 人

エ 標本回収率
有効回収標本数 640 サンプル
有効回収率 41.4%

※神奈川県スポーツ指導者連絡協議会とは

財団法人日本体育協会の公認スポーツ指導者相互の連携と自らの資質向上のため、都道府県ごとに組織されており、県体育協会との密接な連携のもと、それぞれの地域において組織的活動を展開している。

※神奈川県スポーツリーダーバンクとは

神奈川県におけるスポーツ活動の普及振興を図る目的で、神奈川県立体育センターが運営する。スポーツ指導の資格所有者を登録対象としており、県民や、市町村、学校運動部活動等からの依頼に応じて、スポーツ指導者を紹介する制度である。

【スポーツ指導者の質と水準に関する観点別評価基準の開発】

1 文献研究及び先行事例等資料収集

(1) スポーツ指導者資格について^{1) 2) 3)}

国際社会においては、体育・スポーツの実践はすべての人にとっての基本的権利であり、国民は適切なスポーツ指導能力を持つ有資格者から指導を受ける権利がある⁴⁾という考え方が定着している。

文部省（現、文部科学省）では、保健体育審議会の「社会体育指導者の資格付与制度についての建議」を受けて、昭和62年1月、「社会体育指導者の知識・技能審査事業の認定に関する規定」を設け、スポーツ団体が行うスポーツ指導者の養成・資格付与事業のうち、一定の基準に達し、スポーツ指導者の資質向上を図る上で奨励すべきものを文部大臣（現、文部科学大臣）が認定する制度を創設した。

平成12年4月には、従来告示による「社会体育指導者の知識・技能審査事業の認定に関する規定」が廃止され、スポーツ振興法（昭和三十六年法律第百四十一号）第十一条（指導者の充実）に基づく実施省令として、「スポーツ指導者の知識・技能審査事業の認定に関する規程」が定められた。

平成12年9月には、スポーツ振興法の規定に基づき、文部大臣（現文部科学大臣）告示として策定された「スポーツ振興基本計画」において、（1）国民の誰もが、それぞれの体力や年齢、技術、興味・目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会を実現する。（2）その目標として、できるかぎり早期に、成人の週1回以上のスポーツ実施率が2人に1人（50パーセント）となることを目指すという政策目標のもと、効果的な指導者養成と指導者の確保、指導者の更なる資質向上、現行指導者制度の見直しが示された。

スポーツ指導者がより活動しやすい環境を整えるためには、スポーツ指導者資格の社会的認知を高める必要があると考えられるが、現在は、スポーツ指導者資格を付与する団体（公益法人等）が独自の審査基準を設けて任意で資格を付与し、また一定の基準を満たした、スポーツ指導者資格審査・証明事業では様々な認定を与えており、社会的な合意を獲得している資格と、それを得ていない資格などが存在している。また、資格の種類が多く複雑であり、資格付与により身につけられる知識・技能も不明瞭である。

(2) 神奈川県の実況について⁵⁾

神奈川県民のスポーツ実施状況を見てみると、週1回以上のスポーツ実施率は39.7%であった（平成18年度）⁶⁾。神奈川県は神奈川県スポーツ振興指針「アクティブかながわ・スポーツビジョン」において、成人の週1回以上のスポーツ実施率を50%以上とすることを、<2015年の数値目標>としてさまざまな施策を展開している⁷⁾。体育センターでも、システムプロジェクト・スポーツ活動を支えるしくみづくりの施策にある、「指導者の育成と活用のネットワーク化」等を推進しているところである。この取組みの中で、スポーツ指導者の活用を促進することは大きな課題である。

スポーツ指導者の活用を促進するためには、スポーツ指導者の指導に対する信頼性を高める必要がある。信頼性を担保するにはスポーツ指導者が自身の指導力に対して向上意欲を持つことが必要と考える。そこで、スポーツ指導者自身が、より質の高い指導力を獲得するためには、「PDCAサイクル」の手法で自己の指導を点検することが有効な手段であり、スポーツ指導者自身が自己の指導を点検するためには、一定の評価基準が必要である、と考えた。

また、体育センターは、スポーツ指導者等の研修機関としての機能を有しており、県内のスポーツ指導者が主体的に指導力を向上させる取組を支援するための手立てとしても、スポーツ指導者の指導に対する統一した基準の必要性が検討課題となった。

(3) 「指導者の評価」の先行事例について

「指導者の指導」を評価するための先行事例のひとつとしては、1997年から導入された「カリフォルニア州の教育スタンダード」⁸⁾がある。

それは、

- (1) 学習支援：全ての子どもへの学習援助と具体的な貢献
- (2) 学習環境作り：子どもへの学習環境整備と維持向上
- (3) 教科指導力：子どもへの教科指導力の向上
- (4) 学習デザイン：子どもの学習の指導計画・立案力
- (5) 学習評価：子どもの学習評価と学習指導への応用力
- (6) 教師の専門性：教師の専門性の維持向上と同僚教員との切磋琢磨

といった6つの項目をカリフォルニア州教員研修目標として設定している。

例えば、L A（ロス・アンジェルス）市郊外のトランス統合学区教育委員会の場合は、6つのそれぞれの評価項目について、3段階評価（「満足」、「改善が必要」、「不満足」）を行い、「改善が必要」と「不満足」の評価項目には、評定者のコメントを求めることになっている。

「指導者の指導」を評価するための「内部評価」の先行事例としては、横浜国立大学教育人間科学部において作成された小学校教員としての資質・能力に関する評価基準である「横浜スタンダード」⁹⁾がある。教育実習生は各学年における自己の達成状況を評価基準「横浜スタンダード」に照らして評価し、実践的指導力を高めていく取組みを行っている。

それは、

- (1) 基本的素養
- (2) 知識・理解
- (3) 指導1 目標・計画
- (4) 指導2 実演授業
- (5) 指導3 評価
- (6) 指導4 授業観察・分析
- (7) 学級経営
- (8) 学校組織理解・運営への協力、

といった8つの大項目について合計50の項目を設定し、4段階評価（「insufficient（不十分な）」、「sufficient（十分な）」、「good（満足できる）」、「very good（非常に満足できる）」）を行うように構成されている。

「指導者の指導」を評価するための「外部評価」の先行事例としては、特定非営利活動法人スポーツ指導者支援協会¹⁰⁾における「満足度調査」がある。この評価は、最初、スポーツ指導者自身が自己申告により指導力のランク付けを行う。次にスポーツ指導者の指導を受けた参加者による、スポーツ指導者の指導に対する満足度調査を行い、これらの結果を加算・減算していき、指導者への評価をポイント化し、ホームページ上に公開している。この取組は、登録する指導者のさらなるレベルアップを目指した自己研鑽を促すことを目的に実施されている。

本研究では、指導者の指導評価の先行事例である「横浜スタンダード」を参考に、スポーツ指導者に求められる質と水準に関する統一した基準を開発することとした。

2 スポーツ指導者の質と水準に関する意見交換会の実施

スポーツ指導者の能力・技量を保証し、社会的認知を高めるための指導評価を設定するためには、現在付与されているスポーツ指導者資格に、一定の統一した基準を設けることが必要であると考えられる。

そこで、スポーツ指導者が有する知識や指導技術等について、自ら振り返るための観点別評価基準の必要性を探るため、研究協力者（神奈川県スポーツ指導者連絡協議会会長、神奈川県生涯スポーツリーダー会副会長、日本体育協会ジュニアスポーツ指導員講師、横浜国立大学教育人間科学部教授）による意見交換会を行った。

その意見交換会では、まず、スポーツ指導者登録団体においては、「おもに登録期限切れ資格喪失者への対応を行っており、スポーツ指導者の指導環境の向上、活用促進、登録する有資格者の指導力向上のための対応は不足しがちであることから、本研究に取り組むことは必要である」という意見があった。

また、観点別評価基準の項目に関して、次のようなご意見をいただいた。

- (1) 人づくりを意識した言葉かけ。
- (2) 活動する地域における文化への協力・理解。
- (3) 指導種目などに応じた項目の工夫。

こうした意見を参考に、スポーツ指導者が身に付けておくことが望ましいと思われる基礎・基本の知識・技能として項目の整理をすすめ、統一した基準を開発することとした。

3 スポーツ指導者の質と水準に関する観点別評価基準の作成

文献研究及び先行事例等資料収集や意見交換会等を経て、スポーツ指導者が身につけておくことが望ましいと思われる基礎・基本の知識・技能について、8つの大項目を設定した。

- (1) 基本的素養
- (2) 知識・理解
- (3) 指導1 目標・計画
- (4) 指導2 実施
- (5) 指導3 評価
- (6) 指導4 観察・分析
- (7) 指導現場の経営・運営
- (8) 組織理解と運営への協力

さらに大項目に対して50の小項目による「スポーツ指導者の質と水準に関する観点別評価基準(表1-1~7)」を作成した。

表1-1 スポーツ指導者の質と水準に関する観点別評価基準

1 基本的素養	不十分	おおむねよい	よい
1 <可能性への期待> すべての参加者を人間として尊重し、一人ひとりの持つ高い可能性を期待する。	・参加者への尊重に一貫性を欠く。 ・参加者の可能性に対して不適切な期待を持つ。	・参加者を尊重している。 ・参加者の可能性に概ね適切な期待を持つ。	・参加者を尊重している。 ・参加者の可能性の多様性を踏まえ、適切な期待を持つ。
2 <期待される人間性> 指導者として、参加者に期待する望ましい価値、態度、行動を示し、それを促進できる。	・参加者との境も自身で区別できない。 ・参加者に不適切な例を示す。	・指導者としての良識を備えている。 ・参加者に概ね適切な例を示す。	・指導者としての良識を備えている。 ・参加者に望ましい適切な例を示す。
3 <応答的な人間関係> 参加者との良好かつ建設的な人間関係を築く。	・触れ合いの場を作る意欲に乏しい。 ・研修や他者の助言により、良好な関係を築くことができる。	・触れ合う場を考えている。 ・対話を大切にし、概ね良好な関係を築くことができる。	・多くの場で触れ合うことを考えている。 ・うまく対話し、良好な関係を築くことができる。
4 <協力的な人間関係> 指導者仲間と良好な人間関係を築き、実践・研究・協働の場で貢献する。	・実践、研究、協働に受け身的である。 ・貢献意欲に欠ける。	・実践、研究、協働に主体的に関わる。 ・概ね効果的に貢献することができる。	・実践、研究、協働に主体的に関わる。 ・効果的に貢献することができる。

表1-2 スポーツ指導者の質と水準に関する観点別評価基準

1 基本的素養	不十分	おおむねよい	よい
5 <実践的指導力の向上> 企画力・計画力・指導力を自己評価し、指導者仲間の実践的指導や事例から学ぶことを通じて、自らの実践的指導力の向上を図る。	・自身の指導を評価したり、改善したりする必要性を理解しない。 ・研修への意欲に欠ける。	・研修や他者の助言により、自身の指導を評価できる。 ・改善の視点を理解する。	・自身の指導を評価できる。 ・研修や他者の助言により、効果的に改善できる。
6 <地域の役割理解> 地域の役割や文化を理解し、良識的かつ効果的に対応する。	・地域への対応が画一的、断片的である。 ・効果的な対応に努力を要する。	・研修や他者の助言により、地域と概ね効果的な対応ができる。	・研修や他者の助言により、地域と場面に応じた効果的な対応ができる。
2 知識・理解	不十分	おおむねよい	よい
7 <基礎的な知識・技能> 身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能の目標や内容を理解する。	・参加者に応じた、指導目標や内容について理解が不十分である。	・参加者に応じた、指導目標や内容については断片的であるが、ある程度理解している。	・総括的に参加者ごとの指導目標や内容について理解している。
8 <系統的な指導計画の作成> 身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能について、系統的指導計画の作成について理解する。	・系統的指導の意味理解も十分ではない。 ・指導計画の作成についても研修の必要がある。	・種目等への理解を示す。 ・系統的指導の計画作成について、研修や他者の助言により、それなりに理解できる。	・系統的指導の意味を十分理解している。 ・計画作成について手順、方法などが分かる。
9 <知識・用具の理解と分析> 技術の習得、技能の向上の基礎となる練習方法の工夫・用具の意味や分析の方法を理解する。	・練習方法や用具の工夫の意味やその情報収集、分析方法などについて理解が不足している。	・練習方法や用具の工夫の意味、特性がわかる。 ・参加者の実態に応じた大まかな種目分析の工夫と方法を理解している。	・参加者の実態を考慮し、練習方法や用具の選択、活用、時間配列、系統性など総括的な分析の方法を理解している。
10 <指導計画作成・指導方法> 指導計画や指導の方法を理解する。	・基礎的な1回単位の指導案(日案)や指導方法についての理解が不十分である。	・基礎的な年間(月間)指導計画、日案や指導方法について概ね理解している。	・年間(月間)指導計画、日案や指導方法について理解している。 ・相互関連を考慮することができる。
11 <評価の理解> 評価について理解する。	・評価の意味や評価方法の理解が不足している。	・指導目標への到達状況を見取る評価の意味や基礎的な評価方法を概ね理解している。	・参加者の到達状況を適切に捉えるための多様な評価方法を理解している。
12 <ICT使用> 指導におけるICT使用について理解する。 (ICT=Information Communication Technology)	・ICTへの理解が不十分である。	・ある程度の知識がある。 ・補助的な使用について理解している。	・ソフトとハードの知識を備えている。 ・ICTを指導に使用する方法を理解している。

表1-3 スポーツ指導者の質と水準に関する観点別評価基準

2 知識・理解	不十分	おおむねよい	よい
<p>13<基礎条件・発達></p> <p>参加者の基礎条件（既存の知識・経験・達成度等）や発達について理解する。</p>	<p>・知識や理解が不十分である。</p>	<p>・概ね理解している。 ・研修や他者の助言により参加者の状況を把握できる。</p>	<p>・理解している。 ・個々の参加者の状況を考慮した計画を立案できる。</p>
<p>14<要支援者への理解></p> <p>支援を必要とする参加者（障害者等）について理解する。</p>	<p>・知識や理解が不十分である。</p>	<p>・特徴や指導方法について概ね理解している。</p>	<p>・特徴や指導方法、多様なニーズについて理解している。</p>
<p>15<スポーツマンシップの指導></p> <p>スポーツマンシップの価値、規範について理解する。</p>	<p>・知識や理解が不十分である。</p>	<p>・ある程度理解している。</p>	<p>・実態に即して考え理解している。</p>
3 指導①目標・計画	不十分	おおむねよい	よい
<p>16<指導目標の設定></p> <p>身につけさせたい基礎的・基本的な知識・技能を踏まえて、参加者の実態に応じた適切な指導目標を設定する。</p>	<p>・参加者の実態把握にむらがある。 ・指導目標を設定するには努力を要する。</p>	<p>・参加者の実態をある程度把握している。 ・実態に応じた指導目標を設定できる。</p>	<p>・参加者の実態を的確に把握している。 ・実態に応じた指導目標を設定できる。</p>
<p>17<指導計画・日案の作成></p> <p>参加者の段階、興味・関心などの多様性を考慮して、年間（月間）指導計画と1回単位の指導案を立案する。</p>	<p>・計画、立案に努力を要する。</p>	<p>・参加者の活動状況、興味・関心を考慮した指導計画、指導案を作成できる。</p>	<p>・参加者の多様性に応じた指導計画、指導案を作成できる。</p>
<p>18<指導計画・日案の修正></p> <p>参加者の到達状況に応じて指導計画、指導案を修正する。</p>	<p>・計画を修正することが困難である。</p>	<p>・概ね適切に修正することができる。</p>	<p>・適切に修正できる。</p>
<p>19<知識・用具の準備・開発></p> <p>目標到達のために必要な技術の習得、技能の向上の基礎となる練習方法や用具を選択したり、開発したりする。</p>	<p>・練習方法や用具の選択、開発が困難である。</p>	<p>・練習方法や用具の選択、開発が概ね組織化している。</p>	<p>・情報を多方面から集めた上で、適切な分析と組織化ができる。 ・新たな開発にも意欲を示す。</p>
<p>20<指導計画の作成></p> <p>見通しをもった短期・長期の指導計画を立案する。</p>	<p>・研修や他者の助言を通して、ある程度立案できる。</p>	<p>・研修や他者の助言を通して、適切に立案できる。</p>	<p>・見通しをもって立案できる。</p>
<p>21<体験指導の計画></p> <p>体験指導（遠征・合宿等）を想定しての活動計画を立案する。</p>	<p>・研修や他者の助言を通して、ある程度の立案ができる。</p>	<p>・体験指導のねらいを把握している。 ・自分なりにねらいに即した活動計画を立案できる。</p>	<p>・参加者の実態を把握している。 ・体験指導のねらいに即した活動計画を立案できる。</p>

表1-4 スポーツ指導者の質と水準に関する観点別評価基準

4 指導②実施	不十分	おおむねよい	よい
<p>22<指導の実習></p> <p>目標に沿って適切に指導を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 適切に指導を行うには努力を要する。 	<ul style="list-style-type: none"> 概ね適切に指導できる。 概念技能を教える際に参加者とコミュニケーションできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ある程度の高い基準にまで指導力が高まっている。
<p>23<個別指導></p> <p>習熟の程度や興味・関心に応じた多様な指導方法、特に個別指導を活用し、適切に実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 個別指導を取り入れることができない。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別指導をある程度適切に活用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別指導を効果的に活用することができる。
<p>24<グループ指導></p> <p>習熟の程度や興味・関心に応じた多様な指導方法、特にグループ指導を活用し、適切に実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> グループ指導を取り入れることができない。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ指導をある程度適切に活用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ指導を効果的に活用することができる。
<p>25<指導時間の有効活用></p> <p>指導目標の具現化をめざし、有効に時間を使う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 時間配分が効果的でない。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修や他者の助言により、効果的な時間配分ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 効果的な時間配分ができる。
<p>26<練習方法や用具の選択></p> <p>安全でかつ有効な練習方法や用具を選択してそれを使用し管理する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 実施、管理するには不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修や他者の助言により実施、管理できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 組織化された安全な指導空間で実施・管理できる。
<p>27<発展的・補充的な課題></p> <p>参加者の実態に応じた適切な課題を課し、補充・発展的な習得を促進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 研修や他者の助言により、補充的な課題を課すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 概ね適切な補充・発展的な課題を、課すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 適切な補充・発展的な課題を課し、活動と関連付けることができる。
5 指導③評価	不十分	おおむねよい	よい
<p>28<評価方法とその活用></p> <p>さまざまな見取りと評価方法を適切に使用し、それを指導計画と指導の改善に生かす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 指導と評価は表裏一体であることへの理解が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修や他者の助言により、評価を使用した指導計画と指導の改善に着手できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価を使用し、指導計画と指導の改善に生かすことができる。
<p>29<即時的な評価・フィードバック></p> <p>指導における即時的かつ適切な評価とフィードバックを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 指導中の評価（採点等）が形式的。 フィードバックを行うには努力を要する。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導中の評価（採点等）が概ね適切である。 フィードバックに役立つよう工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導中の評価が適切である。 効果的なフィードバックを行うことができる。
<p>30<目標に基づいた評価></p> <p>身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能の到達目標基準に基づき、参加者の到達状況を適切に評価する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 指導目標の理解が十分ではない。 評価基準に沿って参加者の到達状況を評価するには努力を要する。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導目標を基本的に理解している。 評価基準に沿った到達状況の評価ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導目標を理解している。 評価基準に沿った到達状況の厳格な評価ができる。

表1-5 スポーツ指導者の質と水準に関する観点別評価基準

5 指導③評価	不十分	おおむねよい	よい
<p>31<活動状況の適切な把握・記録></p> <p>参加者の活動状況・到達状況を的確に把握し記録する。</p>	<p>・適切に記録することが困難である。</p>	<p>・概ね記録できる。</p>	<p>・第3者が理解できるように組織的に記録することができる。</p>
6 指導④観察・分析	不十分	おおむねよい	よい
<p>32<話し方・聞き方・指名の仕方></p> <p>話し方、聞き方、指名の仕方等が活動にどのように有効に作用しているか、指導を観察する。</p>	<p>・研修や他者の助言により理解し観察できる。</p>	<p>・基礎基本についてそれなりに理解し観察できる。</p>	<p>・基本的なことは何かをよく理解しながら観察できる。</p>
<p>33<プリント等の活用・記録ノート指導></p> <p>プリント・記載方法の工夫等、記録ノート指導などが参加者の活動にどのように有効に作用しているか、他者の指導を観察する。</p>	<p>・研修や他者の助言により観察の視点が分かる。</p>	<p>・プリントの意義、記載方法の工夫の価値などが分かり、観察できる。</p>	<p>・効果的なプリントや記載方法を工夫することの有効性を理解しながら観察できる。</p>
<p>34<技能、用具の活用・利用></p> <p>指導内容に適した練習方法や用具の活用の仕方について他者の指導を観察し、効果的な扱いを指導に生かす。</p>	<p>・研修や他者の助言により観察の視点が分かる。</p>	<p>・指導目標到達のために自分で視点を決めて観察できる。</p>	<p>・よりよい指導のために、有効に活用・利用するよう観察できる。</p>
<p>35<指導者と参加者の関わり></p> <p>目標達成の観点から学びあいの場における指導者と参加者同士の関わり合いについて指導を観察する。</p>	<p>・研修や他者の助言により観察の視点が分かる。</p>	<p>・関連的な関わりの大事が分かり観察できる。</p>	<p>・よりよい関連性の意義を十分理解しながら観察できる。</p>
<p>36<個への支援></p> <p>指導者による参加者の活動状況に応じた支援の仕方・対応について、指導を観察する。</p>	<p>・研修や他者の助言により観察の視点が分かる。</p>	<p>・個を理解し問題点を模索するなかで、その場に応じた効果的な対応を考えて観察できる。</p>	<p>・個の実態を理解したうえで、よりよい対応を考えて観察できる。</p>
<p>37<指導評価></p> <p>課題解決のためにどのように指導評価を効果的に行っているかについて、指導を観察する。</p>	<p>・研修や他者の助言により観察の視点が分かる。</p>	<p>・ある程度の指導評価の意味、活用技術を理解するなかで観察できる。</p>	<p>・活動の実態を捉えた課題、まとめの評価、参加者の自己評価なども理解しながら観察できる。</p>
<p>38<マナー・約束></p> <p>活動の場におけるマナーや約束ごとを知り、その意図を理解して観察する。</p>	<p>・研修や他者の助言により観察の視点が分かる。</p>	<p>・理解を示しながら観察できる。</p>	<p>・十分意識し、その大切さに理解を示しながら観察できる。</p>

表1-6 スポーツ指導者の質と水準に関する観点別評価基準

6 指導④観察・分析	不十分	おおむねよい	よい
<p>39<活動記録></p> <p>明瞭な活動記録の取り方が分かり整理・記録する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修や他者の助言により実践することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ある程度の即時的な活動記録の取り方が分かる。 ・記録をまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動記録の意義を理解している。 ・明確な目的のもとに即時的な記録を取ることができる。
<p>40<活動分析></p> <p>活動結果の分析から次時の指導に向けた計画実践への指針を得る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修や他者の助言により計画することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりに次時の指針を考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分析を生かしながら次時の指導の指針を考えることができる。
7 指導現場の 経営・運営	不十分	おおむねよい	よい
<p>41<参加者との良好な信頼関係></p> <p>参加者との多様な関わりを通して参加者を理解し、良好な信頼関係をつくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・信頼関係を築くためには努力を要する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・良好な信頼関係をつくるために努力している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの場で進んで参加者との関わりをもつ。 ・よりよい信頼関係をつくることに努力している。
<p>42<指導環境の整備></p> <p>参加者の活動を促進する指導環境の整備と指導時間の有効利用をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修や他者の助言により有効利用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境整備と指導時間の有効利用ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の促進に役立つ環境整備と多様な指導時間の有効利用ができる。
<p>43<公正な指導環境風土の構築></p> <p>公正と互いの尊厳を促す指導の場における風土づくりを設定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・設定が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修や他者の助言により、ある程度設定できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多角的方策を考慮した考えを実践する。 ・公正と尊厳に満ちた指導の場における風土づくりを設定できる。
<p>44<規律の確立・維持></p> <p>互いの行動に関する規律をつくり、その枠組みを確立し、それを維持する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一貫性のない不適切な枠組みをつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者との話し合いのもとで規律をつくる。 ・その枠組みを確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの行動に関する規律を十分話し合わせてつくる。 ・その枠組みを確立し、その履行に努める。
<p>45<いじめ・不登校等への対応></p> <p>いじめ、不登校等の問題を理解し、即時的かつ効果的に対応する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・理解が乏しく、その対応に努力を要する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修や他者の助言により対応できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決のために自主的な方策等を継続的に進めることができる。
<p>46<要支援者への対応></p> <p>指導現場の中での支援を要する参加者（障害者等）を理解し対応する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・理解が不十分である。 ・対応に努力を要する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者のニーズや経験を意識して対応することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理解している。 ・組織的に対応することができる。

表 1-7 スポーツ指導者の質と水準に関する観点別評価基準

8 組織理解と運営への協力	不十分	おおむねよい	よい
<p>47<組織・運営の理解・協力></p> <p>組織・運営を理解し、協力、参加する。</p>	<p>・組織への理解が不十分である。</p>	<p>・ある程度理解し協力、参加することができる。</p>	<p>・組織と運営を理解し、協力、参加することができる。</p>
<p>48<組織における役割分担の理解></p> <p>組織における役割分担と、その機能を理解する。</p>	<p>・機能への理解が不十分である。</p>	<p>・機能についてある程度理解している。</p>	<p>・機能性を深める努力をしている。</p>
<p>49<安全性・事故防止への理解></p> <p>活動における安全性への配慮について理解し、指導中の事故防止（指導環境等の工夫）に努める。</p>	<p>・事故防止への理解が不十分である。</p>	<p>・研修や他者の助言により、指導中の事故防止に努めることができる。</p>	<p>・活動における安全性の配慮について理解し、指導中の事故防止に努める。</p>
<p>50<事故対応等への理解></p> <p>活動における事故（参加者の急変等）対応について理解し、即時かつ効果的に対応する。</p>	<p>・事故対応への理解が不十分である。</p>	<p>・研修や他者の助言により、対応できる。</p>	<p>・活動における事故対応について理解し、即時かつ効果的に対応している。</p>

【開発した観点別評価基準による調査】

今回開発した観点別評価基準について検証するために、県スポーツリーダーバンク登録指導者と県スポーツ指導者連絡協議会登録指導者を対象に3段階評価（「不十分」、「おおむねよい」、「よい」）による「自己評価」を実施した。その中で、それぞれの設問の必要性の有無、今回設定した50の項目以外に、スポーツ指導者が身につけておくことが望ましい基礎・基本の知識・技能等について調査した。

1 回答者の属性（巻末資料参照）

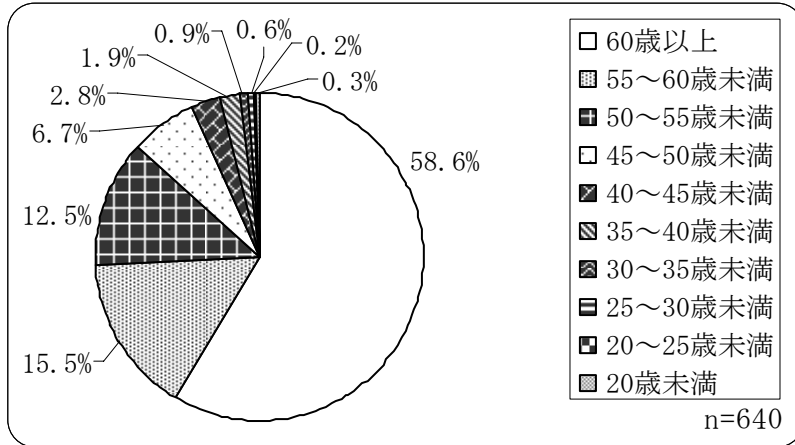


図1 年齢

調査対象としたスポーツ指導者の年齢について、50歳以上が8割以上であり、そのうち、60歳以上は約6割であった。（問1）

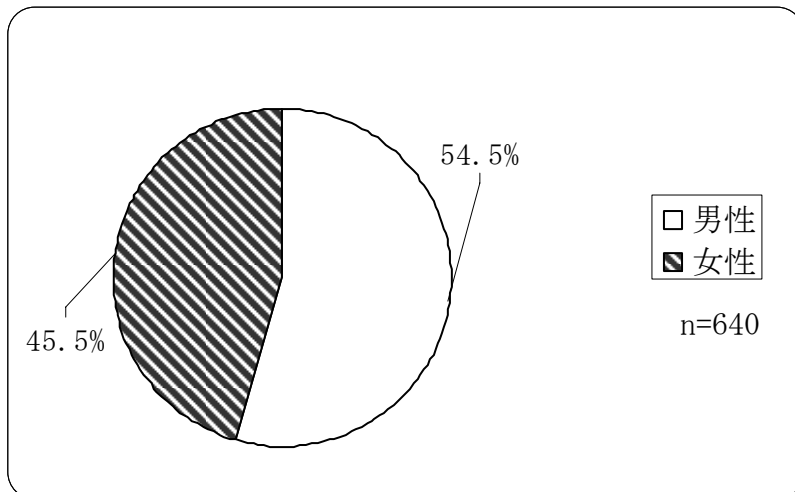


図2 性別

調査対象としたスポーツ指導者の性別は、ほぼ男女半々であった。（問2）

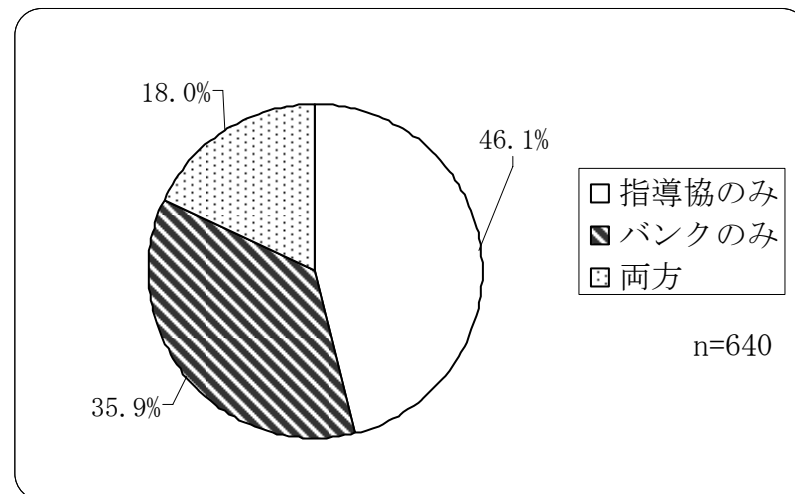


図3 指導者登録する団体（複数回答可）

調査対象としたスポーツ指導者の内、神奈川県スポーツ指導者連絡協議会に6割以上が登録しており、神奈川県スポーツリーダーバンクには、5割以上が登録していた（問3）。

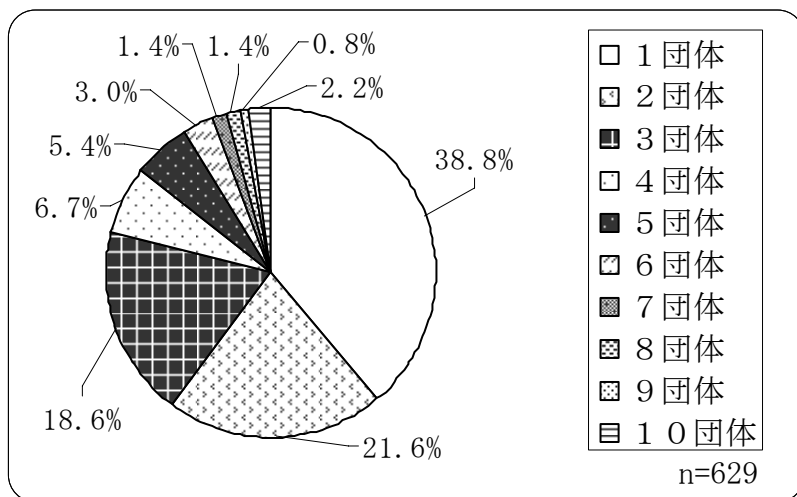


図4 定期的に指導する団体数

スポーツ指導者が定期的に指導する団体数については、1団体が約4割で、ついで2団体が、2割以上であった。(問4)

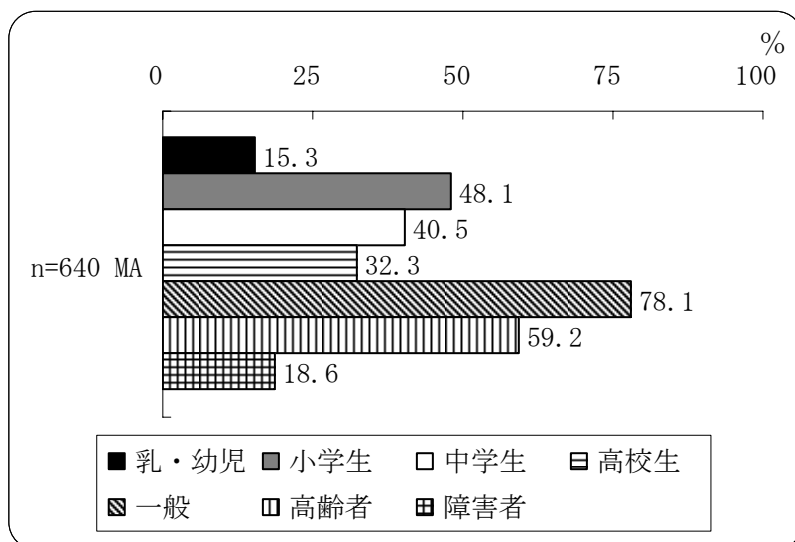


図5 指導対象者 (複数回答可)

スポーツ指導者が指導する対象者は、一般が約8割で、ついで高齢者が約6割、小学生が約5割、中学生が4割であった。(問6)

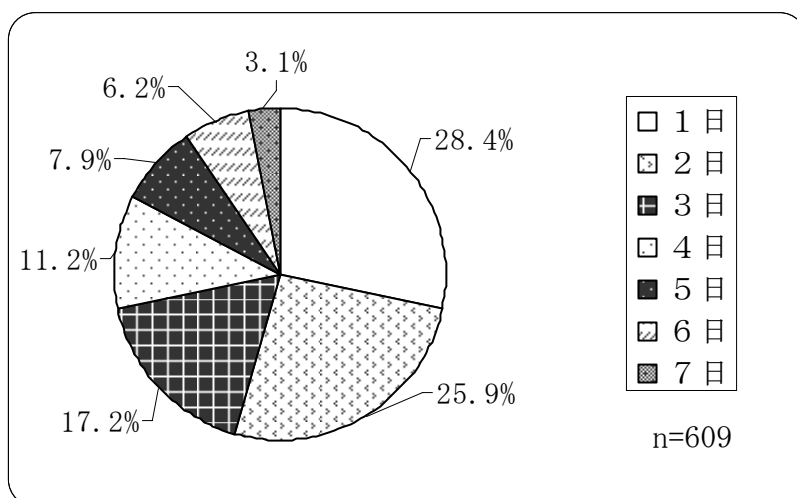


図6 週あたりの平均的指導日数

1週間あたりに指導する平均的な指導日数は、1日と2日が約3割で、3日が約2割であった。(問7)

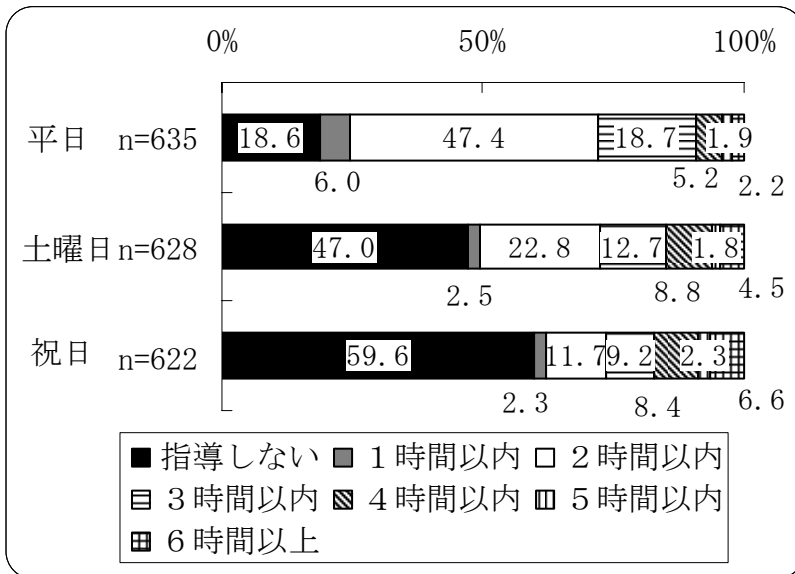


図7 1回あたりの平均的な指導時間

1回あたりの平均的な指導時間は2時間以内が、平日に5割以上、土曜日に2割であった。また、祝日は約6割、土曜日は約5割の指導者が、指導をしていない。(問8)

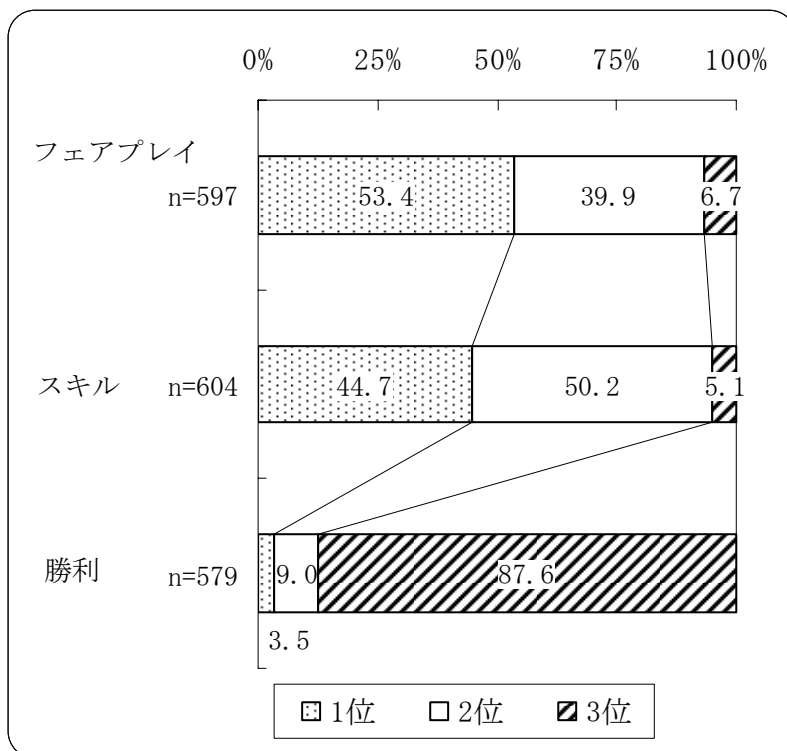


図8 スポーツ指導において重視すること

スポーツ指導において重視することとして、1位をフェアプレイ、2位をスキルとした指導者は5割以上であり、3位を勝利とした指導者は8割以上であった。(問9)

2 単純集計（巻末資料参照）

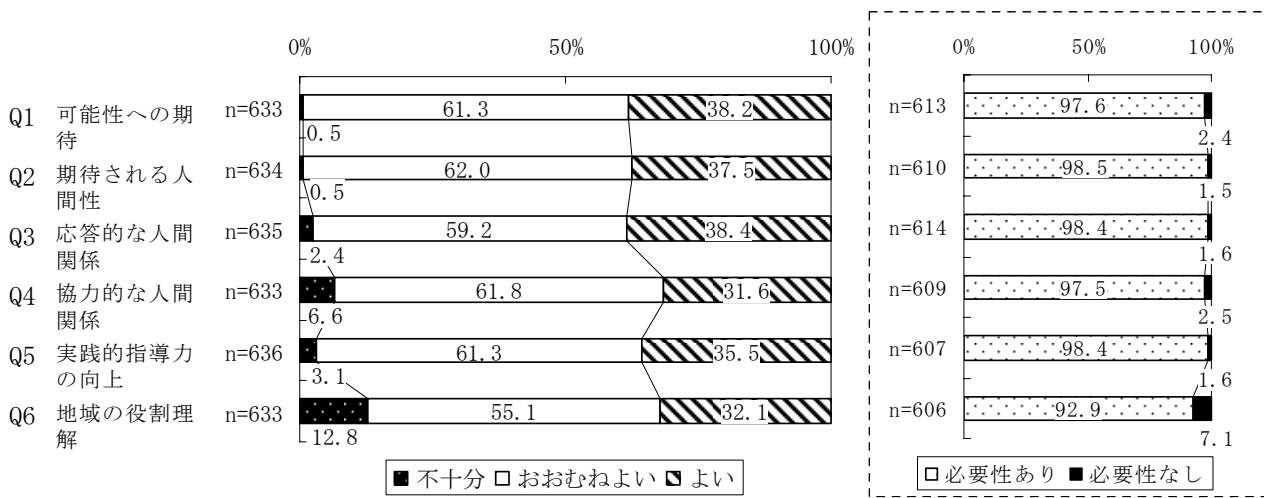


図9 「基本的素養」への評価と必要性の有無

基本的素養として設定した6項目、「可能性への期待」「期待される人間性」「応答的な人間関係」「協力的な人間関係」「実践的指導力の向上」「地域の役割理解」について約6割が、「おおむねよい」と回答した。(Q1～Q6)

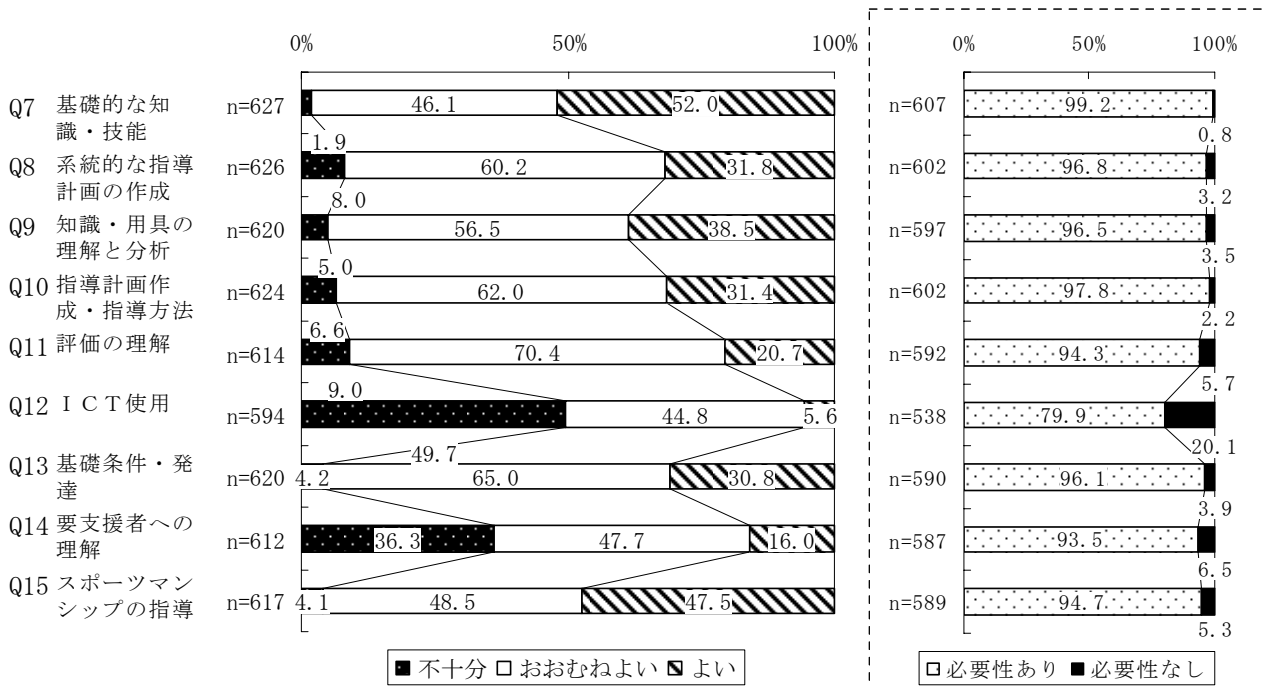


図10 「知識・理解」への評価と必要性の有無

知識・理解として設定した9項目のうち、「基礎的な知識・技能」については約5割が「よい」と回答した。「評価の理解」「基礎条件・発達」の2項目については約7割が、「系統的な指導計画の作成」「知識・用具の理解と分析」「指導計画作成・指導方法」の3項目については約6割が、「要支援者への理解」「スポーツマンシップの指導」の2項目については約5割が、「おおむねよい」と回答した。「ICT使用」については約5割が、「不十分」と回答した。(Q7～Q15)

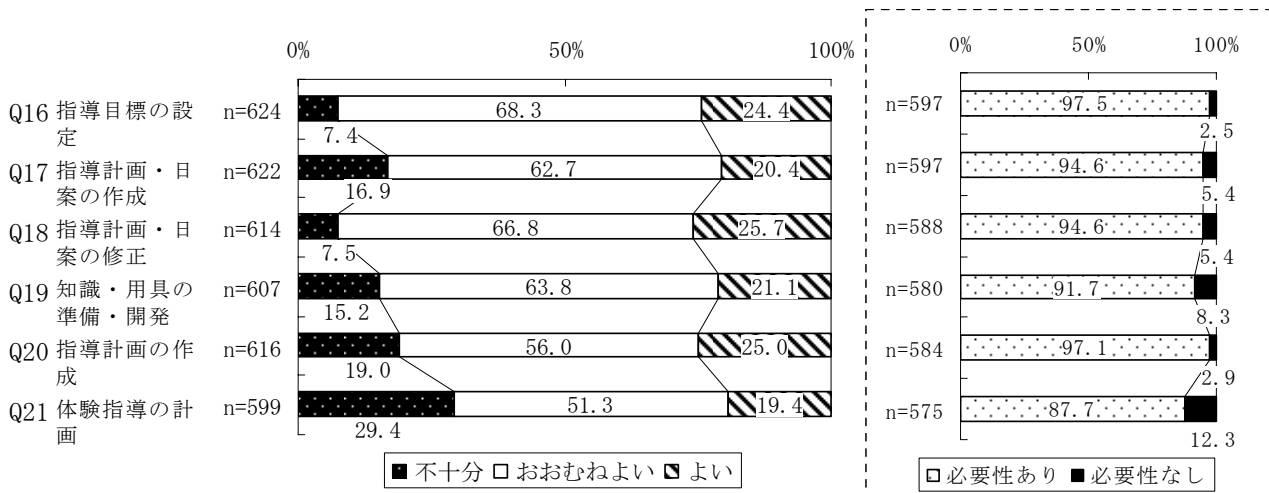


図 11 「指導 1 目標・計画」への評価と必要性の有無

指導 1 目標・計画として設定した 6 項目のうち、「指導目標の設定」「指導計画・日案の修正」の 2 項目については約 7 割が、「指導計画・日案の作成」「知識・用具の準備・開発」「指導計画の作成」の 3 項目については約 6 割が、「体験指導の計画」については約 5 割が「おおむねよい」と回答した。(Q16～Q21)

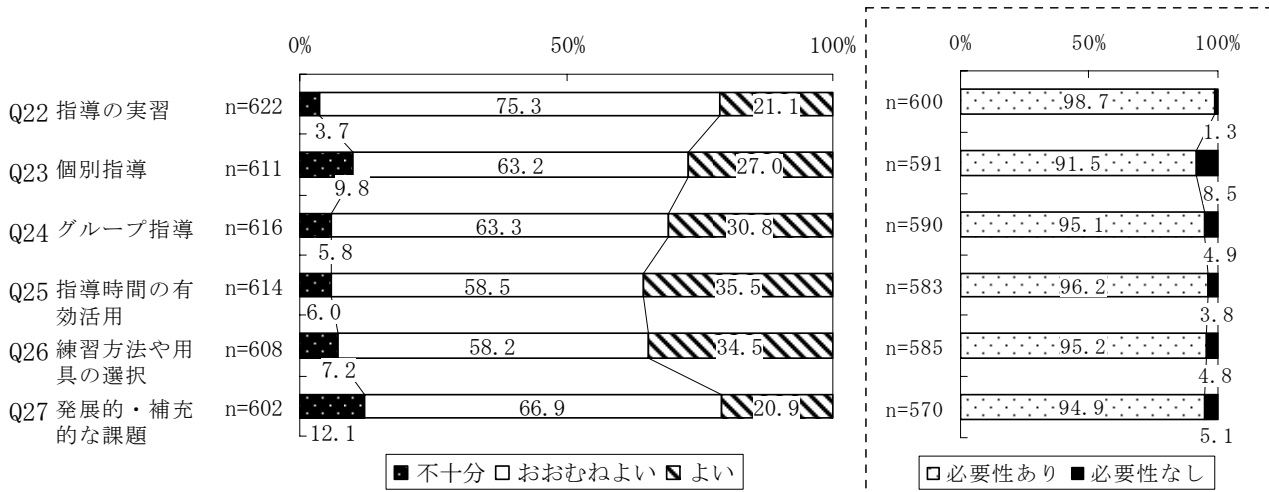


図 12 「指導 2 実施」への評価と必要性の有無

指導 2 実施として設定した 6 項目のうち、「指導の実習」については約 8 割が、「発展的・補足的な課題」については約 7 割が、「個別指導」「グループ指導」「指導時間の有効活用」「練習方法や用具の選択」の 4 項目については約 6 割が、「おおむねよい」と回答した。(Q22～Q27)

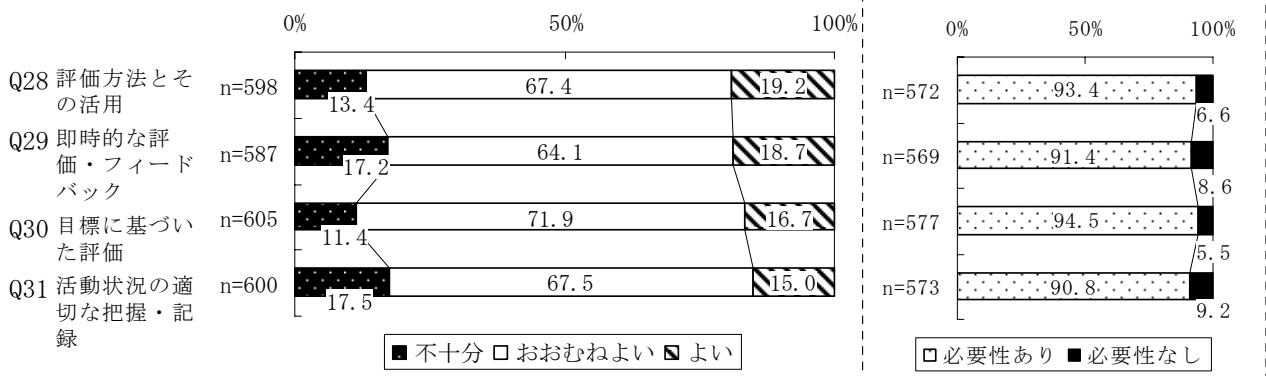


図 13 「指導 3 評価」 への評価と必要性の有無

指導 3 評価について設定した 4 項目のうち、「評価方法とその活用」「目標に基づいた評価」「活動状況の適切な把握・記録」の 3 項目については約 7 割が、「即時的な評価・フィードバック」については約 6 割が、「おおむねよい」と回答した。(Q28～Q31)

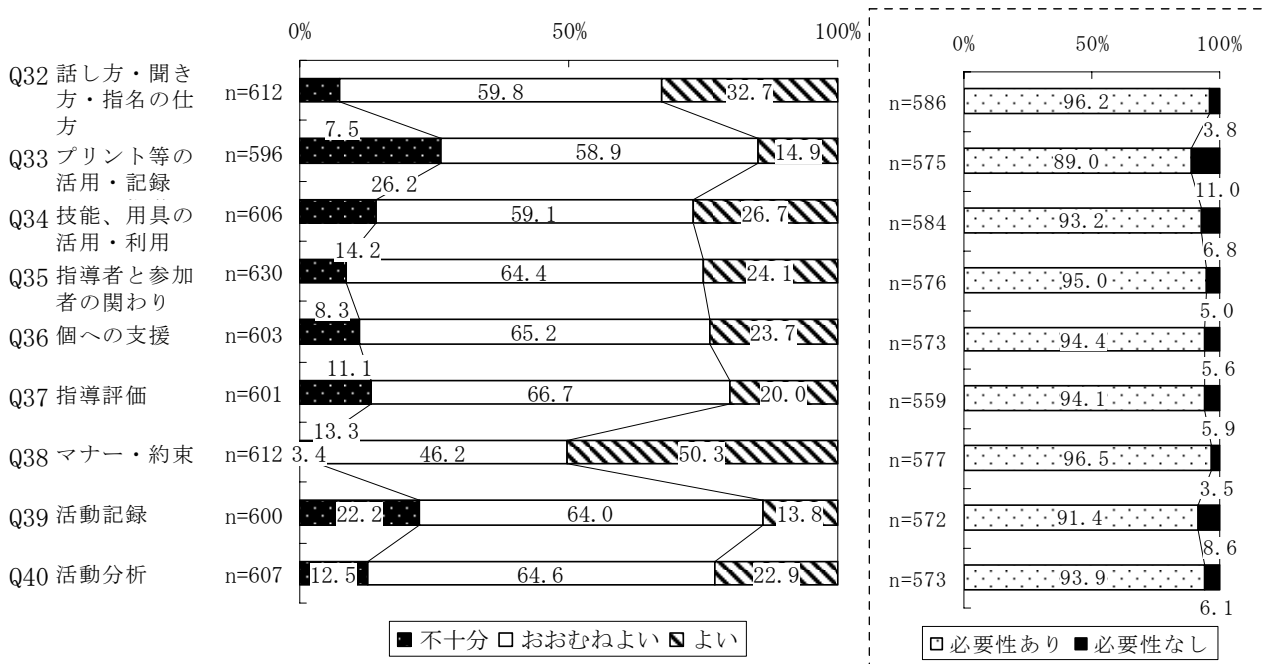


図 14 「指導 4 観察・分析」 への評価と必要性の有無

指導 4 観察・分析について設定した 9 項目のうち、「マナー・約束」については約 5 割が「よい」と回答した。「指導者と参加者の関わり」「個への支援」「指導評価」の 3 項目については約 7 割が、「話し方・聞き方・指名の仕方」「プリント等の活用・記録ノート指導」「技能・用具の活用・利用」「活動記録」「活動分析」の 5 項目については約 6 割が、「おおむねよい」と回答した。(Q32～Q40)

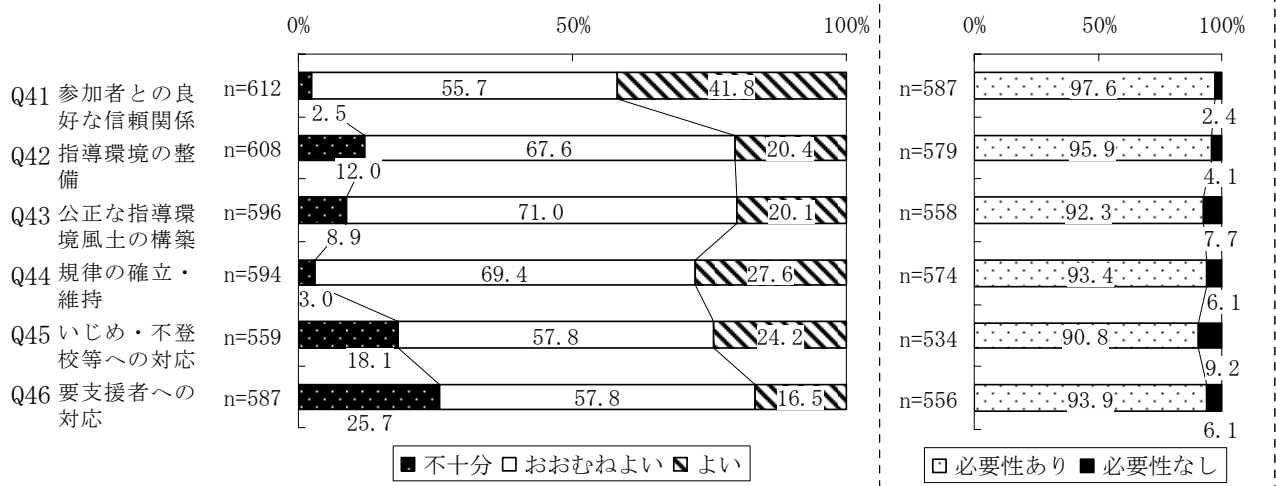


図 15 「指導現場の経営・運営」への評価と必要性の有無

指導現場の経営・運営について設定した6項目のうち、「指導環境の整備」「公正な指導環境風土の構築」「規律の確立・維持」の3項目については約7割が、「参加者との良好な信頼関係」「いじめ・不登校等への対応」「要支援者への対応」の3項目については約6割が、「おおむねよい」と回答した。(Q41～Q46)

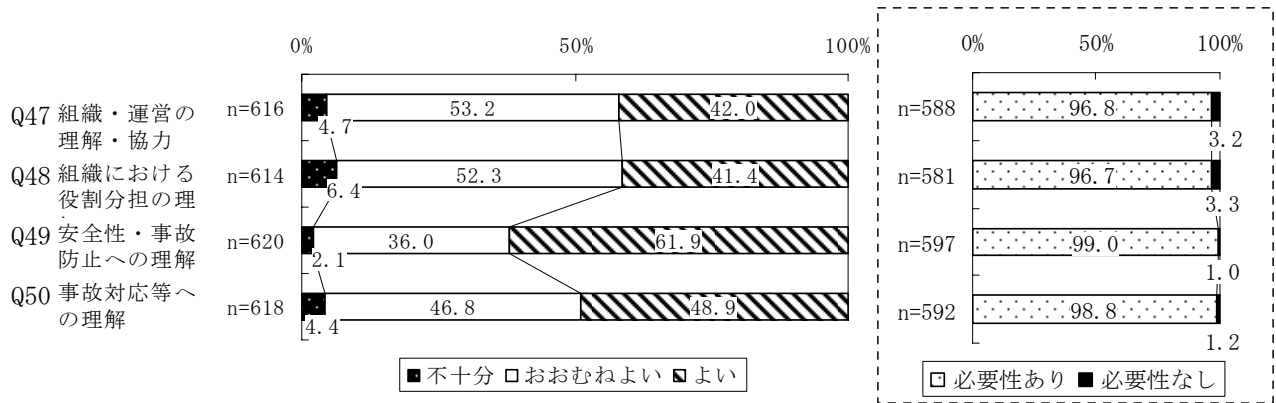


図 16 「組織理解と運営への協力」への評価と必要性の有無

組織理解と運営への協力について設定した4項目のうち、「安全性・事故防止への理解」については約6割が、「事故対応等への理解」については約5割が、「よい」と回答した。「組織・運営の理解・協力」「組織における役割分担の理解」の2項目については約5割が「おおむねよい」と回答した。(Q47～Q50)

3 項目の必要性別クロス集計結果

設定した50項目の必要性の有無と、50項目に対する自己評価をクロス集計した。(カイ2乗検定により、*5%有意、**1%有意、***0.1%有意、を「有意差あり」、n.s.を「非有意」とした。)

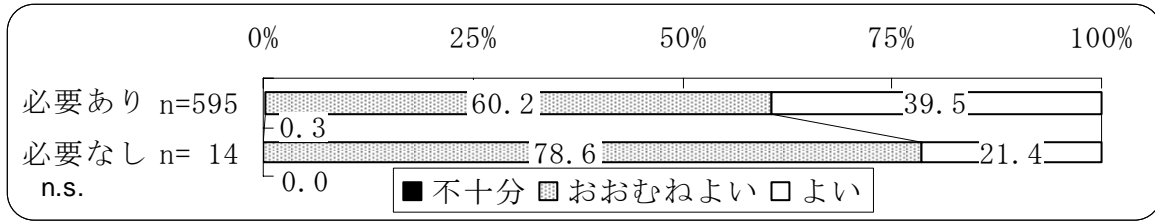


図 17-1 必要性の有無 (縦軸) と基本的素養「Q1 可能性への期待」(横軸) の関連

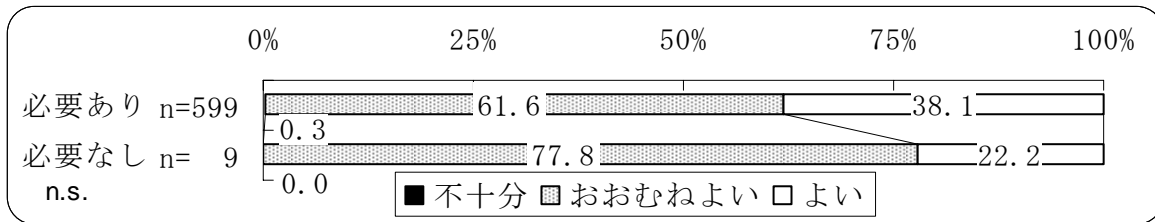


図 17-2 必要性の有無 (縦軸) と基本的素養「Q2 期待される人間性」(横軸) の関連

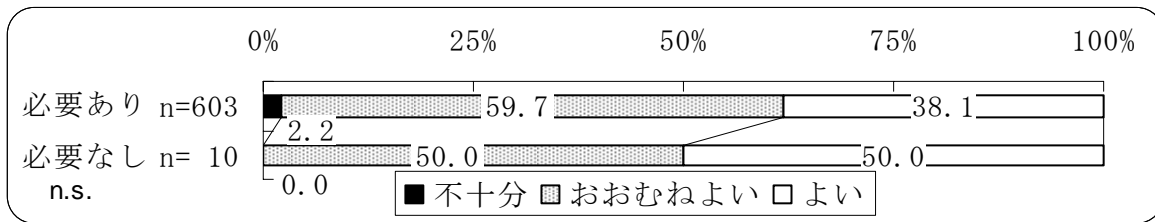


図 17-3 必要性の有無 (縦軸) と基本的素養「Q3 応答的な人間関係」(横軸) の関連

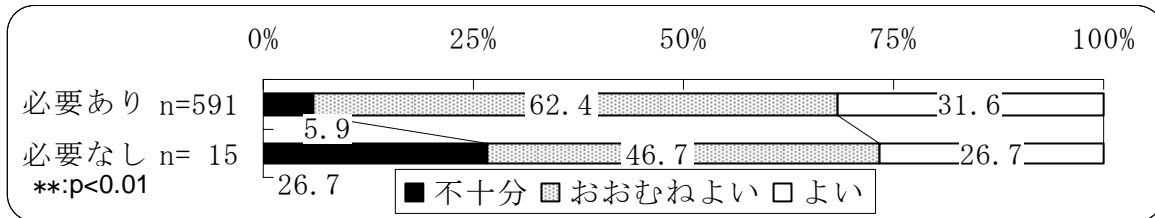


図 17-4 必要性の有無 (縦軸) と基本的素養「Q4 協力的な人間関係」(横軸) の関連

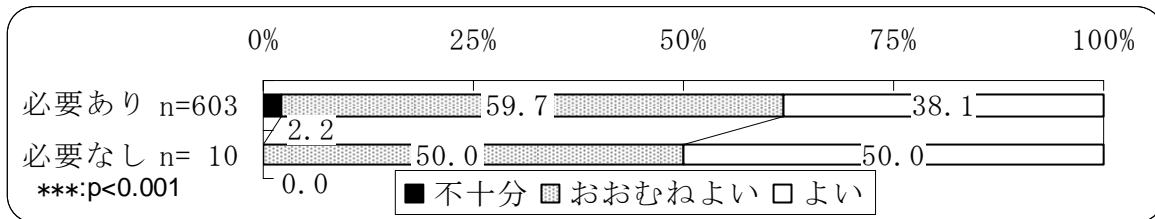


図 17-5 必要性の有無 (縦軸) と基本的素養「Q5 実践的指導力の向上」(横軸) の関連

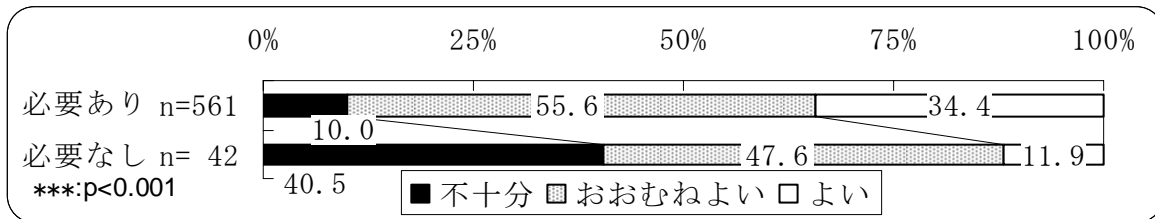


図 17-6 必要性の有無 (縦軸) と基本的素養「Q6 地域の役割理解」(横軸) の関連

基本的素養として設定した6項目のうち「Q4協力的な人間関係」、「Q5実践的指導力の向上」、「Q6地域の役割理解」の3項目について、各項目の必要性の有無とそれぞれの項目の自己評価には有意な差がみられた。

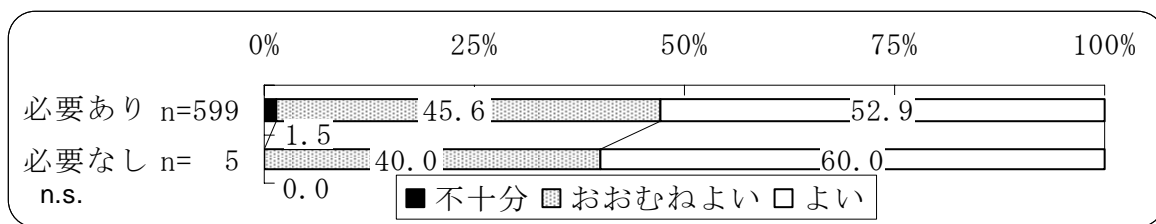


図 17-7 必要性の有無（縦軸）と知識・理解「Q7基礎的な知識・技能」（横軸）の関連

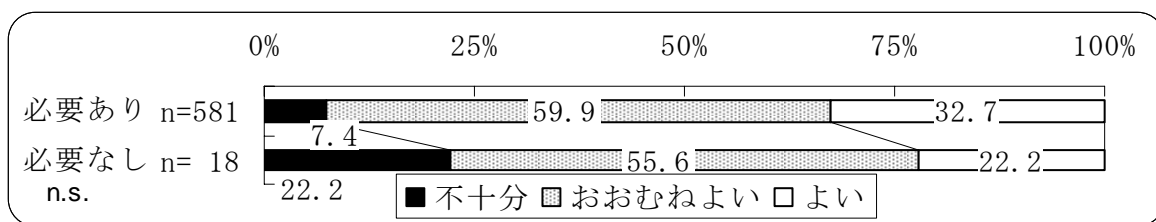


図 17-8 必要性の有無（縦軸）と知識・理解「Q8系統的な指導計画の作成」（横軸）の関連

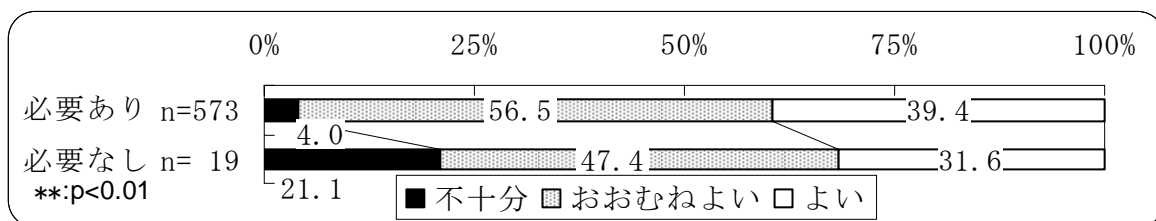


図 17-9 必要性の有無（縦軸）と知識・理解「Q9知識・用具の理解と分析」（横軸）の関連

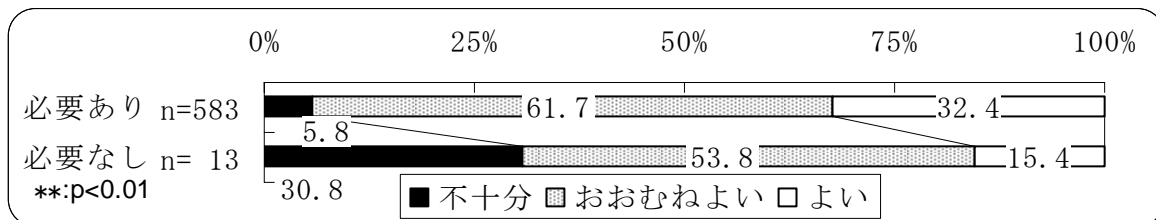


図 17-10 必要性の有無（縦軸）と知識・理解「Q10指導計画作成・指導方法」（横軸）の関連

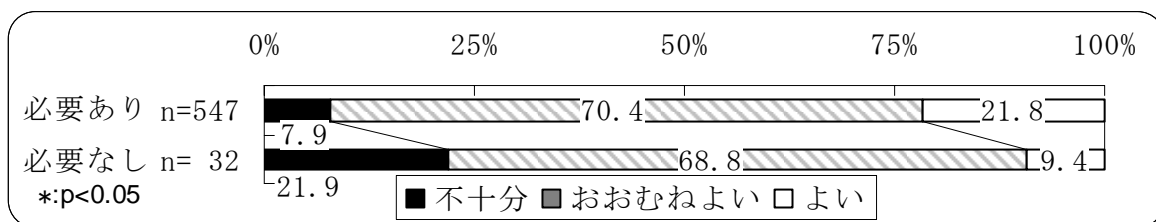


図 17-11 必要性の有無（縦軸）と知識・理解「Q11評価の理解」（横軸）の関連

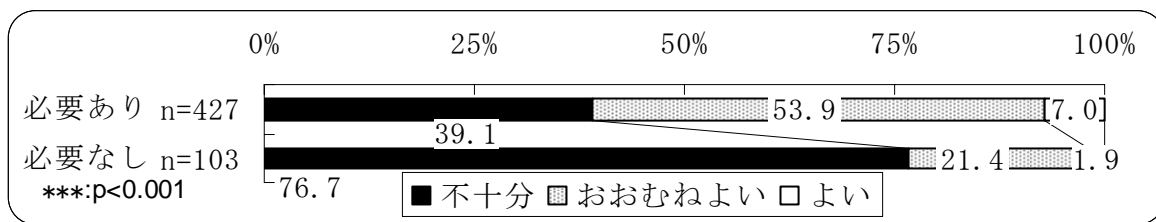


図 17-12 必要性の有無（縦軸）と知識・理解「Q12ICT使用」（横軸）の関連

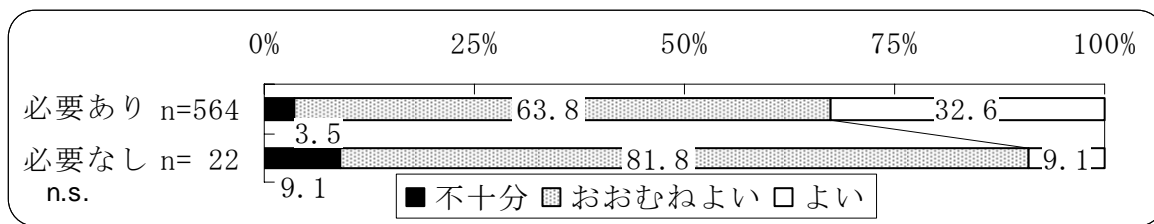


図 17-13 必要性の有無（縦軸）と知識・理解「Q13 基礎条件・発達」の関連

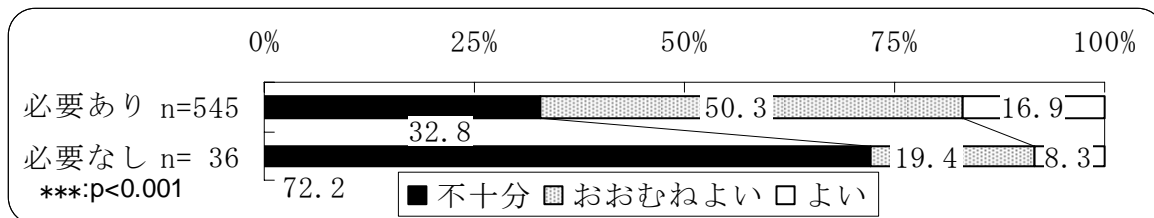


図 17-14 必要性の有無（縦軸）と知識・理解「Q14 要支援者への理解」の関連

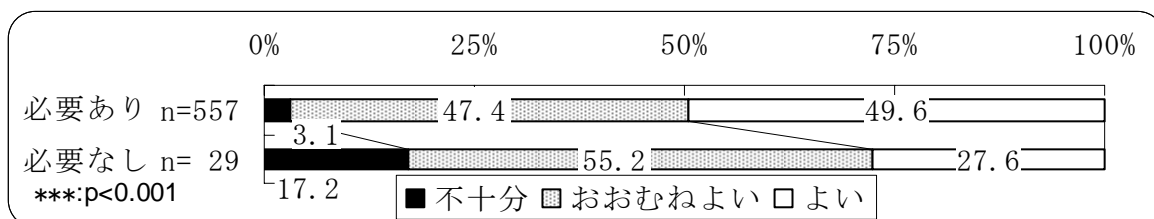


図 17-15 必要性の有無（縦軸）と知識・理解「Q15 スポーツマンシップの指導」の関連

知識・理解として設定した9項目のうち、「Q9 知識・用具の理解と分析」、「Q10 指導計画作成・指導方法」、「Q11 評価の理解」、「Q12 ICT使用」、「Q14 要支援者への理解」、「Q15 スポーツマンシップの指導」の6項目について、各項目の必要性の有無とそれぞれの項目の自己評価には有意な差がみられた。

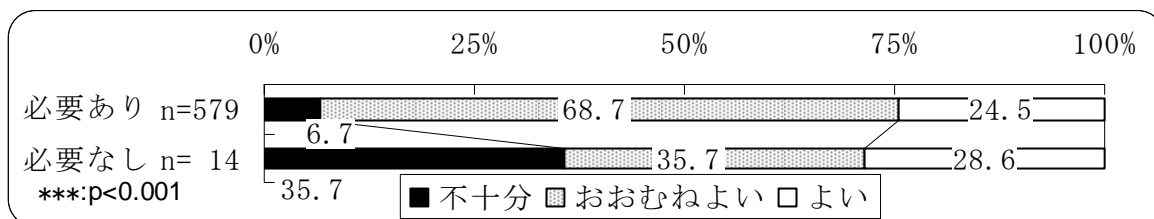


図 17-16 必要性の有無（縦軸）と指導1目標・計画「Q16 指導目標の設定」の関連

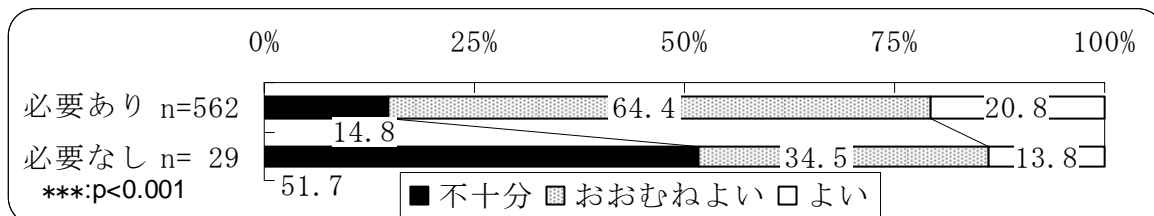


図 17-17 必要性の有無（縦軸）と指導1目標・計画「Q17 指導計画・日案の作成」の関連

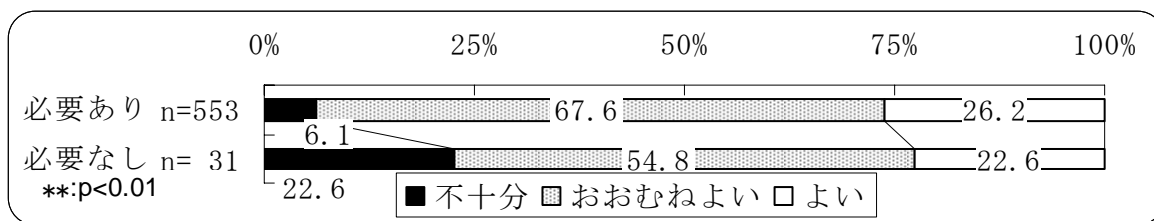


図 17-18 必要性の有無（縦軸）と指導 1 目標・計画「Q18 指導計画・日案の修正」（横軸）の関連

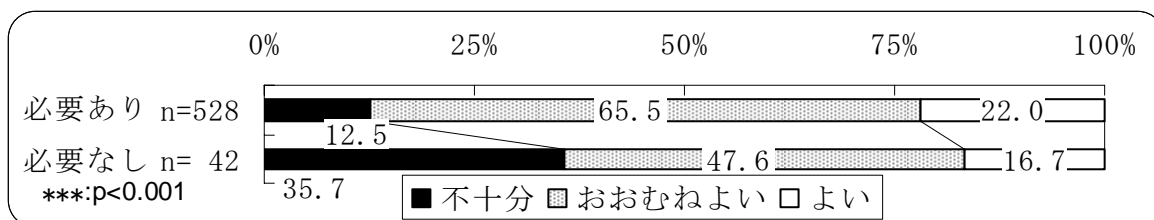


図 17-19 必要性の有無（縦軸）と指導 1 目標・計画「Q19 知識・用具の準備・開発」（横軸）の関連

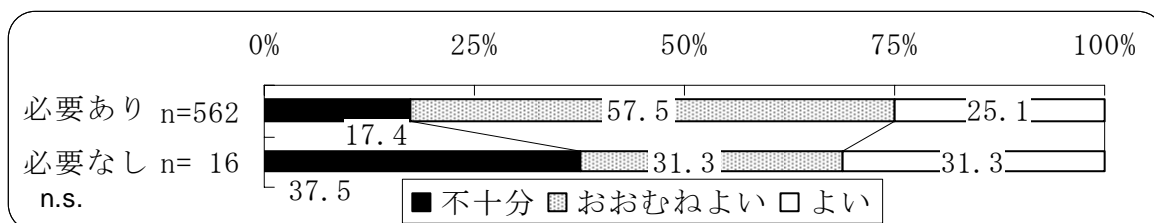


図 17-20 必要性の有無（縦軸）と指導 1 目標・計画「Q20 指導計画の作成」（横軸）の関連

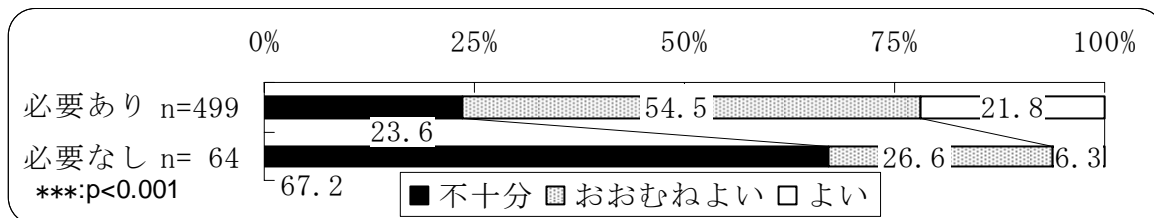


図 17-21 必要性の有無（縦軸）と指導 1 目標・計画「Q21 体験指導の計画」（横軸）の関連

指導 1 目標・計画として設定した 6 項目のうち「Q16 指導目標の設定」、「Q17 指導計画・日案の作成」、「Q18 指導計画・日案の修正」、「Q19 知識・用具の準備・開発」、「Q21 体験指導の計画」の 5 項目について、各項目の必要性の有無とそれぞれの項目の自己評価には有意な差がみられた。

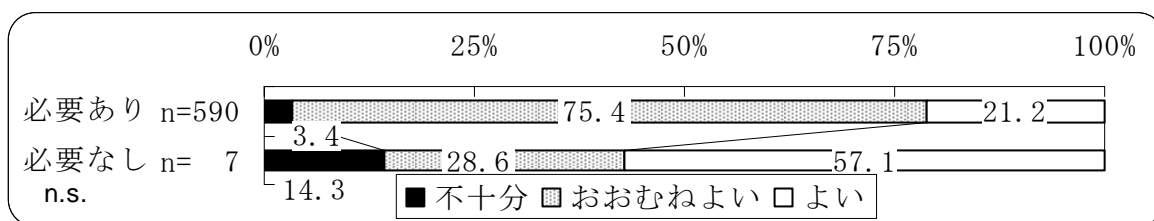


図 17-22 必要性の有無（縦軸）と指導 2 実施「Q22 指導の実習」（横軸）の関連

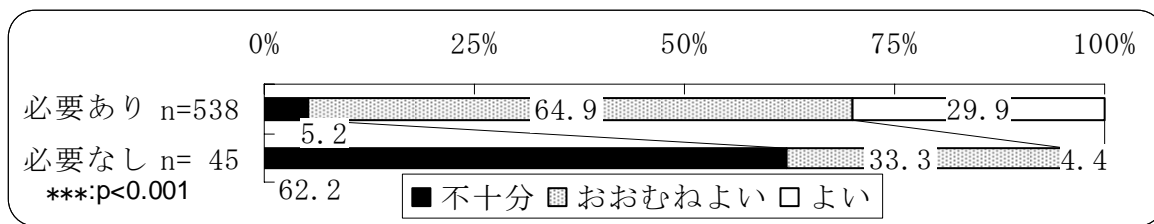


図 17-23 必要性の有無（縦軸）と指導 2 実施「Q23 個別指導」（横軸）の関連

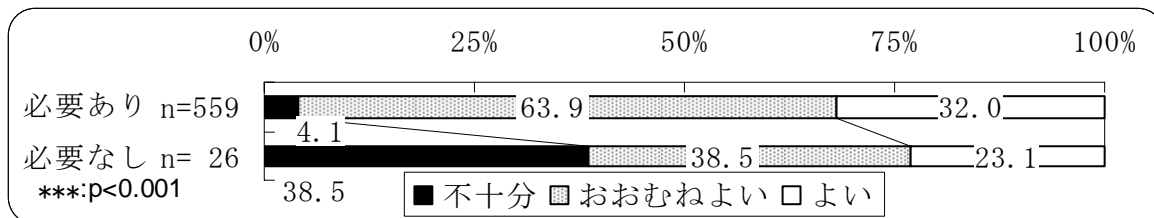


図 17-24 必要性の有無（縦軸）と指導 2 実施「Q24 グループ指導」（横軸）の関連

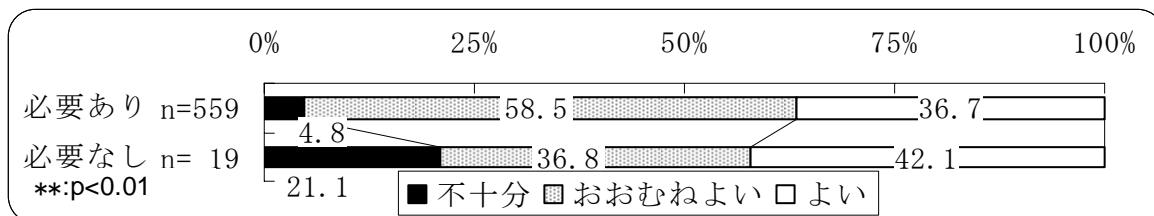


図 17-25 必要性の有無（縦軸）と指導 2 実施「Q25 指導時間の有効活用」（横軸）の関連

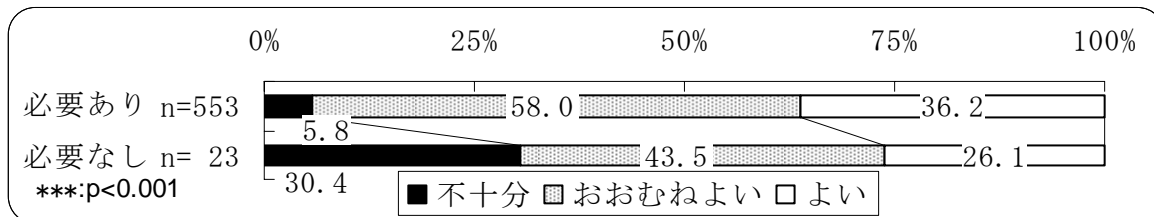


図 17-26 必要性の有無（縦軸）と指導 2 実施「Q26 練習方法や用具の選択」（横軸）の関連

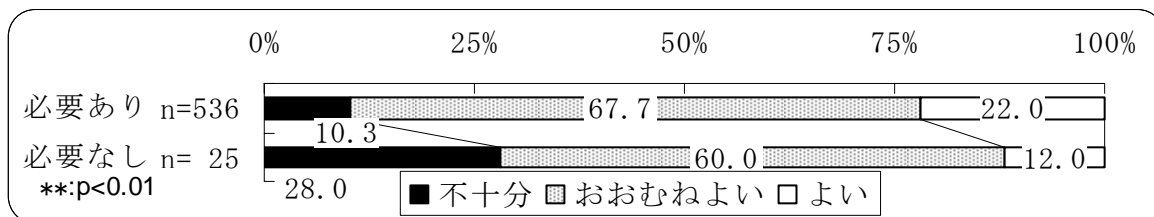


図 17-27 必要性の有無（縦軸）と指導 2 実施「Q27 発展的・補足的な課題」（横軸）の関連

指導 2 実施として設定した 6 項目のうち「Q23 個別指導」、「Q24 グループ指導」、「Q25 指導時間の有効活用」「Q26 練習方法や用具の選択」、「Q27 発展的・補足的な課題」の 5 項目について、各項目の必要性の有無とそれぞれの項目の自己評価には有意な差がみられた。

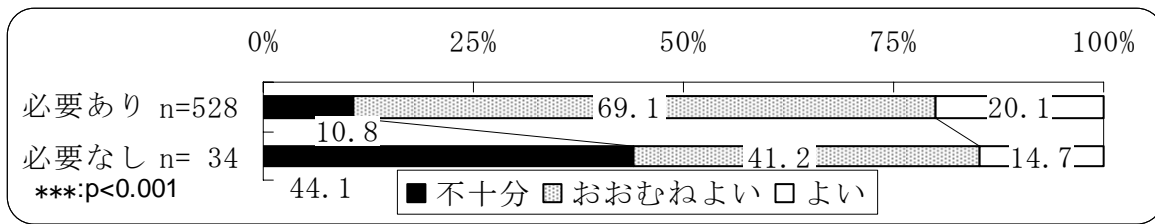


図 17-28 必要性の有無（縦軸）と指導 3 評価「Q28 指導評価とその活用」（横軸）の関連

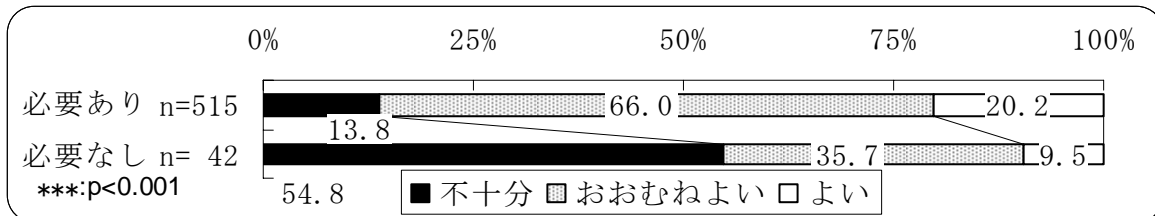


図 17-29 必要性の有無（縦軸）と指導 3 評価「Q29 即時的な評価・フィードバック」（横軸）の関連

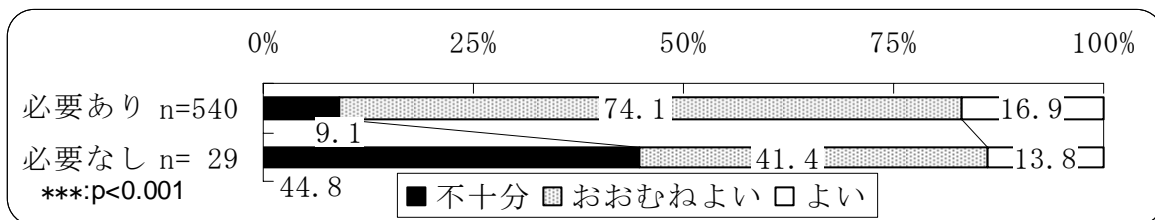


図 17-30 必要性の有無（縦軸）と指導 3 評価「Q30 目標に基づいた評価」（横軸）の関連

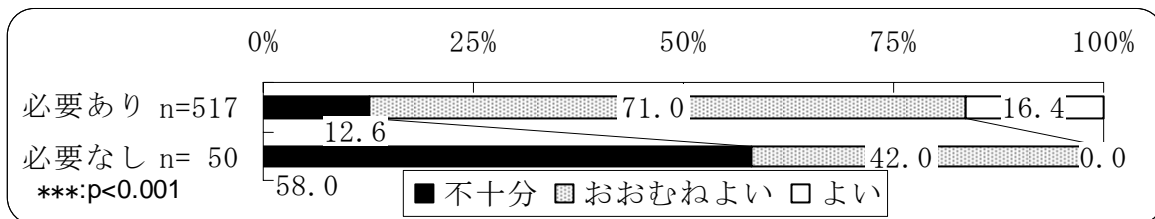


図 17-31 必要性の有無（縦軸）と指導 3 評価「Q31 活動状況の適切な把握・記録」（横軸）の関連

指導 3 評価として設定した 4 項目「Q28 指導評価とその活用」、「Q29 即時的な評価・フィードバック」、「Q30 目標に基づいた評価」、「Q31 活動状況の適切な把握・記録」のすべての項目において、各項目の必要性の有無とそれぞれの項目の自己評価には有意な差がみられた。

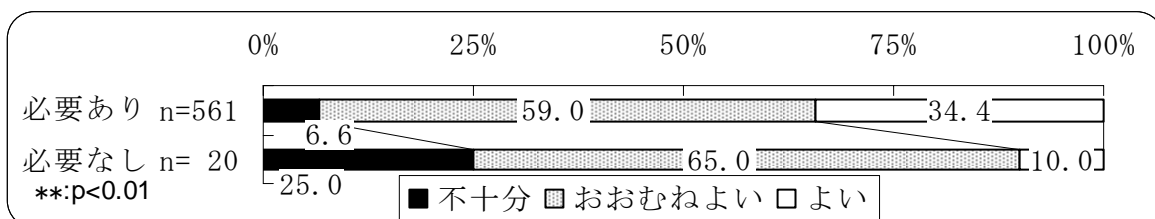


図 17-32 必要性の有無（縦軸）と指導 4 観察・分析「Q32 話し方・聞き方・指名の仕方」（横軸）の関連

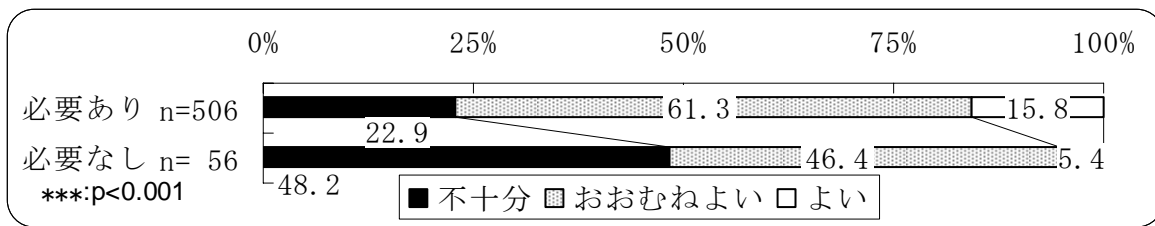


図 17-33 必要性の有無（縦軸）と指導 4 観察・分析「Q33 プリント等の活用・記録ノート指導」（横軸）の関連

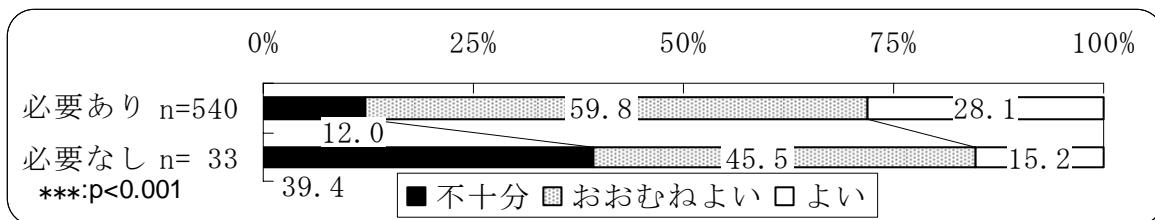


図 17-34 必要性の有無（縦軸）と指導 4 観察・分析「Q34 技能、用具の活用・利用」（横軸）の関連

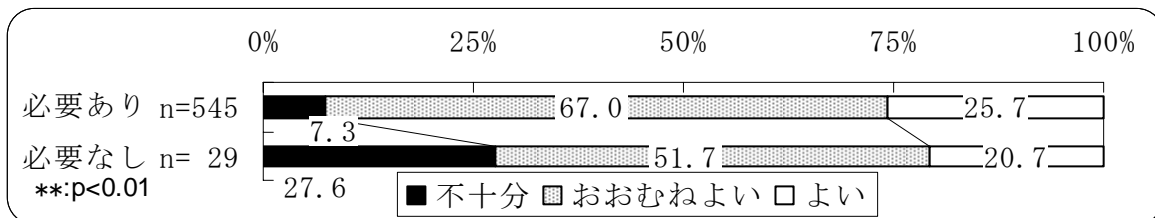


図 17-35 必要性の有無（縦軸）と指導 4 観察・分析「Q35 指導者と参加者のかかわり」（横軸）の関連

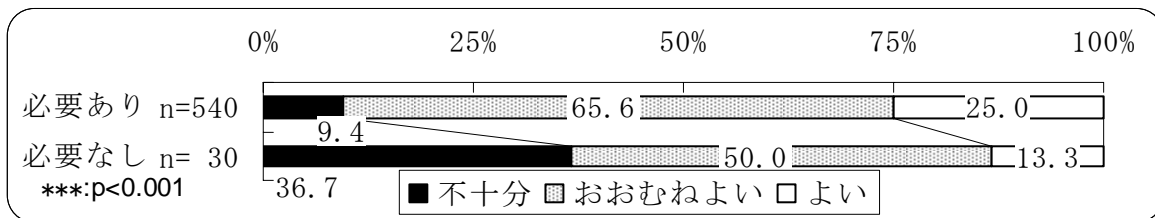


図 17-36 必要性の有無（縦軸）と指導 4 観察・分析「Q36 個への支援」（横軸）の関連

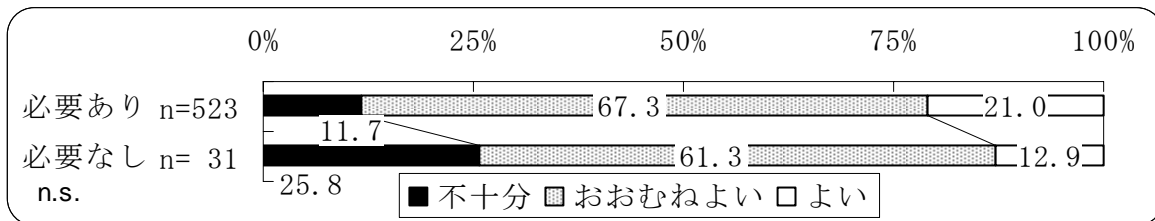


図 17-37 必要性の有無（縦軸）と指導 4 観察・分析「Q37 指導評価」（横軸）の関連

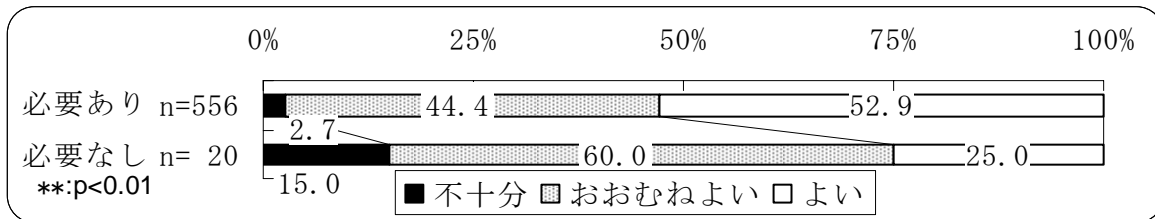


図 17-38 必要性の有無（縦軸）と指導 4 観察・分析「Q38 マナー・約束」（横軸）の関連

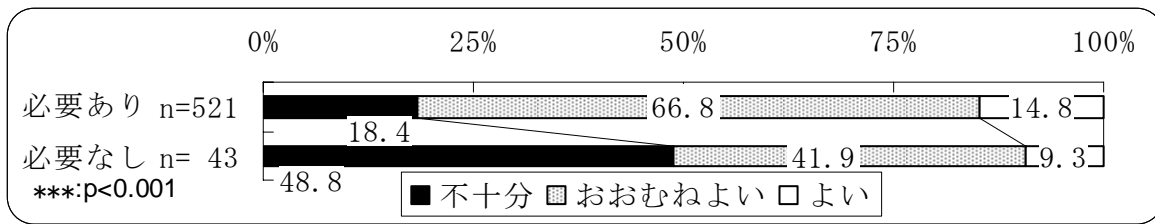


図 17-39 必要性の有無（縦軸）と指導 4 観察・分析「Q39 活動記録」（横軸）の関連

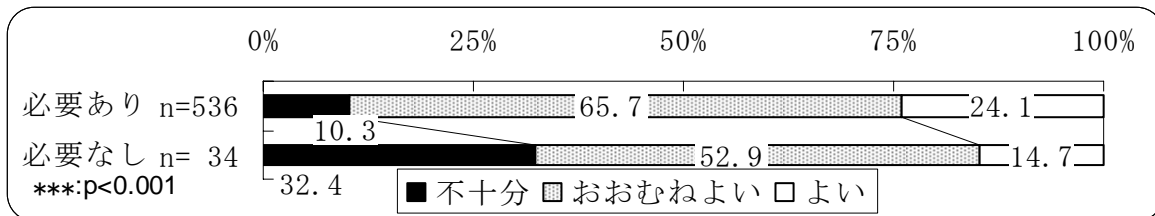


図 17-40 必要性の有無（縦軸）と指導 4 観察・分析「Q40 活動分析」（横軸）の関連

指導 4 観察・分析として設定した 9 項目のうち、「Q32 話し方・聞き方・指名の仕方」、「Q33 プリント等の活用・記録ノート指導」、「Q34 技能、用具の活用・利用」、「Q35 指導者と参加者のかかわり」、「Q36 個への支援」、「Q38 マナー・約束」、「Q39 活動記録」、「Q40 活動分析」の 8 項目について、各項目の必要性の有無とそれぞれの項目の自己評価には有意な差がみられた。

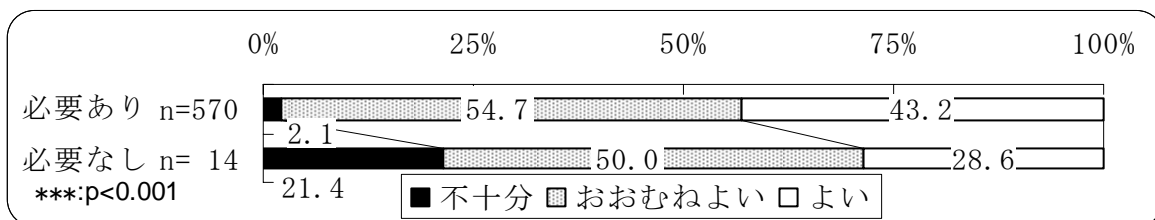


図 17-41 必要性の有無（縦軸）と指導現場の経営・運営「Q41 参加者との良好な信頼関係」（横軸）の関連

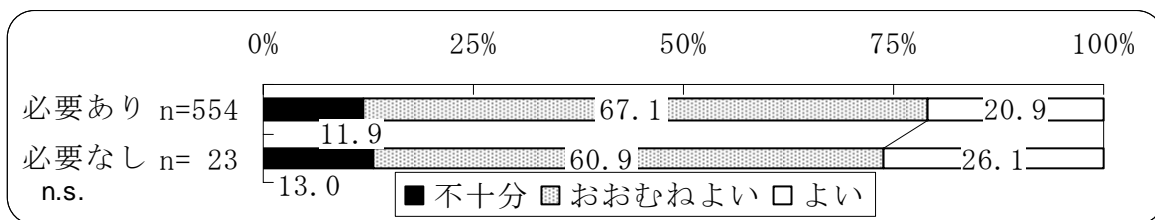


図 17-42 必要性の有無（縦軸）と指導現場の経営・運営「Q42 指導環境の整備」（横軸）の関連

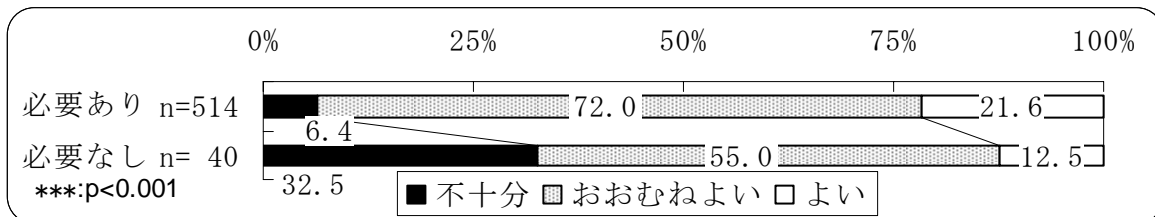


図 17-43 必要性の有無（縦軸）と指導現場の経営・運営「Q43 公正な指導環境風土の構築」（横軸）の関連

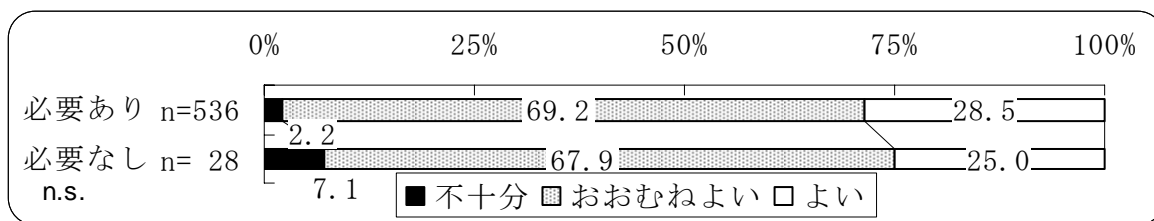


図 17-44 必要性の有無（縦軸）と指導現場の経営・運営「Q44 規律の確立・維持」（横軸）の関連

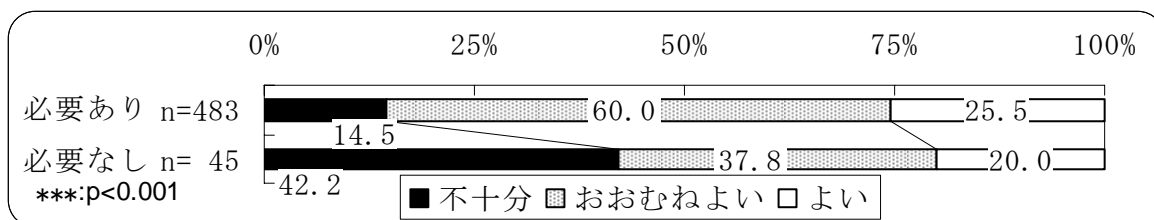


図 17-45 必要性の有無（縦軸）と指導現場の経営・運営「Q45 いじめ・不登校等への対応」（横軸）の関連

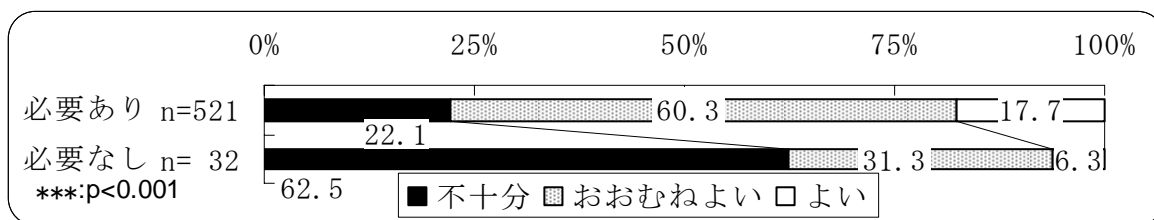


図 17-46 必要性の有無（縦軸）と指導現場の経営・運営「Q46 要支援者への対応」（横軸）の関連

指導現場の経営・運営として設定した6項目のうち、「Q41 参加者との良好な信頼関係」、「Q43 公正な指導環境風土の構築」、「Q45 いじめ・不登校への対応」、「Q46 要支援者への対応」の4項目について、各設問の必要性の有無とそれぞれの項目の自己評価には有意な差がみられた。

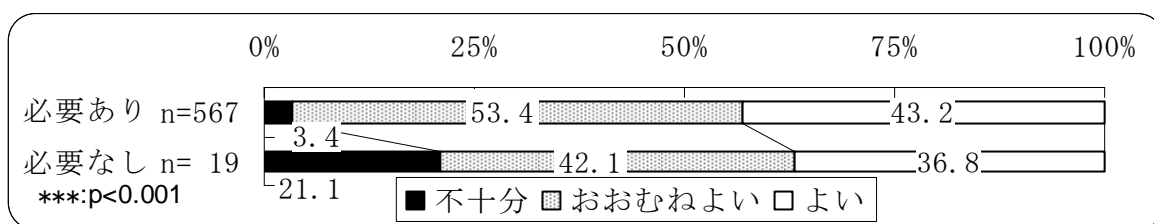


図 17-47 必要性の有無（縦軸）と組織理解と運営への協力「Q47 組織・運営の理解・協力」（横軸）の関連

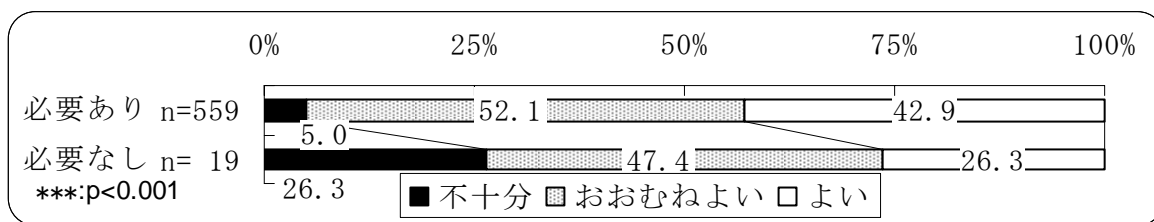


図 17-48 必要性の有無（縦軸）と組織理解と運営への協力「Q48 組織における役割分担の理解」（横軸）の関連

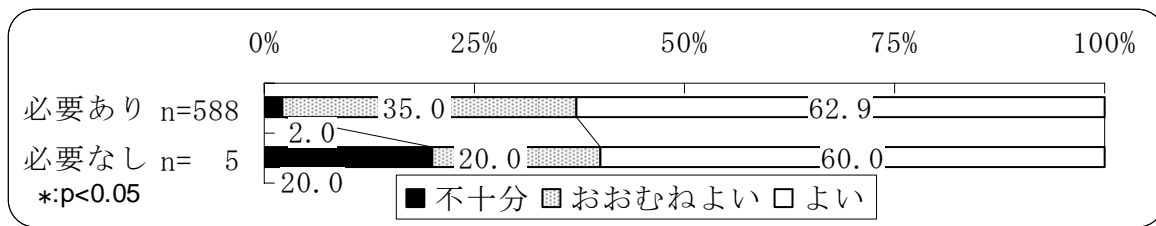


図 17-49 必要性の有無（縦軸）と組織理解と運営への協力「Q49 安全性・事故防止への理解」（横軸）の関連

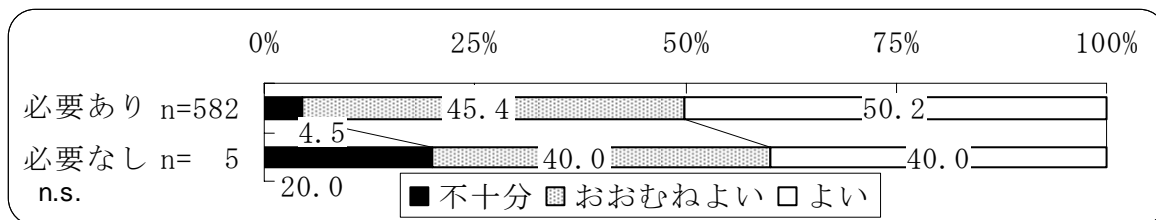


図 17-50 必要性の有無（縦軸）と組織理解と運営への協力「Q50 事故対応等への理解」（横軸）の関連

組織理解と運営への協力として設定した4項目のうち、「Q47 組織・運営の理解・協力」、「Q48 組織における役割分担の理解」、「Q49 安全性・事故防止への理解」の3項目について、各設問の必要性の有無とそれぞれの項目の自己評価には有意な差がみられた。

4 指導対象者別クロス集計結果

指導する対象者（図5）を、乳幼児から高校生までの「子どものみ」を指導対象とする群と、一般から高齢者までの「大人のみ」を指導対象とする群と、その「両方」を指導対象とする群の3つの群にわけて、50項目に対する自己評価をクロス集計した。

（カイ2乗検定により、*5%有意、**1%有意、***0.1%有意,を「有意差あり（関連性あり）」、n. s.を「非有意（関連性なし）」とした。）

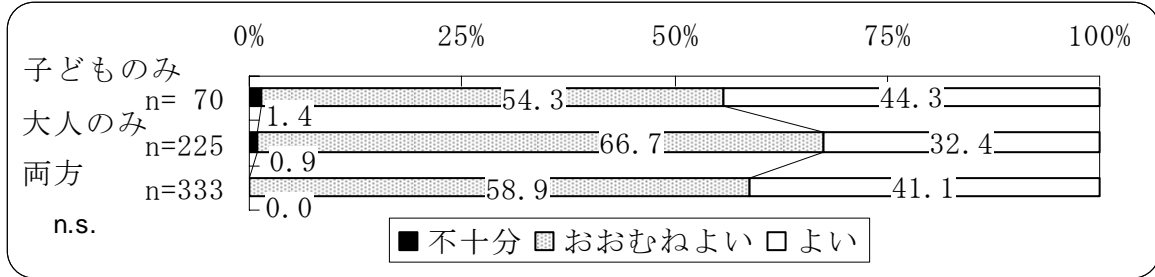


図 18-1 指導対象者（縦軸）と基本的素養「Q1可能性への期待」（横軸）の関連

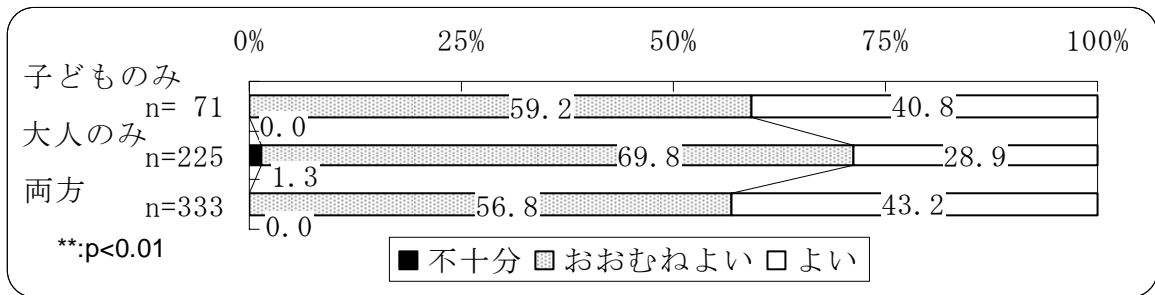


図 18-2 指導対象者（縦軸）と基本的素養「Q2期待される人間性」（横軸）の関連

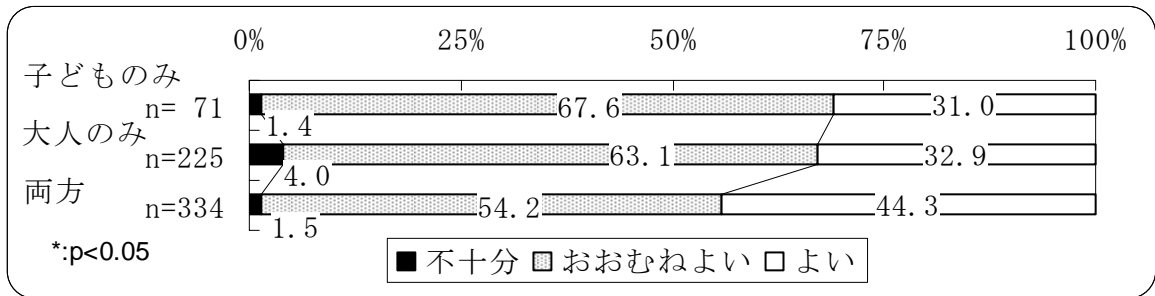


図 18-3 指導対象者（縦軸）と基本的素養「Q3応答的な人間関係」（横軸）の関連

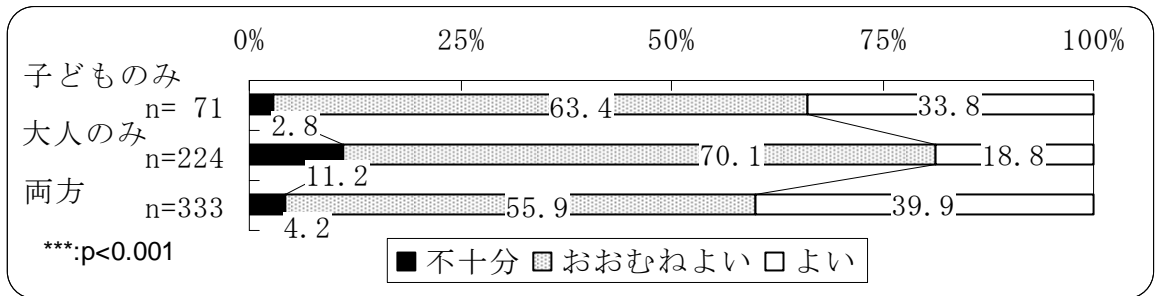


図 18-4 指導対象者（縦軸）と基本的素養「Q4協力的な人間関係」（横軸）の関連

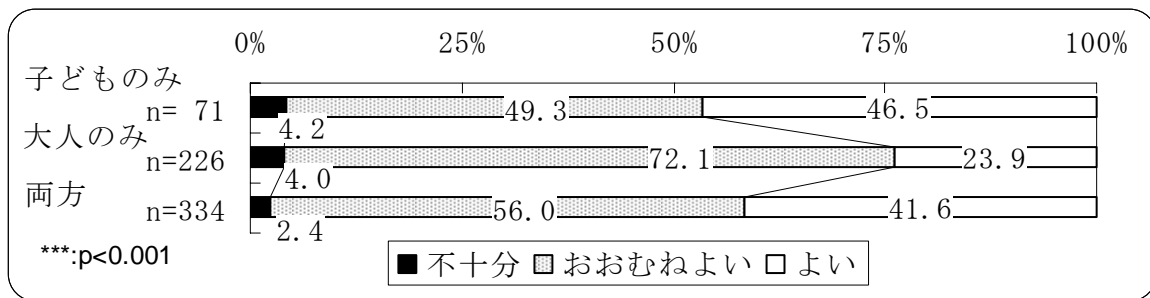


図 18-5 指導対象者（縦軸）と基本的素養「Q5 実践的指導力の向上」（横軸）の関連

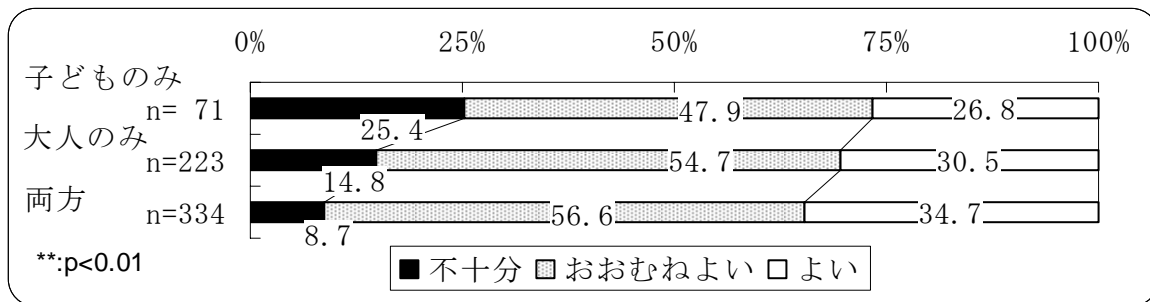


図 18-6 指導対象者（縦軸）と基本的素養「Q6 地域の役割理解」（横軸）の関連

基本的素養として設定した6項目のうち「Q2 期待される人間性」、「Q3 応答的な人間関係」、「Q4 協力的な人間関係」、「Q5 実践的指導力の向上」、「Q6 地域の役割理解」の5項目について、指導対象者とそれぞれの項目の自己評価には有意な差がみられた。

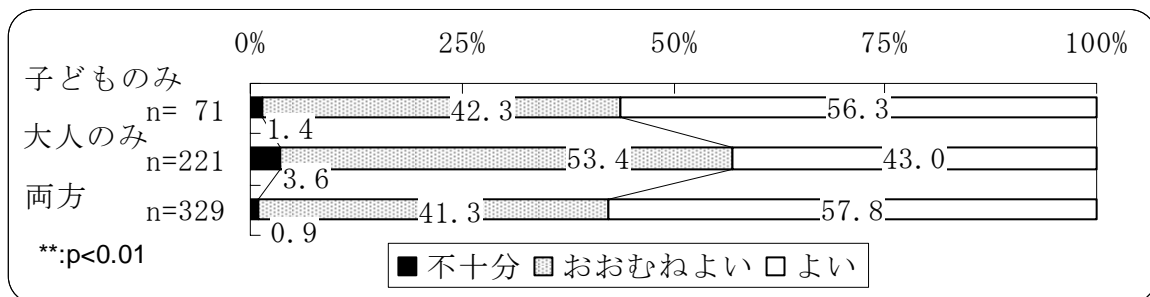


図 18-7 指導対象者（縦軸）と知識・理解「Q7 基礎的な知識・技能」（横軸）の関連

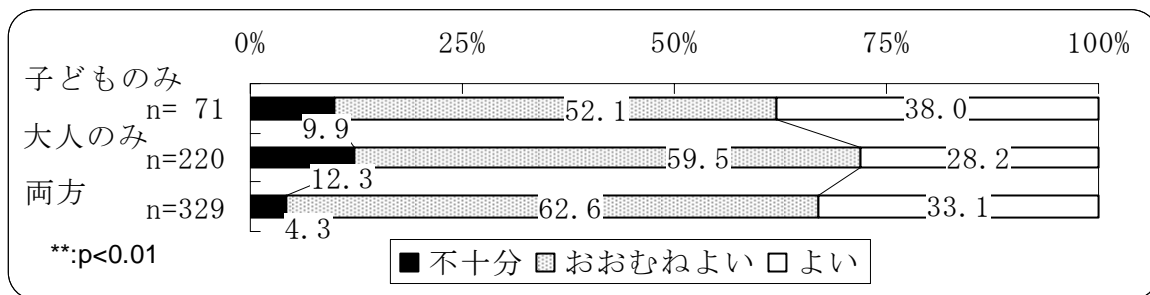


図 18-8 指導対象者（縦軸）と知識・理解「Q8 系統的な指導計画の作成」（横軸）の関連

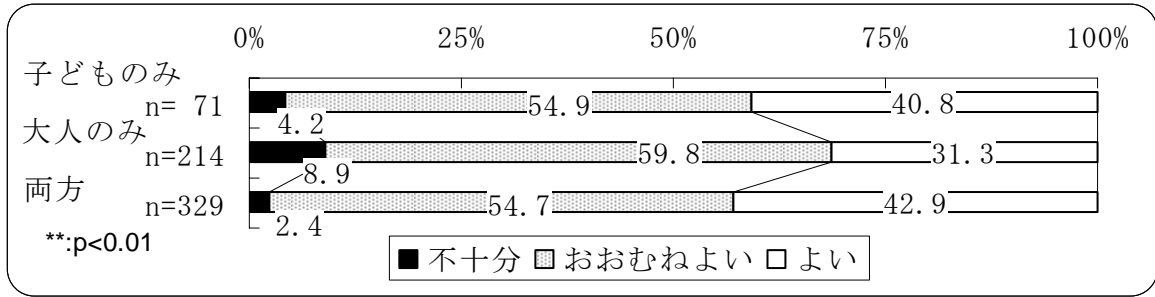


図 18-9 指導対象者 (縦軸) と知識・理解「Q9 知識・用具の理解と分析」(横軸) の関連

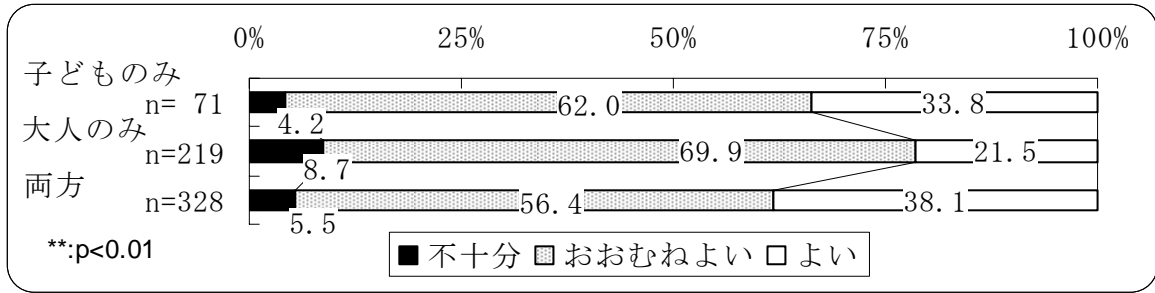


図 18-10 指導対象者 (縦軸) と知識・理解「Q10 指導計画作成・指導方法」(横軸) の関連

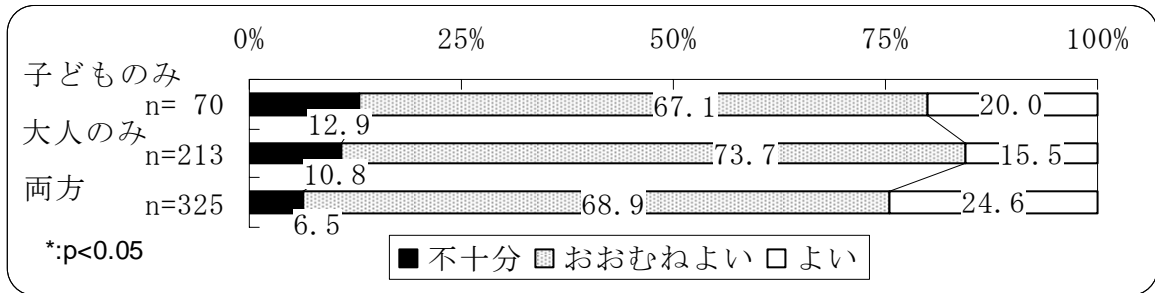


図 18-11 指導対象者 (縦軸) と知識・理解「Q11 評価の理解」(横軸) の関連

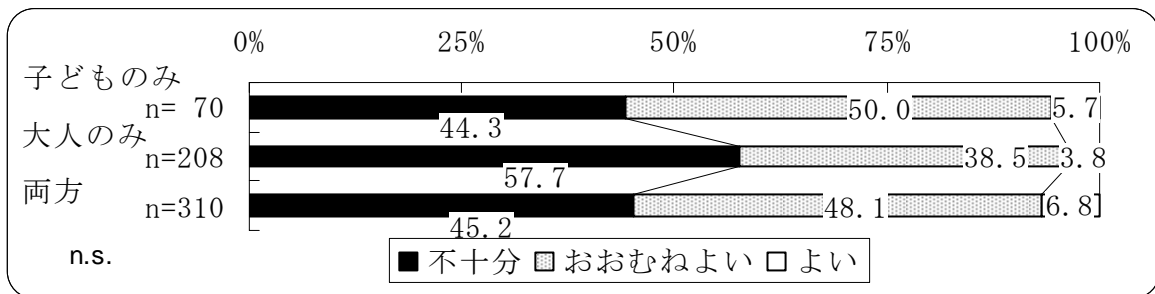


図 18-12 指導対象者 (縦軸) と知識・理解「Q12 ICT使用」(横軸) の関連

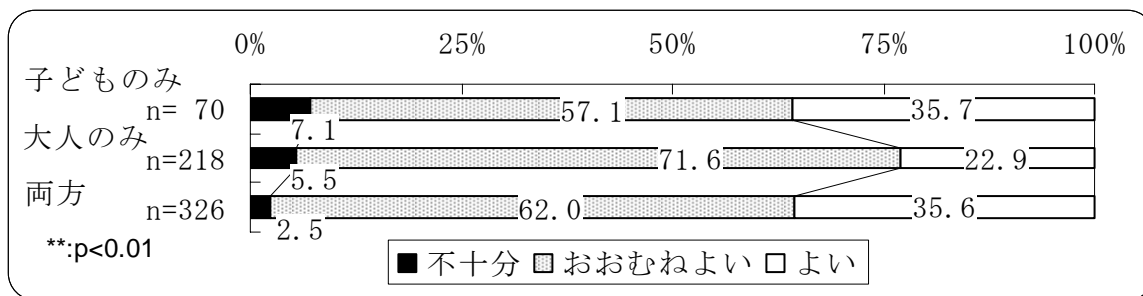


図 18-13 指導対象者（縦軸）と知識・理解「Q13 基礎条件・発達」の関連

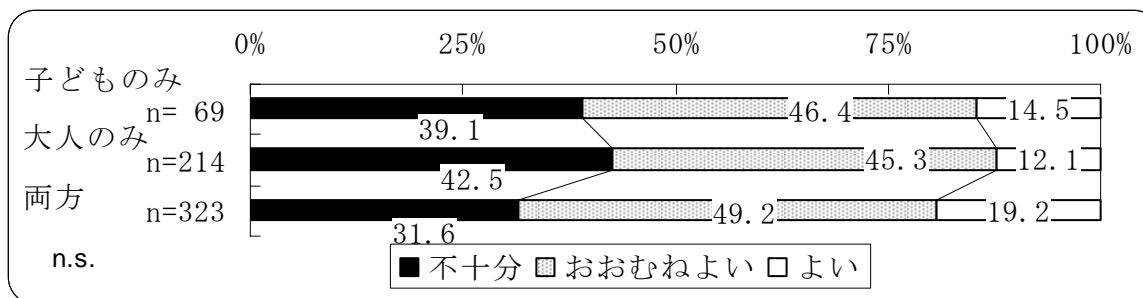


図 18-14 指導対象者（縦軸）と知識・理解「Q14 要支援者への理解」の関連

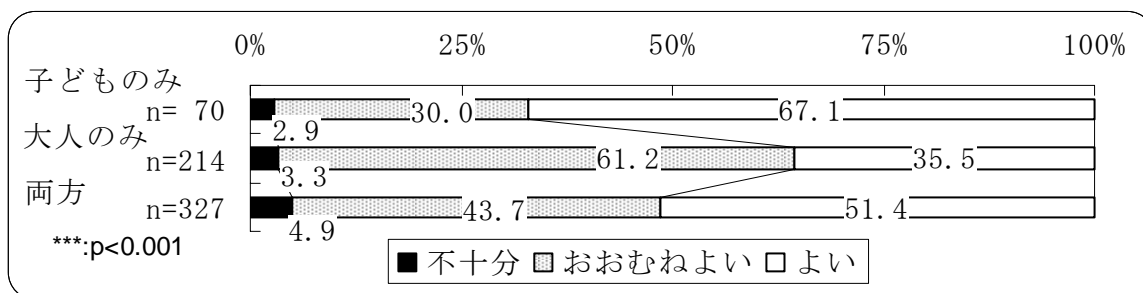


図 18-15 指導対象者（縦軸）と知識・理解「Q15 スポーツマンシップの指導」の関連

知識・理解として設定した9項目のうち、「Q7 基礎的な知識・技能」、「Q8 系統的な指導計画の作成」、「Q9 知識・用具の理解と分析」、「Q10 指導計画作成・指導方法」、「Q11 評価の理解」、「Q13 基礎条件・発達」、「Q15 スポーツマンシップの指導」の7項目について、指導対象者とそれぞれの項目の自己評価には有意な差がみられた。

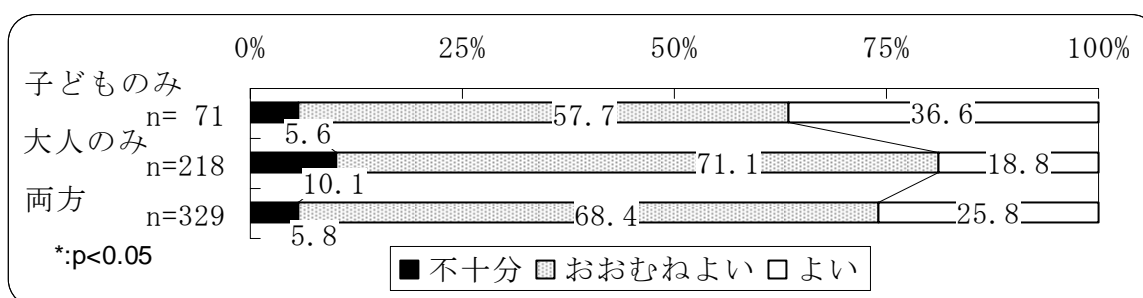


図 18-16 指導対象者（縦軸）と指導1目標・計画「Q16 指導目標の設定」の関連

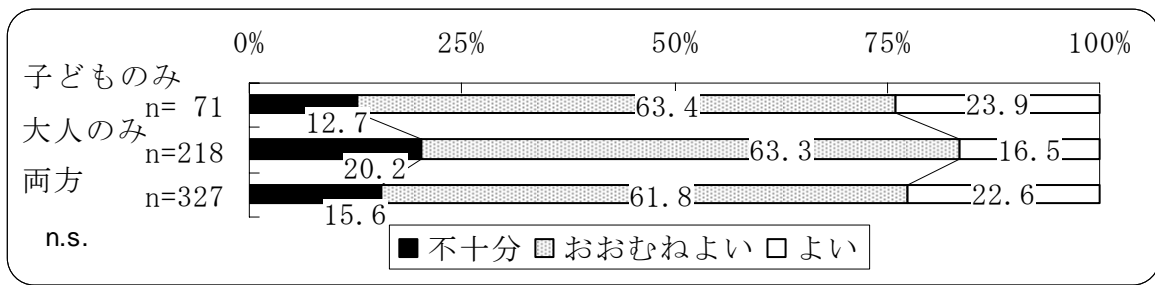


図 18-17 指導対象者（縦軸）と指導 1 目標・計画「Q17 指導計画・日案の作成」（横軸）の関連

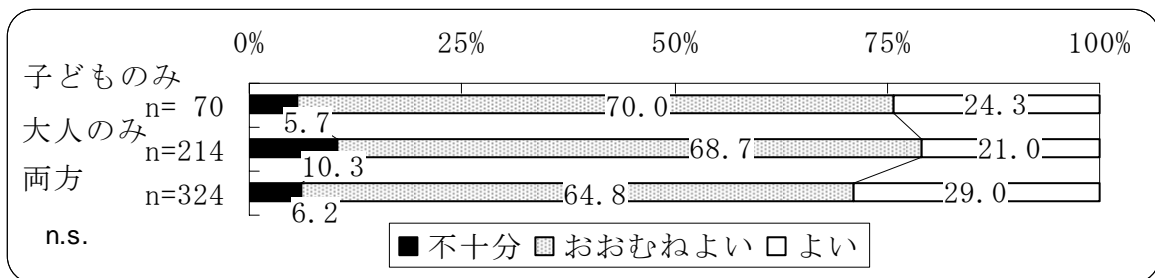


図 18-18 指導対象者（縦軸）と指導 1 目標・計画「Q18 指導計画・日案の修正」（横軸）の関連

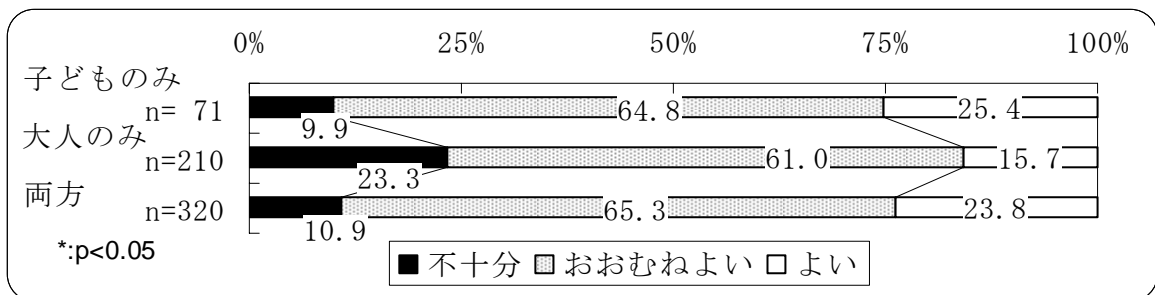


図 18-19 指導対象者（縦軸）と指導 1 目標・計画「Q19 知識・用具の準備・開発」（横軸）の関連

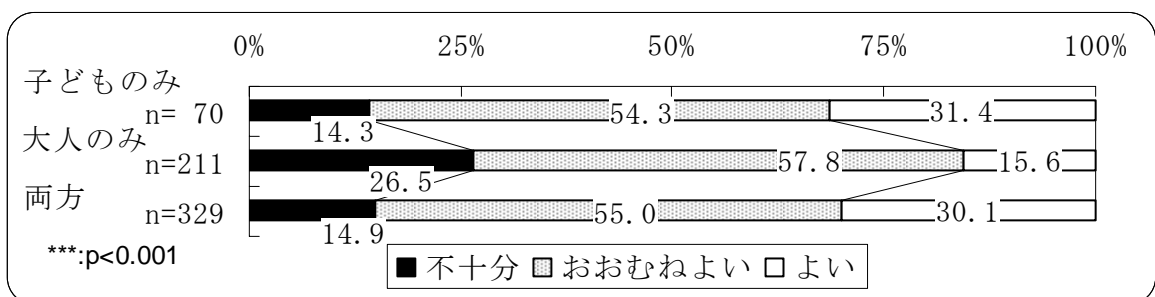


図 18-20 指導対象者（縦軸）と指導 1 目標・計画「Q20 指導計画の作成」（横軸）の関連

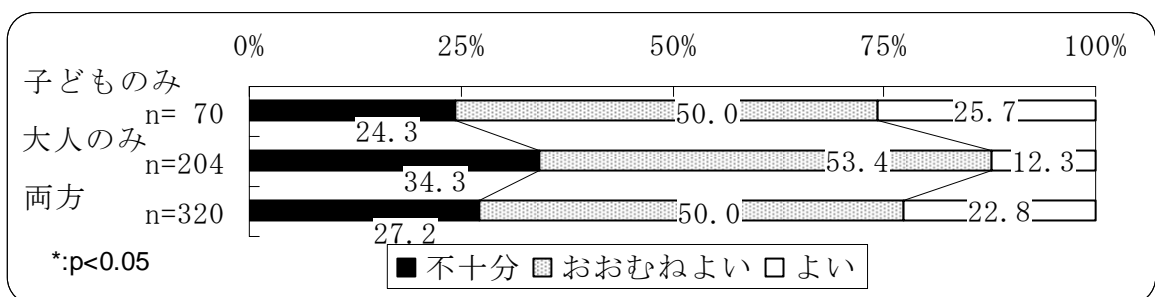


図 18-21 指導対象者（縦軸）と指導 1 目標・計画「Q21 体験指導の計画」（横軸）の関連

指導1目標・計画として設定した6項目のうち「Q16 指導目標の設定」、「Q19 知識・用具の準備・開発」、「Q20 指導計画の作成」、「Q21 体験指導の計画」の4項目について、指導対象者とそれぞれの項目の自己評価には有意な差がみられた。

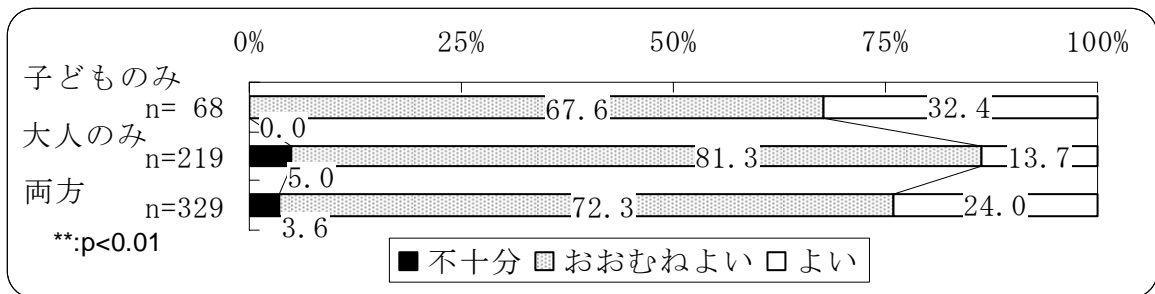


図 18-22 指導対象者（縦軸）と指導2実施「Q22 体験指導の計画」（横軸）の関連

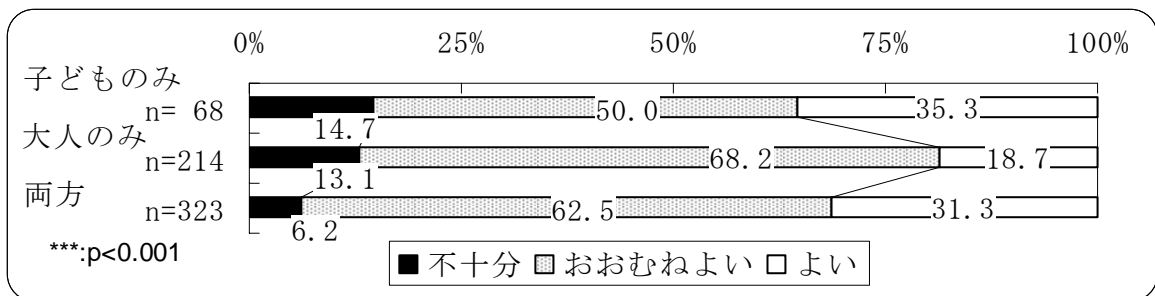


図 18-23 指導対象者（縦軸）と指導2実施「Q23 体験指導の計画」（横軸）の関連

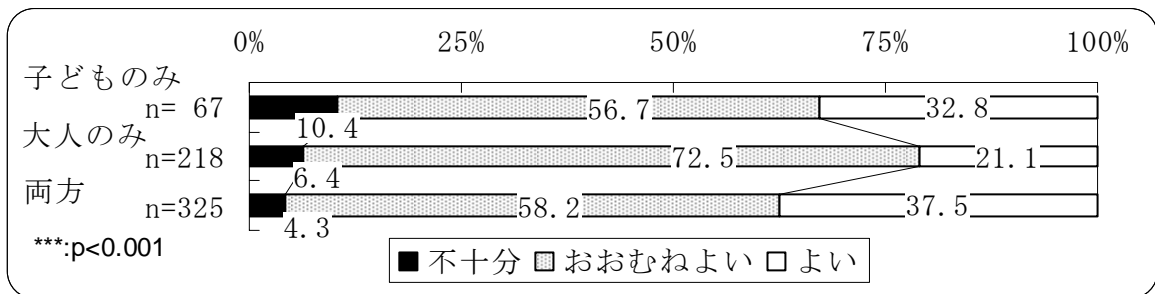


図 18-24 指導対象者（縦軸）と指導2実施「Q24 体験指導の計画」（横軸）の関連

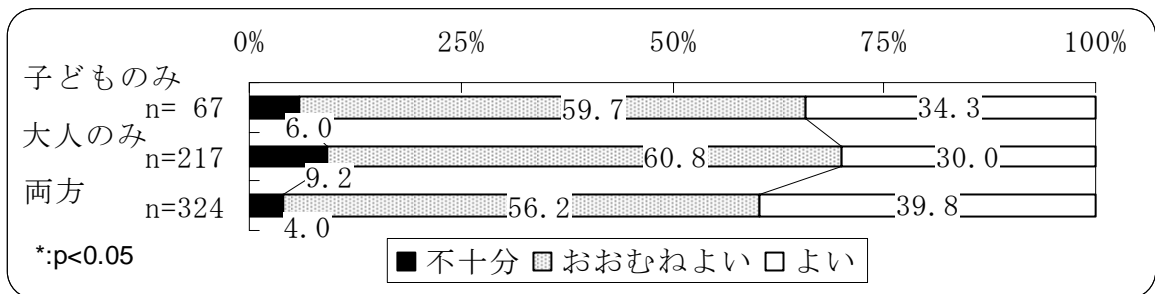


図 18-25 指導対象者（縦軸）と指導2実施「Q25 体験指導の計画」（横軸）の関連

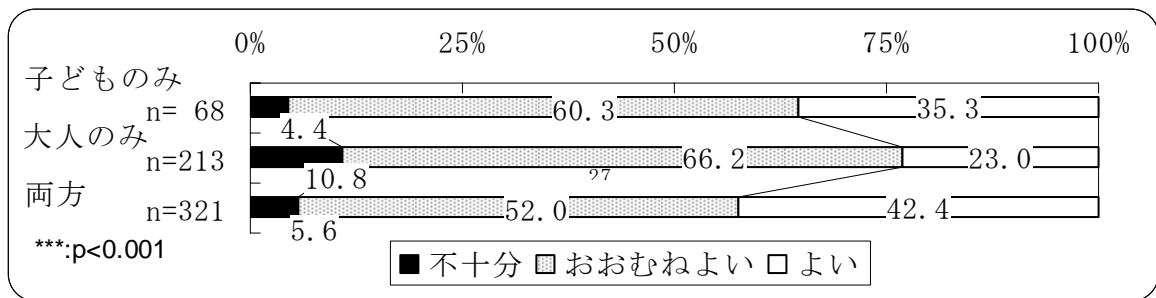


図 18-26 指導対象者（縦軸）と指導 2 実施「Q26 体験指導の計画」（横軸）の関連

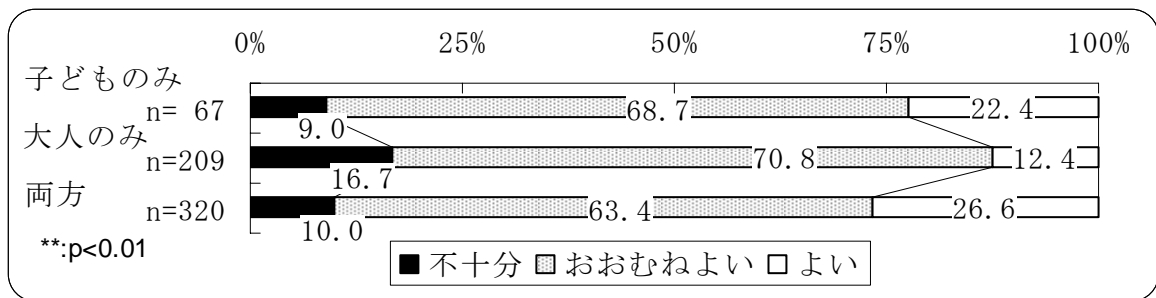


図 18-27 指導対象者（縦軸）と指導 2 実施「Q27 体験指導の計画」（横軸）の関連

指導 2 実施として設定した 6 項目「Q22 指導の実習」、「Q23 個別指導」、「Q24 グループ指導」、「Q25 指導時間の有効活用」、「Q26 練習方法や用具の選択」、「Q27 発展的・補足的な課題」のすべての項目において、指導対象者とそれぞれの項目の自己評価には有意な差がみられた。

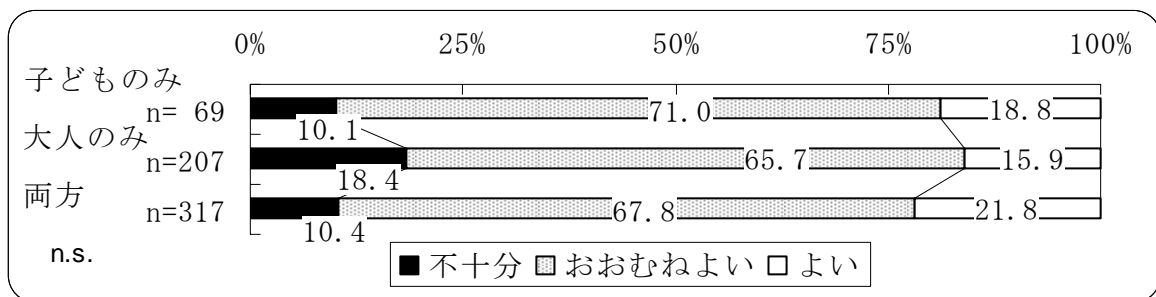


図 18-28 指導対象者（縦軸）と指導 3 評価「Q28 指導評価とその活用」（横軸）の関連

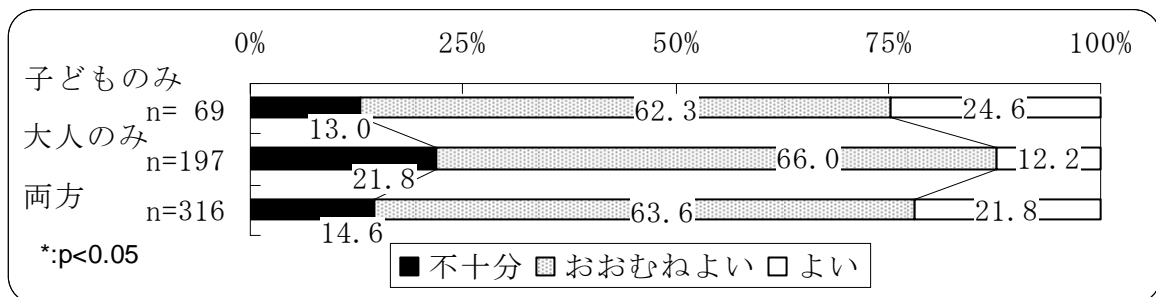


図 18-29 指導対象者（縦軸）と指導 3 評価「Q29 即時的な評価・フィードバック」（横軸）の関連

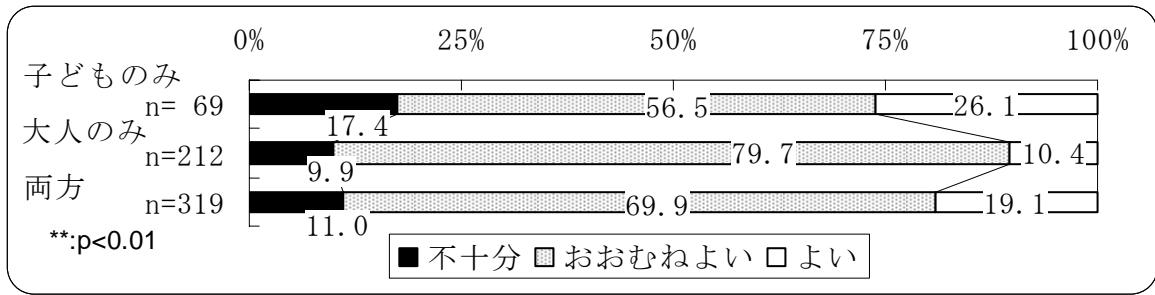


図 18-30 指導対象者（縦軸）と指導 3 評価「Q30 目標に基づいた評価」（横軸）の関連

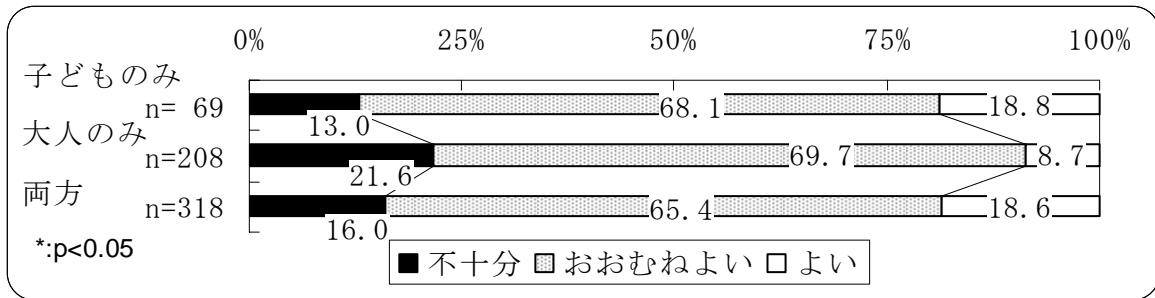


図 17-31 指導対象者（縦軸）と指導 3 評価「Q31 活動状況の適切な把握・記録」（横軸）の関連

指導 3 評価として設定した 4 項目のうち、「Q29 即時的な評価・フィードバック」、「Q30 目標に基づいた評価」、「Q31 活動状況の適切な把握・記録」の 3 項目について、指導対象者とそれぞれの項目の自己評価には有意な差がみられた。

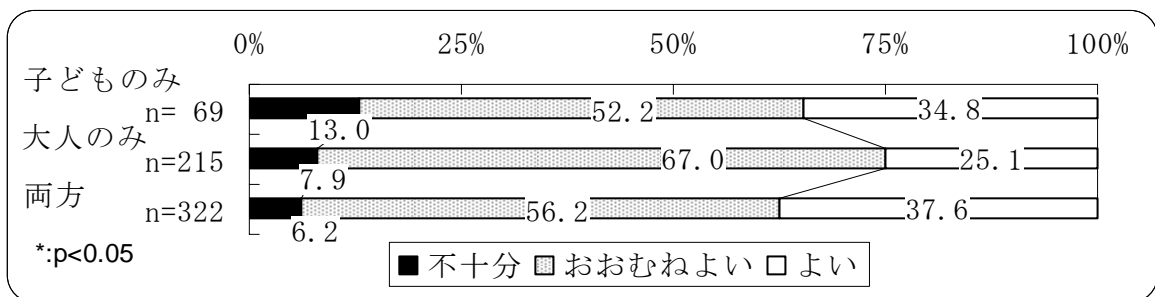


図 18-32 指導対象者（縦軸）と指導 4 観察・分析「Q32 話し方・聞き方・指名の仕方」（横軸）の関連

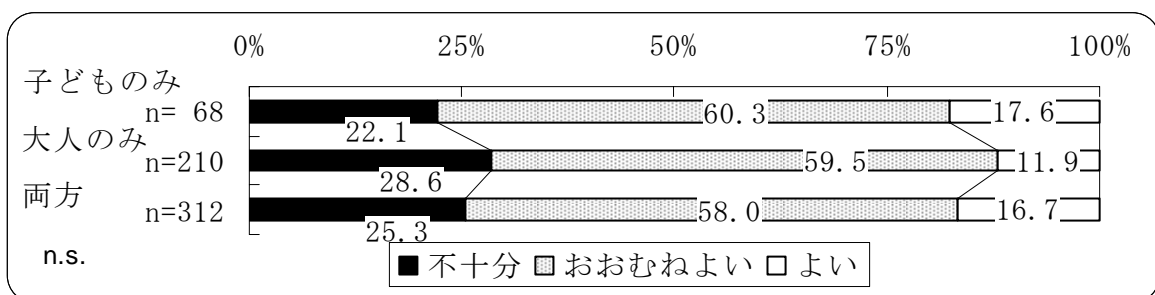


図 18-33 指導対象者（縦軸）と指導 4 観察・分析「Q33 プリント等の活用・記録ノート指導」（横軸）の関連

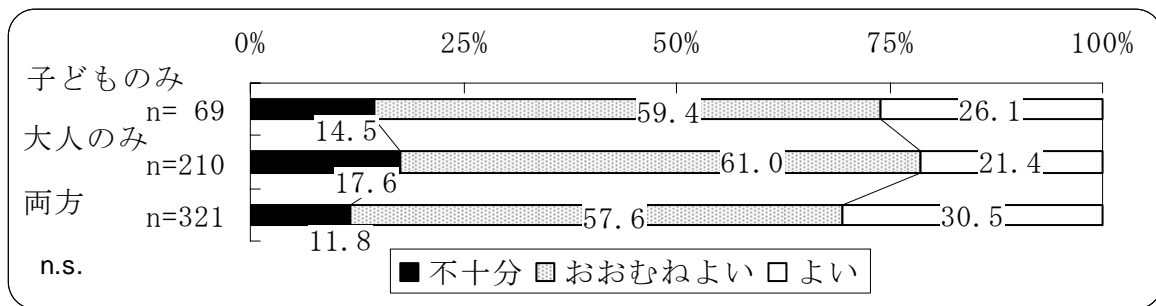


図 18-34 指導対象者（縦軸）と指導 4 観察・分析「Q34 技能・用具の活用・利用」（横軸）の関連

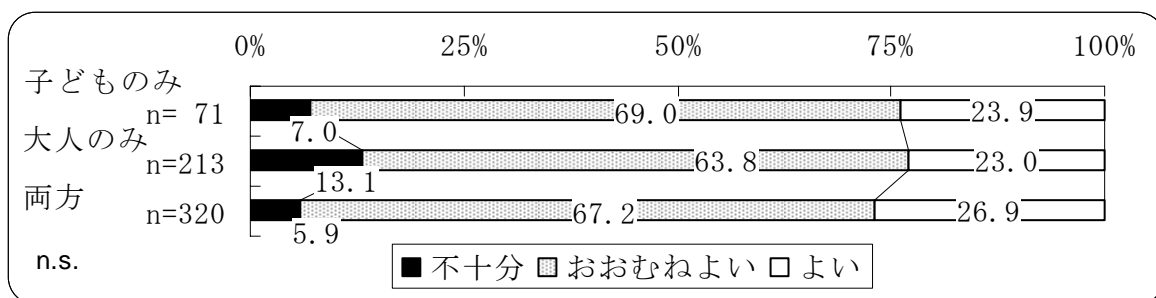


図 18-35 指導対象者（縦軸）と指導 4 観察・分析「Q35 指導者と参加者の関わり」（横軸）の関連

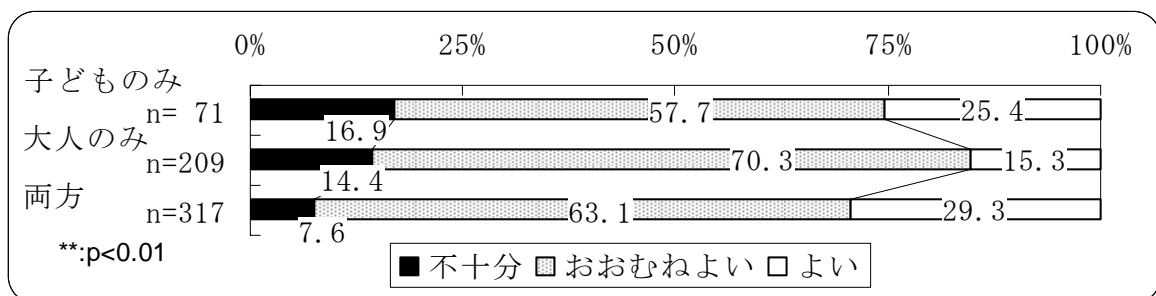


図 18-36 指導対象者（縦軸）と指導 4 観察・分析「Q36 個への支援」（横軸）の関連

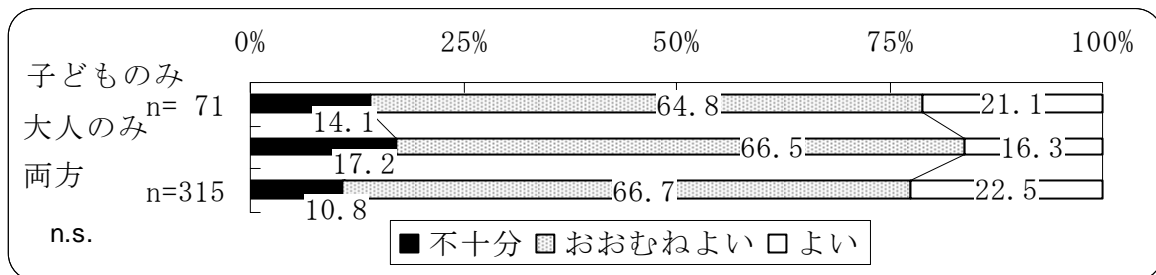


図 18-37 指導対象者（縦軸）と指導 4 観察・分析「Q37 指導評価」（横軸）の関連

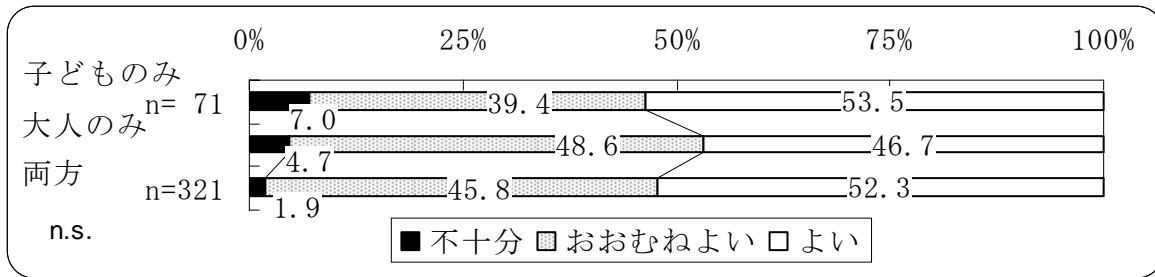


図 18-38 指導対象者（縦軸）と指導 4 観察・分析「Q38 マナー・約束」（横軸）の関連

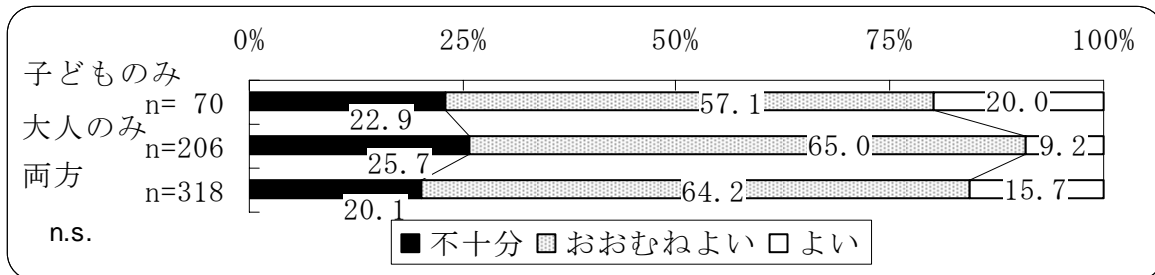


図 18-39 指導対象者（縦軸）と指導 4 観察・分析「Q39 活動記録」（横軸）の関連

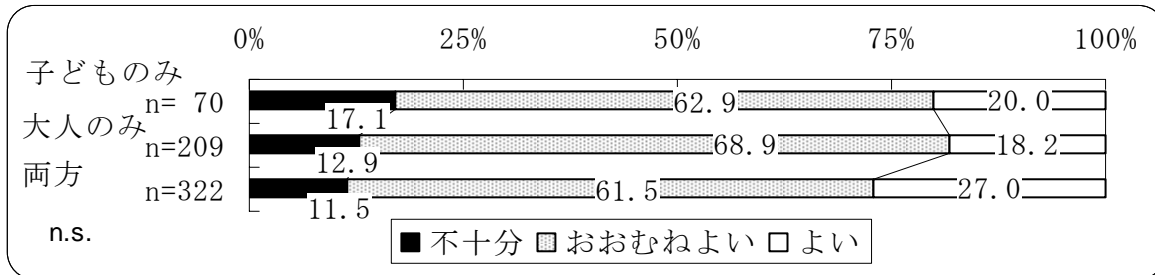


図 18-40 指導対象者（縦軸）と指導 4 観察・分析「Q40 活動分析」（横軸）の関連

指導 4 観察・分析として設定した 9 項目のうち、「Q32 話し方・聞き方・指名の仕方」、「Q36 個への支援」の 2 項目について、指導対象者とそれぞれの項目の自己評価には有意な差がみられた。

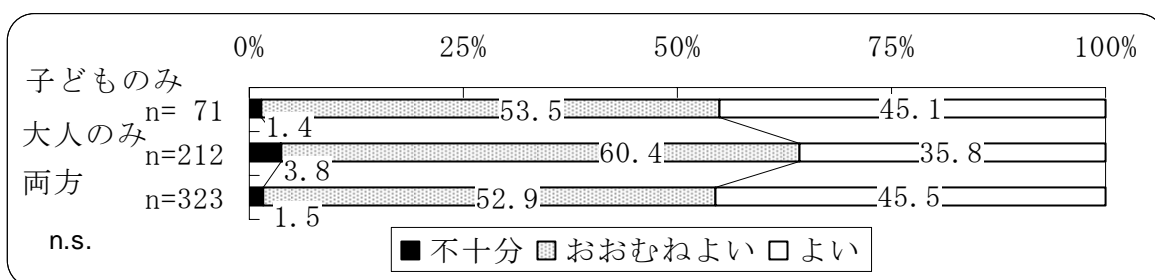


図 18-41 指導対象者（縦軸）と指導現場の経営・運営「Q41 参加者との良好な信頼関係」（横軸）の関連

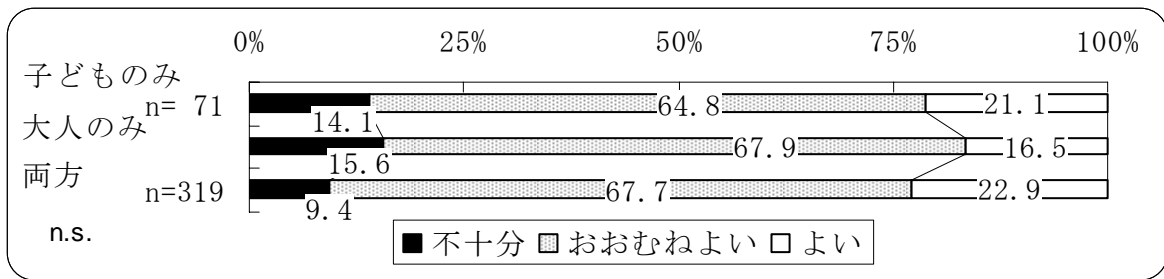


図 18-42 指導対象者（縦軸）と指導現場の経営・運営「Q42 指導環境の整備」（横軸）の関連

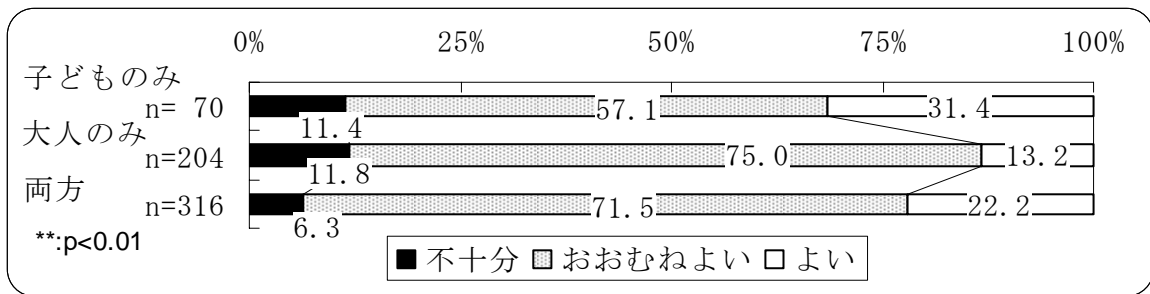


図 18-43 指導対象者（縦軸）と指導現場の経営・運営「Q43 公正な指導環境風土の構築」（横軸）の関連

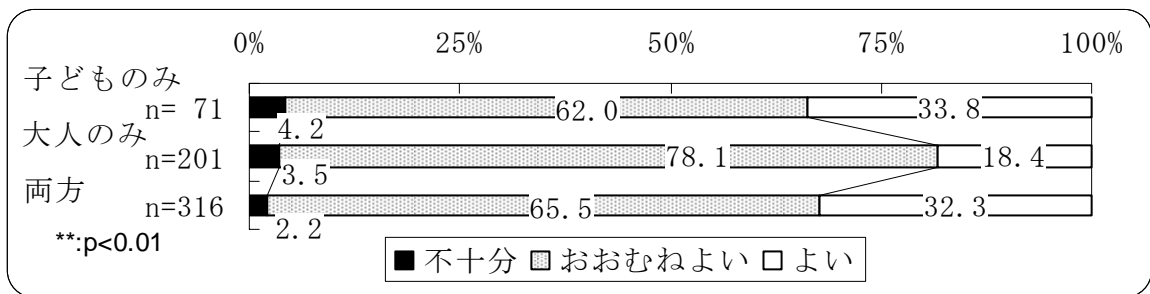


図 18-44 指導対象者（縦軸）と指導現場の経営・運営「Q44 規律の確立」（横軸）の関連

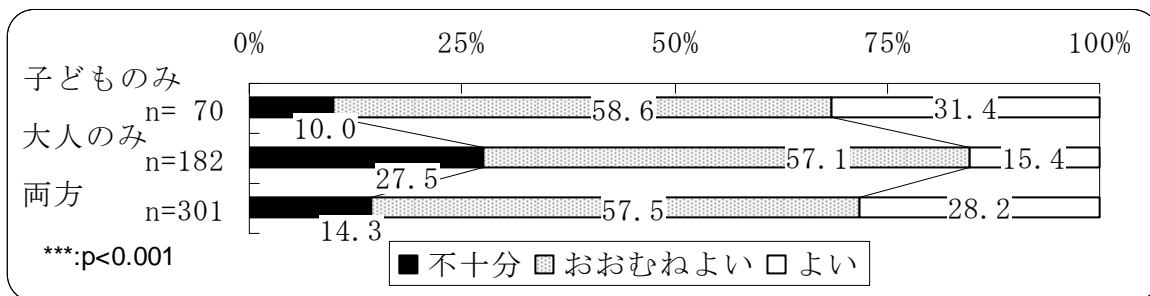


図 18-45 指導対象者（縦軸）と指導現場の経営・運営「Q45 いじめ・不登校への対応」（横軸）の関連

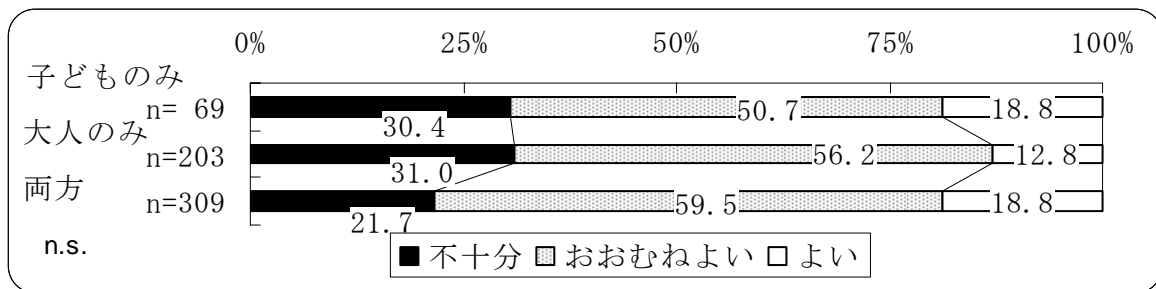


図 18-46 指導対象者（縦軸）と指導現場の経営・運営「Q46 要支援者への対応」（横軸）の関連

指導現場の経営・運営として設定した6項目のうち、「Q43 公正な指導環境風土の構築」、「Q44 規律の確立」、「Q45 いじめ・不登校への対応」の3項目について、指導対象者とそれぞれの項目の自己評価には有意な差がみられた。

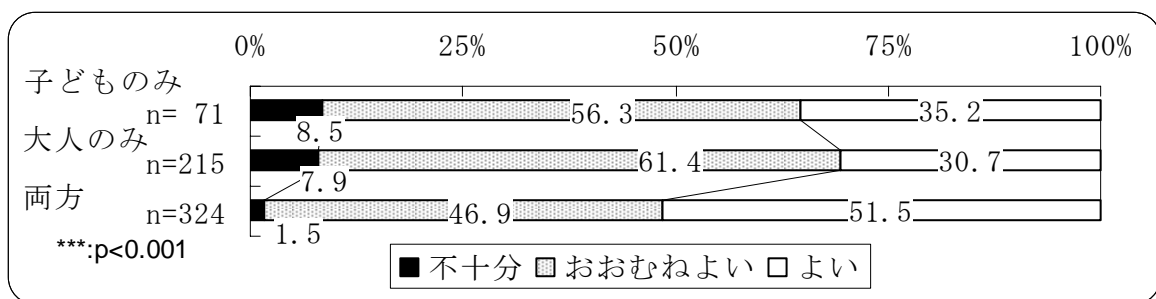


図 18-47 指導対象者（縦軸）と組織理解と運営への協力「Q47 組織・運営の理解・協力」（横軸）の関連

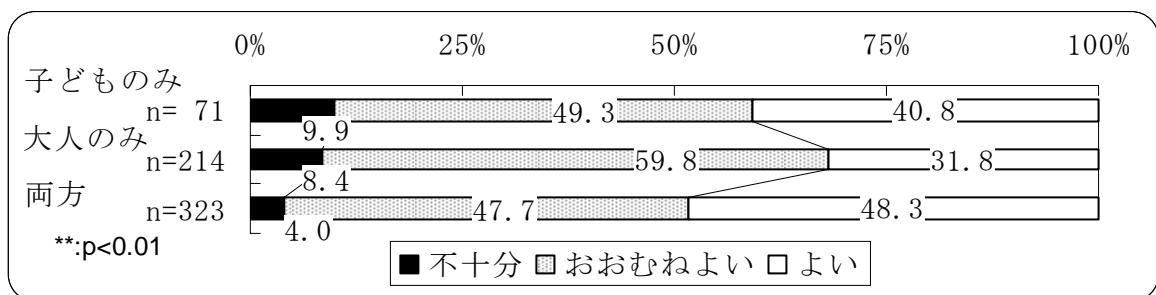


図 18-48 指導対象者（縦軸）と組織理解と運営への協力「Q48 組織における役割分担の理解」（横軸）の関連

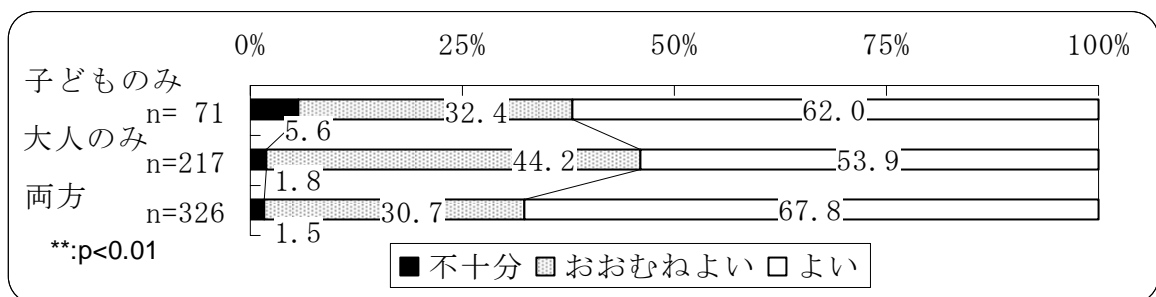


図 18-49 指導対象者（縦軸）と組織理解と運営への協力「Q49 安全性・事故防止への理解」（横軸）の関連

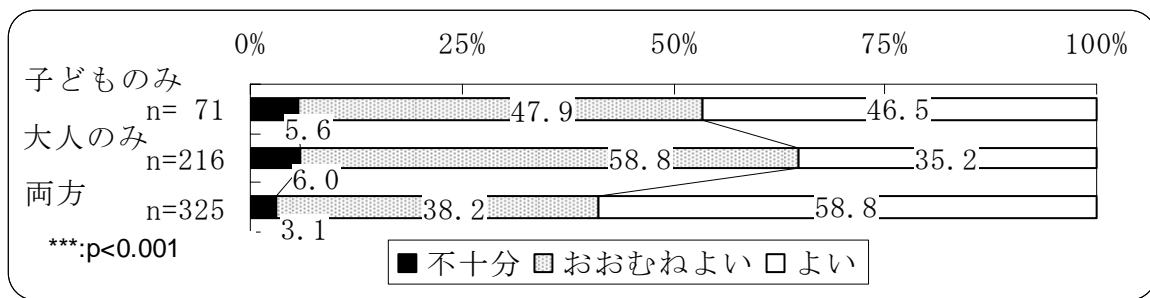


図 18-50 指導対象者（縦軸）と組織理解と運営への協力「Q50 事故対応等への理解」（横軸）の関連

組織理解と運営への協力として設定した4項目、「Q47 組織・運営の理解・協力」、「Q48 組織における役割分担の理解」、「Q49 安全性・事故防止への理解」、「Q50 事故対応等への理解」のすべての項目において、指導対象者とそれぞれの項目の自己評価には有意な差がみられた。

【開発した観点別評価基準による調査への考察】

1 単純集計から推測できること

(1) 自己研鑽を重ねるスポーツ指導者像

神奈川県スポーツリーダーバンク登録指導者と神奈川県スポーツ指導者連絡協議会登録指導者を対象に行った「スポーツ指導者の質と水準に関する観点別評価基準」調査結果において、各項目について「不十分」「おおむねよい」「よい」の3段階で評価した結果を単純集計した(図9～図16)。

8つの大項目に対して設定した50の小項目のうち、「Q7基礎的な知識・技能」(図10)「Q38マナー・約束」(図14)「Q49安全性・事故防止への理解」「Q50事故対応等への理解」(図16)の内容については、5割以上が「よい」と回答した。

また、「Q12ICT使用」(図10)については、約5割が「不十分」と回答した。このことは、今回の調査対象者の年齢(図1)において、60歳以上が約6割であったことから、ICTの普及率が、他の年齢層と比較して低いことが理由であると考えられる。

さらに、他の45の項目については「おおむねよい」と回答している割合が多い。

このことより、多くのスポーツ指導者は、今回設定した50の項目について、現在身につけているであろうと考える自身の知識・技能等の能力を「不十分」とは感じていないまでも、現状の能力で十分であるとも、考えていないことがわかる。すなわち、今後も、自己研鑽を重ねようとする意欲をあわせ持つスポーツ指導者像が浮かび上がったと考えられる。

(2) スポーツ指導者に対するの言葉の選択

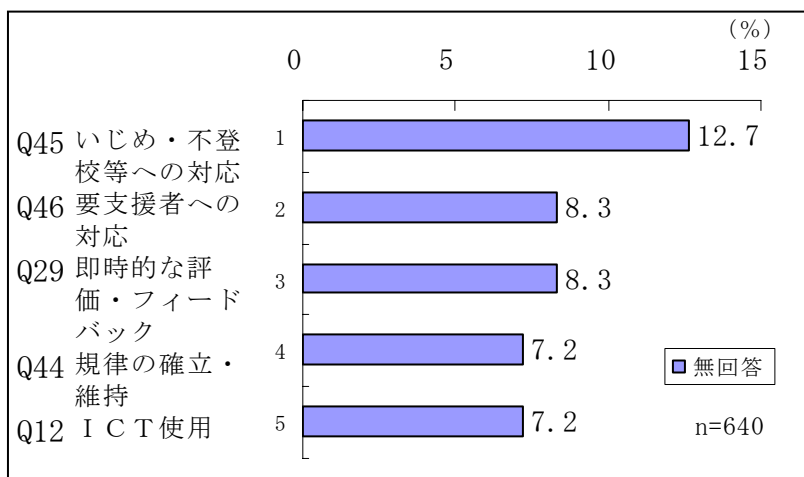


図19 自己評価の無回答(上位5つ)

さらに、自己評価で無回答(図19)が多かった項目について集計した。無回答の多い上位5つについて見てみると、Q45における「不登校」、Q46における「要支援者」、Q29における「即時的」「フィードバック」、Q44における「規律」、Q12における「ICT」といった言葉を使用していた。これらは、スポーツ指導者にとって余り馴染んでいない言葉であったため回答しづらかったと考えられる。

(3) スポーツ指導者が考える新たな視点

スポーツは人間らしさを表現したり、味わったりすることができる重要な文化のひとつであり、この文化を享受することによって、生活をより明るく豊かなものにしていくことができる。今回設定した 50 項目以外に、スポーツ指導者が身につけておくことが望ましい基礎・基本の知識・技能（P63～P66 参照）として回答されたのは、次のとおりである。

「スポーツで地域を活性化しようという社会的な役割の重要性の理解」といった意見にみられるとおり、スポーツの持つ力を最大限発揮し、地域社会へ貢献していくような視点は重要であると考えられる。

「いくつもの種目を並行して行っている子どもたち及び保護者への対応」といった意見は、子どもの習い事のひとつとしてスポーツが盛んに取り上げられている現状を反映しており、子どもの体力向上に向けたさまざまな施策を展開していく上で、重要な視点であるといえる。

その他、「現代人の心の動きを理解するためのメンタルトレーニング」、「運動生理学や栄養学といったコンディショニング」、「ボランティア」、「後継者の養成の必要性」、「保護者との協力・理解」、「国のスポーツ政策についての理解」、「環境への配慮」めまぐるしく発達する用具やルール変更に対応するためにも、常に学び続ける「自己研鑽の姿勢」が必要であるといった回答があげられた。

これらのスポーツ指導者からの貴重な意見によって、多くのスポーツ指導者は、現代社会においてスポーツに何ができるのか、社会がスポーツに望むものは何か、社会に貢献するためにスポーツ指導者に求められる資質とは何か、といった「社会がスポーツに望む役割、スポーツ指導者に望む資質」を重要視して指導を行っていることがわかった。

2 自己評価と必要性の有無によるクロス集計から推測できること

設定した 50 項目に対する自己評価（図 9～図 16）と 50 項目の必要性の有無をクロス集計し、カイ 2 乗検定を行った（図 17-1～50）。

単純集計で自己評価を「不十分」とした割合が多かった 4 項目（Q12、Q14、Q21、Q46）について、対象者全体の中で「不十分」と回答した群における、必要性の有無による回答の差を比較した（図 20-1～4）。

(1) ICT 使用への理解

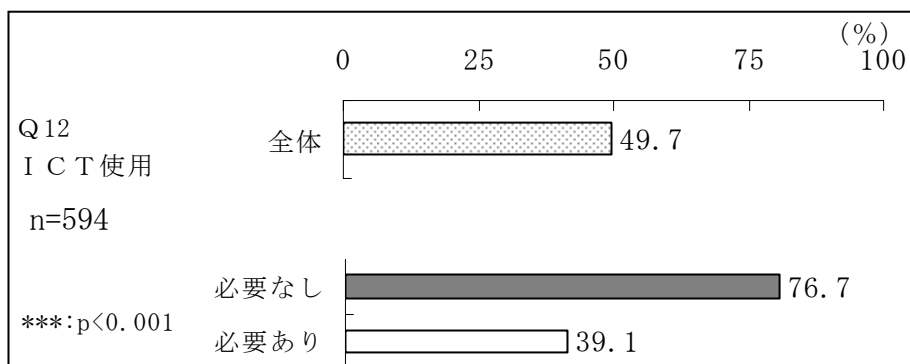


図 20-1 自己評価「不十分」回答者の「Q12 ICT 使用」必要性の有無との関連 (***)カイ 2 乗検定における 0.1% 有意)

Q12 ICT使用の項目（図 20-1）については、全体の 49.7%が「不十分」と回答した。「必要なし」と回答した群における「不十分」の割合は 76.7%、「必要あり」と回答した群における「不十分」の割合は 39.1%であった。すなわち、ICTの使用について「必要なし」と回答した人ほど、「不十分」と回答している、ということが読み取れる。このことは、1-（1）で述べたように、今回の調査対象者の年齢層が結果に大きく影響していることが要因と考えられる。

(2) 要支援者対応の必要性

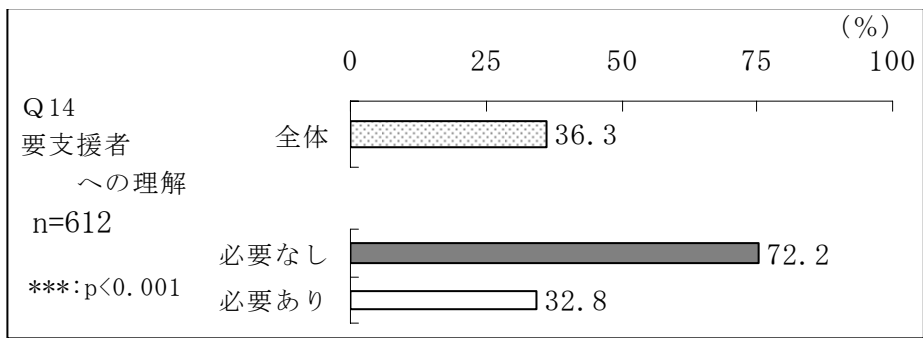


図 20-2 自己評価「不十分」回答者の「Q14 要支援者への理解」必要性の有無との関連 (***)カイ 2 乗検定における 0.1%有意)

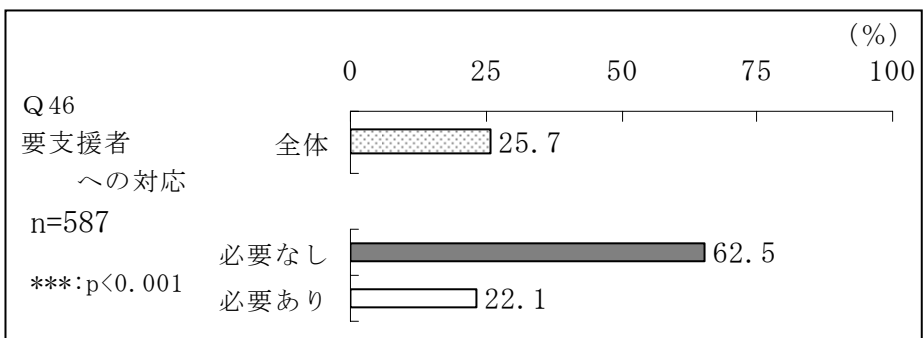


図 20-3 自己評価「不十分」回答者の「Q46 要支援者への対応」必要性の有無との関連 (***)カイ 2 乗検定における 0.1%有意)

Q14 要支援者への理解（図 20-2）については、全体の 36.3%が「不十分」と回答した。「必要なし」と回答した群における「不十分」の割合は 72.2%、「必要あり」と回答した群における「不十分」の割合は 32.8%であった。また、Q46 要支援者への対応（図 20-3）については、全体の 25.7%が「不十分」と回答した。「必要なし」と回答した群における「不十分」の割合は 62.5%、「必要あり」と回答した群における「不十分」の割合は 22.1%であった。

障害者スポーツの指導は、障害者スポーツ指導資格もすでに確立していることから、資格を所有しない指導者にとっては、要支援者への理解も「不十分」であり、項目も「必要ない」、という判断となったのではないかと推測される。たしかに、障害者スポーツの指導には高い専門性が要求されるかもしれないが、今後の障害者スポーツの発展のためには、要支援者に対する理解や対応方法などの知識・理解が必要であると考えられる。

(3) 表現方法の工夫

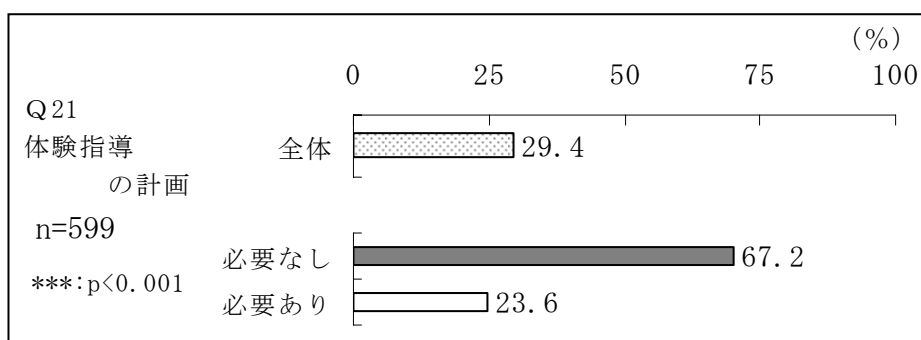


図 20-4 自己評価「不十分」回答者の「Q21 体験指導の計画」必要性の有無との関連 (***)カイ 2 乗検定における 0.1%有意)

Q21 体験指導の計画 (図 20-4) については、全体の 29.4%が「不十分」と回答した。「必要なし」と回答した群における「不十分」の割合は 67.2%、「必要あり」と回答した群における「不十分」の割合は 23.6%であった。項目の内容を「体験指導 (遠征、合宿等) を想定しての活動計画を立案する」と表現していたことが、影響しているのではないかと推測される。学校の運動部活動等を指導するスポーツ指導者には馴染み深い言葉ではあるが、高齢者の健康体操等を指導するスポーツ指導者には、「仲間との交流会」といった表現が適していたのではないかと考えられる。1 - (2) で述べたように、すべてのスポーツ指導者に、受け入れられやすい言葉を用いる工夫が必要であると考えられる。

(4) 各項目の必要性の有無について

表 2-1 項目の必要性の有無と 50 項目に対する評価との関連一覧
(*5%有意、**1%有意、***0.1%有意、n. s. 非有意)

必要性の有無により自己評価に有意な差がある (38項目)	必要性の有無により自己評価に有意な差がない (12項目)
1 基本的素養	
** Q 4 協力的な人間関係	n. s. Q 1 可能性への期待
*** Q 5 実践的指導力の向上	n. s. Q 2 期待される人間性
*** Q 6 地域の役割理解	n. s. Q 3 応答的な人間関係
2 知識・理解	
** Q 9 知識・用具の理解と分析	n. s. Q 7 基礎的な知識・技能
** Q 10 指導計画作成・指導方法	n. s. Q 8 系統的な指導計画の作成
* Q 11 評価の理解	n. s. Q 13 基礎条件・発達
*** Q 12 ICT使用	
*** Q 14 要支援者への理解	
*** Q 15 スポーツマンシップの指導	
3 指導①目標・計画	
*** Q 16 指導目標の設定	n. s. Q 20 指導計画の作成
*** Q 17 指導計画・日案の作成	
** Q 18 指導計画・日案の修正	
*** Q 19 知識・用具の準備・開発	
*** Q 21 体験指導の計画	

表2-2 項目の必要性の有無と50項目に対する評価との関連一覧

(*5%有意、**1%有意、***0.1%有意、n.s.非有意)

必要性の有無により自己評価に有意な差がある (38項目)	必要性の有無により自己評価に有意な差がない (12項目)
4 指導②実施	
*** Q23 個別指導 *** Q24 グループ指導 ** Q25 指導時間の有効活用 *** Q26 練習方法や用具の選択 ** Q27 発展的・補足的な課題	n. s. Q22 指導の実習
5 指導③評価	
*** Q28 評価方法とその活用 *** Q29 即時的な評価・フィードバック *** Q30 目標に基づいた評価 *** Q31 活動状況の適切な把握・記録	
6 指導④観察・分析	
** Q32 話し方・聞き方・指名の仕方 *** Q33 プリント等の活用・記録ノート指導 *** Q34 技能、用具の活用・利用 ** Q35 指導者と参加者の関わり *** Q36 個への支援 ** Q38 マナー・約束 *** Q39 活動記録 *** Q40 活動分析	n. s. Q37 指導評価
7 指導現場の経営・運営	
*** Q41 参加者との良好な信頼関係 *** Q43 公正な指導環境風土の構築 *** Q45 いじめ・不登校等への対応 *** Q46 要支援者への対応	n. s. Q42 指導環境の整備 n. s. Q44 規律の確立・維持
8 組織理解と運営への協力	
*** Q47 組織・運営の理解・協力 *** Q48 組織における役割分担の理解 * Q49 安全性・事故防止への理解	n. s. Q50 事故対応等への理解

50項目のうち38項目について、「必要あり」と回答した群と「必要なし」と回答した群の間には、今回設定した50項目の評価に明らかな差があるといえる(表2-1、2)。

さらに、項目の必要性の有無と50項目に対する評価との関連性がみられた「Q5」以外の37項目について(図17-1~50)は、「必要なし」と回答した群ほど、項目の内容についての知識・技能が「不十分」とであると評価していることがわかった。

すなわち、「必要なし」と回答したスポーツ指導者の背景には、設定された項目の内容を知らない、又は、十分に身につけていないことが推測される。このことより、今回「必要なし」と回答されたことを理由に不要な項目と判断することはできず、むしろ、項目を精選するためには参加者側の意見を反映させての項目の検討が必要とされる。

3 指導対象別クロス集計から推測できること

指導対象の異なる群を比較することは、スポーツ指導者から指導を受ける参加者の意見を推測するひとつの手段であると考えられることから、指導する対象者（図5）を、「子どものみ」「大人のみ」「子どもと大人の両方」の3つの群にわけて、50の設問に対する回答をクロス集計し、カイ2乗検定を行った（図18-1～50）。

(1) 参加者が指導者に身につけて欲しいと望む内容

表3-1 指導対象者と50項目に対する自己評価との関連一覧
 (*5%有意、**1%有意、***0.1%有意、n.s.非有意)

指導対象者により自己評価に有意な差がある (34項目)	指導対象者により自己評価に有意な差がない (16項目)
1 基本的素養	
** Q 2 期待される人間性 * Q 3 応答的な人間関係 ***Q 4 協力的な人間関係 ***Q 5 実践的指導力の向上 ** Q 6 地域の役割理解	n. s. Q 1 可能性への期待
2 知識・理解	
** Q 7 基礎的な知識・技能 ** Q 8 系統的な指導計画の作成 ** Q 9 知識・用具の理解と分析 ** Q 10 指導計画作成・指導方法 * Q 11 評価の理解 ** Q 13 基礎条件・発達 ***Q 15 スポーツマンシップの指導	n. s. Q 12 ICT使用 n. s. Q 14 要支援者への理解
3 指導①目標・計画	
* Q 16 指導目標の設定 * Q 19 知識・用具の準備・開発 ***Q 20 指導計画の作成 * Q 21 体験指導の計画	n. s. Q 17 指導計画・日案の作成 n. s. Q 18 指導計画・日案の修正
4 指導②実施	
** Q 22 指導の実習 ***Q 23 個別指導 ***Q 24 グループ指導 * Q 25 指導時間の有効活用 ***Q 26 練習方法や用具の選択 ** Q 27 発展的・補足的な課題	
5 指導③評価	
* Q 29 即時的な評価・フィードバック ** Q 30 目標に基づいた評価 * Q 31 活動状況の適切な把握・記録	n. s. Q 28 評価方法とその活用

表3-2 指導対象者と50項目に対する自己評価との関連一覧

(*5%有意、**1%有意、***0.1%有意、n.s.非有意)

指導対象者により自己評価に有意な差がある (34項目)	指導対象者により自己評価に有意な差がない (16項目)
6 指導④観察・分析	
* Q32 話し方・聞き方・指名の仕方 ** Q36 個への支援	n. s. Q33 プリント等の活用・記録ノート指導 n. s. Q34 技能、用具の活用・利用 n. s. Q35 指導者と参加者の関わり n. s. Q37 指導評価 n. s. Q38 マナー・約束 n. s. Q39 活動記録 n. s. Q40 活動分析
7 指導現場の経営・運営	
** Q43 公正な指導環境風土の構築	n. s. Q41 参加者との良好な信頼関係
** Q44 規律の確立・維持	n. s. Q42 指導環境の整備
***Q45 いじめ・不登校等への対応	n. s. Q46 要支援者への対応
8 組織理解と運営への協力	
***Q47 組織・運営の理解・協力 ** Q48 組織における役割分担の理解 ** Q49 安全性・事故防止への理解 ***Q50 事故対応等への理解	

50項目のうち34項目について、「子どものみ」を指導対象とするスポーツ指導者と、「大人のみ」を指導対象とするスポーツ指導者と、「子どもと大人の両方」を指導対象とするスポーツ指導者の間には、明らかな差がみられた。

今回の調査結果から、指導対象者が異なると、スポーツ指導者自身が身につけておくことが望ましいと考える基礎・基本の内容が異なっていることがわかった。しかし、スポーツ指導者自身が必要であるとする知識・技能以外にも、スポーツ指導者が身につけておくべき内容は存在することが推測される。また、参加者がスポーツ指導者に身に付けておいて欲しいと望む知識・技能の内容とも、異なることが推測される。

4 評価基準の活用

今回設定した50の設問に回答した多くの指導者の感想は、評価基準の項目に目を通すことによって「自身の指導を振り返ることができた」ことであった。また、50項目以外にスポーツ指導者が身につけておくことが望まれる基礎・基本の内容についてのフリーアンサーから読み取ることができた内容は、そのほとんどが50項目によって網羅されていた。しかし「設問が難しかった」という感想も多かったことから、設問の内容を表現する言葉が、スポーツ指導者になじみ深い言葉ではなかったことが考えられる。また、設問数が多いとの指摘もあることから、簡易に指導の振り返りチェックができるような、一部内容の変更も含めた、項目の精選が必要であろう。

スポーツ指導者自身が考える指導に対する自己評価、すなわち自己イメージと、指導を受けている参加者が、そのスポーツ指導者に対して描くイメージは、必ずしも同じとはいえないのと同様に、参加者がスポーツ指導者に身に付けておいて欲しいと望む基礎・基本の内容が、スポーツ指導者自身が考える内容と異なることは、十分推測される。

すなわち、スポーツ指導者自身が必要と考える基礎・基本の内容だけでは、参加者のニーズに応えられているとは言い切れない。また本研究の結果から、県立体育センターでは、より効果的に、スポーツ指導者ニーズ、参加者ニーズを把握し、スポーツ指導者が身に付けておくことが望ましいと思われる基礎・基本の知識・技能等についての研修会及び講習会を開催し、多くのスポーツ指導者に自己研鑽の機会を提供することができると思う（図 21）。

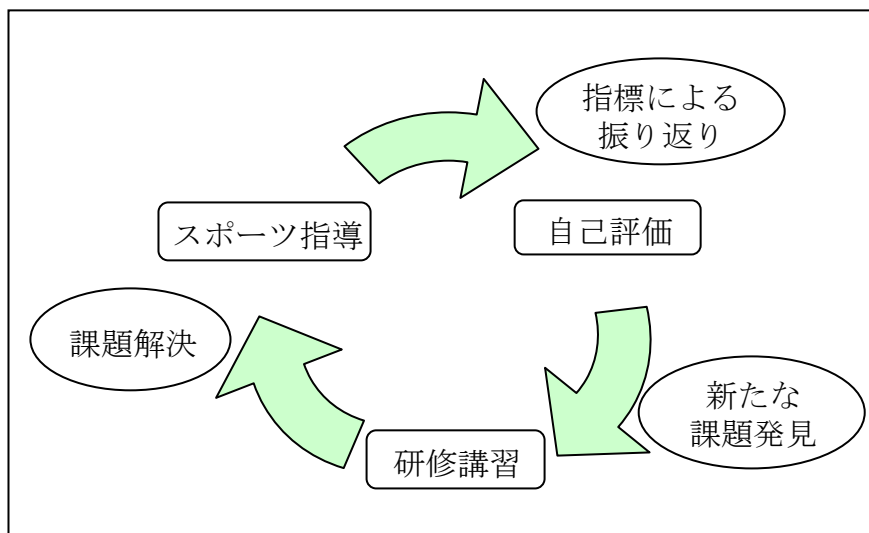


図 21 スポーツ指導者の自己研鑽サイクル

【観点別評価基準に関する今後の方向性】

本研究では、スポーツ指導者が自ら有する知識や指導技術等を振り返り、何をどのレベルで身に付けているのか、また不足しているのかを具体的に判断するために、スポーツ指導者が身に付けておくべき基礎・基本の知識・技能等を体系化すると共に、その水準を自己評価することができる観点別評価基準の開発を行った。

さらに、その必要性を測るために、県スポーツ指導者連絡協議会登録指導者、県スポーツリーダーバンク登録指導者を対象に、本研究で開発したスポーツ指導者の質と水準に関する観点別評価基準に照らし合わせた自己評価と、それぞれの項目の必要性の有無について調査を行い、その結果を参考に分析と考察を進め、今後の観点別評価基準の改善及び活用方法の方向性を見出すことができた。

＜観点別評価基準の必要性について＞

調査結果の単純集計からは、さまざまな新たな知識の吸収と、身についた知識の振り返りを重ねつつ、今後も、自己研鑽を重ねようとする意欲をあわせ持つスポーツ指導者の姿を再確認することができた。

また、今回作成した評価基準は、スポーツ指導者が身につけておくべき内容であるにもかかわらず、多くのスポーツ指導者が内容の理解が不十分であり、必要性がないと判断する項目もあることも明らかとなった。

これらのことから、スポーツ指導者が自らの指導をこの評価基準により振り返り、すでに身につけている知識・技能についての再確認や、新たな知識・技能を身につける研鑽のきっかけづくりとして活用することが望まれる。この調査結果から、県立体育センターとしても、スポーツ指導者研修等のあり方や支援の方向性を見出すことができた。

＜項目の精選について＞

観点別評価基準において設定した「不十分」「おおむねよい」「よい」の判断基準は、指導を振り返る基準として有効であることを知ることができた。

設定した 50 項目の内容は、指導を振り返る項目として必要であるが、スポーツ指導者に理解されやすい表現の工夫は必要であることを知ることができた。

「社会がスポーツに望む役割、スポーツ指導者に望む資質」を反映させた項目づくりや、スポーツ指導者からスポーツ指導を受ける参加者が、スポーツ指導者に身に付けておいてほしいと望む知識・技能とは何か、そういった意見を反映させた項目の精選が必要であることを知ることができた。

以上のことを踏まえ、本研究で開発したスポーツ指導者の質と水準に関する観点別評価基準の活用と、さらなる改善についての検討を進めていきたいと考える。

最後になりましたが、本研究を進めるにあたって、項目検討やアンケートに快くご協力いただいた、横浜YMCA 専門学校校長及び神奈川県スポーツ指導者連絡協議会会長、神奈川県生涯スポーツリーダー会副会長、日本体育協会ジュニアスポーツ指導員講師、神奈川県スポーツ指導者連絡協議会登録指導者、神奈川県スポーツリーダーバンク登録指導者の皆様、また貴重なアドバイスをいただいた横浜国立大学教育人間科学部海老原修教授に心より感謝申し上げます。

資料

平成 20 年 10 月実施

スポーツ指導者の質と水準に関する観点別評価基準に関する調査

<調査の目的>

この調査は、スポーツ指導者の意識や活動状況を知るとともに、スポーツ指導者として身につけておくことが望ましい基礎・基本の知識・技能等を体系化し、その水準を自己評価することができる観点別評価基準を開発するための基礎資料を得ることを目的としています。

<個人情報の保護>

この調査の回答結果はすべて統計的に処理し、研究成果を公表する場合も個人・団体を特定できる情報として提示されることはありません。

<問い合わせ先>

横浜国立大学教育人間科学部 スポーツ社会学研究室	TEL 045-339-3272
神奈川県立体育センター スポーツ情報室	TEL 0466-81-5611

<調査企画>

神奈川県スポーツ指導者連絡協議会会長	加藤 保房
横浜国立大学教育人間科学部教授	海老原 修
神奈川県立体育センター所長	佐々木 悦子

※ 空欄に記入するか、番号に○印をつけてください。

問1 年齢（平成20年10月1日現在） （○は1つだけ） n=640

1. 20歳未満	2(0.3)	2. 20～25歳未満	1(0.2)	3. 25～30歳未満	4(0.6)
4. 30～35歳未満	6(0.9)	5. 35～40歳未満	12(1.9)	6. 40～45歳未満	18(2.8)
7. 45～50歳未満	43(6.7)	8. 50～55歳未満	80(12.5)	9. 55～60歳未満	99(15.5)
10. 60歳以上	375(58.6)				

問2 性別 （○は1つだけ） n=638

1. 男性	348(54.5)	2. 女性	290(45.5)
-------	-----------	-------	-----------

問3 あなたが指導者登録する団体について、該当する項目にすべて○印をつけてください。

（○はいくつでも） n=629 MA

1. 神奈川県スポーツ指導者連絡協議会	2. 神奈川県スポーツリーダーバンク
399(63.4)	345(54.8)

問4 あなたが定期的に指導する団体数をお知らせください。 （○は1つだけ） n=629

1. 1団体	2. 2団体	3. 3団体	4. 4団体	5. 5団体
--------	--------	--------	--------	--------

244 (38.8)	136 (21.6)	117 (18.6)	42 (6.7)	34 (5.4)
6. 6 団体	7. 7 団体	8. 8 団体	9. 9 団体	10. 10 団体以上
19 (3.0)	9 (1.4)	9 (1.4)	5 (0.8)	14 (2.2)

問 5 **指導種目名**及びスポーツ指導における**指導資格及び資格認定団体**を**正式名称**でお知らせください。**複数種目を指導されている方は、3つまで**ご記入ください。
 < P 61 参照 >

問 6 あなたが指導する対象者について、該当する項目にすべて○印をつけてください。
 (○はいくつでも) n=640 MA

1. 乳・幼児	2. 小学生	3. 中学生	4. 高校生
98 (15.3)	308 (48.1)	259 (40.5)	207 (32.3)
5. 一般	6. 高齢者	7. 障害者	
500 (78.1)	379 (59.2)	119 (18.6)	

問 7 あなたは、週に平均何日くらい指導していますか。 (○は1つだけ) n=609

1. 1日 173 (28.4)	2. 2日 158 (25.9)	3. 3日 105 (17.2)	4. 4日 68 (11.2)
5. 5日 48 (7.9)	6. 6日 38 (6.2)	7. 7日 19 (3.1)	

問 8 あなたは、**1回あたり**平均何時間くらい指導していますか。

- (ア) 平日の指導時間
- (イ) 土曜日の指導時間
- (ウ) 祝日の指導時間

< 図 7 参照 >

問 9 あなたがスポーツ指導を実施する際に、もっとも重要なことはどれでしょうか。次の3項目のうち重要と思う順番に1位、2位、3位と番号をつけてください。

(ア) フェアプレイにプレイすること (フェアプレイ)	n=597
1位 319 (53.4) 2位 238 (39.9) 3位 40 (6.7)	
(イ) スキルの向上を目指すこと (スキル)	n=604
1位 270 (44.7) 2位 203 (50.2) 3位 31 (4.8)	
(ウ) 勝つこと (勝利)	n=579
1位 20 (3.5) 2位 52 (9.0) 3位 507 (87.6)	

「スポーツ指導者の質と水準に関する観点別評価基準」調査票

Q 1～Q 50 への回答方法：

まず、現時点でのあなたの達成状況を自己評価して「不十分（1）」「おおむねよい（2）」「よい（3）」のいずれかに○印をつけてください。

次いで、スポーツ指導者として身につけておくことが望ましい基礎・基本の知識・技能として、Q 1からQ 50 の項目が必要かどうか、必要性の有無（有：必要である、無：必要がない）のどちらかに○印をつけてください。

記入例	不十分	おおむねよい	よい	必要性の有無	
	(1)	(2)	(3)	→	有 無
1 基本的素養					
Q 1 <可能性への期待> n=633 すべての参加者を人間として尊重し、一人ひとりの持つ高い可能性を期待する。	・参加者への尊重に一貫性を欠く。 ・参加者の可能性に対して不適切な期待を持つ。 (1) 3(0.5)	・参加者を尊重している。 ・参加者の可能性に概ね適切な期待を持つ。 (2) 388(61.3)	・参加者を尊重している。 ・参加者の可能性の多様性を踏まえ、適切な期待を持つ。 (3) 242(38.2)	→	n=613 有 598 (97.6) 無 15 (2.4)
Q 2 <期待される人間性> n=634 指導者として、参加者に期待する望ましい価値、態度、行動を示し、それを促進できる。	・参加者との境も自身で区別できない。 ・参加者に不適切な例を示す。 (1) 3(0.5)	・指導者としての良識を備えている。 ・参加者に概ね適切な例を示す。 (2) 393(62.0)	・指導者としての良識を備えている。 ・参加者に望ましい適切な例を示す。 (3) 238(37.5)	→	n=610 有 601 (98.5) 無 9 (1.5)
Q 3 <応答的な人間関係> n=635 参加者との良好かつ建設的な人間関係を築く。	・触れ合いの場を作る意欲に乏しい。 ・研修や他者の助言により、良好な関係を築くことができる。 (1) 15(2.4)	・触れ合う場を考えている。 ・対話を大切にし、概ね良好な関係を築くことができる。 (2) 376(59.2)	・多くの場で触れ合うことを考えている。 ・うまく対話し、良好な関係を築くことができる。 (3) 244(38.4)	→	n=614 有 604 (98.4) 無 10 (1.6)
Q 4 <協力的な人間関係> n=633 指導者仲間と良好な人間関係を築き、実践・研究・協働の場で貢献する。	・実践、研究、協働に受け身的である。 ・貢献意欲に欠ける。 (1) 42(0.7)	・実践、研究、協働に主体的に関わる。 ・概ね効果的に貢献することができる。 (2) 391(61.8)	・実践、研究、協働に主体的に関わる。 ・効果的に貢献することができる。 (3) 200(31.6)	→	n=609 有 594 (97.5) 無 15 (2.5)
Q 5 <実践的指導力の向上> n=636 企画力・計画力・指導力を自己評価し、指導者仲間の実践的指導や事例から学ぶことを通じて、自らの実践的指導力の向上を図る。	・自身の指導を評価したり、改善したりする必要性を理解しない。 ・研修への意欲に欠ける。 (1) 20(3.1)	・研修や他者の助言により、自身の指導を評価できる。 ・改善の視点を理解する。 (2) 390(61.3)	・自身の指導を評価できる。 ・研修や他者の助言により、効果的に改善できる。 (3) 226(35.5)	→	n=607 有 597 (98.4) 無 10 (1.6)
Q 6 <地域の役割理解> n=633 地域の役割や文化を理解し、良識的かつ効果的に対応する。	・地域への対応が画一的、断片的である。 ・効果的な対応に努力を要する。 (1) 81(12.8)	・研修や他者の助言により、地域と概ね効果的な対応ができる。 (2) 349(55.1)	・研修や他者の助言により、地域と場面に応じた効果的な対応ができる。 (3) 203(32.1)	→	n=606 有 563 (92.9) 無 43 (7.1)

記入例	不十分	おおむねよい	よい	必要性の有無	
	(1)	(2)	(3)	→	有 無
2-1 知識・理解	不十分	おおむねよい	よい	必要性の有無	
Q7<基礎的な知識・技能>n=627 身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能の目標や内容を理解する。	・参加者に応じた、指導目標や内容について理解が不十分である。 (1) 12(1.9)	・参加者に応じた、指導目標や内容については断片的であるが、ある程度理解している。 (2) 289(46.1)	・総括的に参加者ごとの指導目標や内容について理解している。 (3) 326(52.0)	→	n=607 有 602 (99.2) 無 5 (0.8)
Q8<系統的な指導計画の作成>n=626 身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能について、系統的指導計画の作成について理解する。	・系統的指導の意味理解も十分ではない。 ・指導計画の作成についても研修の必要がある。 (1) 50(8.0)	・種目等への理解を示す。 ・系統的指導の計画作成について、研修や他者の助言により、それなりに理解できる。 (2) 377(60.2)	・系統的指導の意味を十分理解している。 ・計画作成について手順、方法などが分かる。 (3) 199(31.8)	→	n=602 有 583 (96.8) 無 19 (3.2)
Q9<知識・用具の理解と分析>n=620 技術の習得、技能の向上の基礎となる練習方法の工夫・用具の意味や分析の方法を理解する。	・練習方法や用具の工夫の意味やその情報収集、分析方法などについて理解が不足している。 (1) 31(5.0)	・練習方法や用具の工夫の意味、特性がわかる。 ・参加者の実態に応じた適切な種目分析の工夫と方法を理解している。 (2) 350(56.5)	・参加者の実態を考慮し、練習方法や用具の選択、活用、時間配列、系統性など総括的な分析の方法を理解している。 (3) 239(38.5)	→	n=597 有 576 (96.5) 無 21 (3.5)
Q10<指導計画作成・指導方法>n=624 指導計画や指導の方法を理解する。	・基礎的な1回単位の指導案(日案)や指導方法についての理解が不十分である。 (1) 41(6.6)	・基礎的な年間(月間)指導計画、日案や指導方法について概ね理解している。 (2) 387(62.0)	・年間(月間)指導計画、日案や指導方法について理解している。 ・相互関連を考慮することができる。 (3) 196(31.4)	→	n=602 有 589 (97.8) 無 13 (2.2)
Q11<評価の理解>n=614 評価について理解する。	・評価の意味や評価方法の理解が不足している。 (1) 55(9.0)	・指導目標への到達状況を見取る評価の意味や基礎的な評価方法を概ね理解している。 (2) 432(70.4)	・参加者の到達状況を適切に捉えるための多様な評価方法を理解している。 (3) 127(20.7)	→	n=592 有 558 (94.3) 無 34 (5.7)
Q12<ICT使用>n=594 指導におけるICT使用について理解する。 (ICT=Information Communication Technology)	・ICTへの理解が不十分である。 (1) 295(49.7)	・ある程度の知識がある。 ・補助的な使用について理解している。 (2) 266(44.8)	・ソフトとハードの知識を備えている。 ・ICTを指導に使用する方法を理解している。 (3) 33(5.6)	→	n=538 有 430 (79.9) 無 108 (20.1)
Q13<基礎条件・発達>n=620 参加者の基礎条件(既存の知識・経験・達成度等)や発達について理解する。	・知識や理解が不十分である。 (1) 26(4.2)	・概ね理解している。 ・研修や他者の助言により参加者の状況を把握できる。 (2) 403(65.0)	・理解している。 ・個々の参加者の状況を考慮した計画を立案できる。 (3) 191(30.8)	→	n=590 有 567 (96.1) 無 23 (3.9)

記入例	不十分	おおむねよい	よい	必要性の有無	
	(1)	(2)	(3)	→	有 無

2-2 知識・理解	不十分	おおむねよい	よい	必要性の有無	
Q14<要支援者への理解> n=612 支援を必要とする参加者（障害者等）について理解する。	・知識や理解が不十分である。 (1) 222(36.3)	・特徴や指導方法について概ね理解している。 (2) 292(47.7)	・特徴や指導方法、多様なニーズについて理解している。 (3) 98(16.0)	→	n=587 有 549 (93.5) 無 38 (6.5)
Q15<スポーツマンシップの指導> n=617 スポーツマンシップの価値、規範について理解する。	・知識や理解が不十分である。 (1) 25(4.1)	・ある程度理解している。 (2) 299(48.5)	・実態に即して考え理解している。 (3) 293(47.5)	→	n=589 有 558 (94.7) 無 31 (5.3)

3 指導①目標・計画	不十分	おおむねよい	よい	必要性の有無	
Q16<指導目標の設定> n=624 身につけさせたい基礎的・基本的な知識・技能を踏まえて、参加者の実態に応じた適切な指導目標を設定する。	・参加者の実態把握にむらがある。 ・指導目標を設定するには努力を要する。 (1) 46(7.4)	・参加者の実態をある程度把握している。 ・実態に応じた指導目標を設定できる。 (2) 426(68.3)	・参加者の実態を的確に把握している。 ・実態に応じた指導目標を設定できる。 (3) 152(24.4)	→	n=597 有 582 (97.5) 無 15 (2.5)
Q17<指導計画・日案の作成> n=622 参加者の段階、興味・関心などの多様性を考慮して、年間（月間）指導計画と1回単位の指導案を立案する。	・計画、立案に努力を要する。 (1) 105(16.9)	・参加者の活動状況、興味・関心を考慮した指導計画、指導案を作成できる。 (2) 390(62.7)	・参加者の多様性に応じた指導計画、指導案を作成できる。 (3) 127(20.4)	→	n=597 有 565 (94.6) 無 32 (5.4)
Q18<指導計画・日案の修正> n=614 参加者の到達状況に応じて指導計画、指導案を修正する。	・計画を修正することが困難である。 (1) 46(7.5)	・概ね適切に修正することができる。 (2) 410(66.8)	・適切に修正できる。 (3) 158(25.7)	→	n=588 有 556 (94.9) 無 32 (5.4)
Q19<知識・用具の準備・開発> n=607 目標到達のために必要な技術の習得、技能の向上の基礎となる練習方法や用具を選択したり、開発したりする。	・練習方法や用具の選択、開発が困難である。 (1) 92(15.2)	・練習方法や用具の選択、開発が概ね組織化している。 (2) 387(63.8)	・情報を多方面から集めた上で、適切な分析と組織化ができる。 ・新たな開発にも意欲を示す。 (3) 128(21.1)	→	n=580 有 532 (91.7) 無 48 (8.3)
Q20<指導計画の作成> n=616 見通しをもった短期・長期の指導計画を立案する。	・研修や他者の助言を通して、ある程度立案できる。 (1) 117(19.0)	・研修や他者の助言を通して、適切に立案できる。 (2) 345(56.0)	・見通しをもって立案できる。 (3) 154(25.0)	→	n=584 有 567 (97.1) 無 17 (2.9)
Q21<体験指導の計画> n=599 体験指導（遠征・合宿等）を想定しての活動計画を立案する。	・研修や他者の助言を通して、ある程度立案ができる。 (1) 176(29.4)	・体験指導のねらいを把握している。 ・自分なりにねらいに即した活動計画を立案できる。 (2) 307(51.3)	・参加者の実態を把握している。 ・体験指導のねらいに即した活動計画を立案できる。 (3) 116(19.4)	→	n=575 有 504 (87.7) 無 71 (12.3)

記入例	不十分	おおむねよい	よい	必要性の有無	
	(1)	(2)	(3)	→	有 無

4 指導②実施	不十分	おおむねよい	よい	必要性の有無	
Q22<指導の実習> n=622 目標に沿って適切に指導を実施する。	・適切に指導を行うには努力を要する。 (1) 23(3.7)	・概ね適切に指導できる。 ・概念技能を教える際に参加者とコミュニケーションできる。 (2) 468(75.2)	・ある程度の高い基準にまで指導力が高まっている。 (3) 131(21.1)	→	n=600 有 592 (98.7) 無 8 (1.3)
Q23<個別指導> n=611 習熟の程度や興味・関心に応じた多様な指導方法、特に個別指導を活用し、適切に実施する。	・個別指導を取り入れることができない。 (1) 60(9.8)	・個別指導をある程度適切に活用することができる。 (2) 386(63.2)	・個別指導を効果的に活用することができる。 (3) 165(27.0)	→	n=591 有 541 (91.5) 無 50 (8.5)
Q24<グループ指導> n=616 習熟の程度や興味・関心に応じた多様な指導方法、特にグループ指導を活用し、適切に実施する。	・グループ指導を取り入れることができない。 (1) 36(5.8)	・グループ指導をある程度適切に活用することができる。 (2) 390(63.3)	・グループ指導を効果的に活用することができる。 (3) 190(30.8)	→	n=590 有 561 (95.1) 無 29 (4.9)
Q25<指導時間の有効活用> n=614 指導目標の具現化をめざし、有効に時間を使う。	・時間配分が効果的でない。 (1) 37(6.0)	・研修や他者の助言により、効果的な時間配分ができる。 (2) 359(58.5)	・効果的な時間配分ができる。 (3) 218(35.5)	→	n=583 有 561 (96.2) 無 22 (3.8)
Q26<練習方法や用具の選択> n=608 安全でかつ有効な練習方法や用具を選択してそれを使用し管理する。	・実施、管理するには不十分である。 (1) 44(7.2)	・研修や他者の助言により実施、管理できる。 (2) 3 54(58.2)	・組織化された安全な指導空間で実施・管理できる。 (3) 210(34.5)	→	n=585 有 557 (95.2) 無 28 (4.8)
Q27<発展的・補充的な課題> n=602 参加者の実態に応じた適切な課題を課し、補充・発展的な習得を促進する。	・研修や他者の助言により、補充的な課題を課すことができる。 (1) 73(12.1)	・概ね適切な補充・発展的な課題を、課すことができる。 (2) 403(66.9)	・適切な補充・発展的な課題を課し、活動と関連付けることができる。 (3) 126(20.9)	→	n=570 有 541 (94.9) 無 29 (5.1)

記入例	不十分	おおむねよい	よい	必要性の有無	
	(1)	(2)	(3)	→	有 無

5 指導③評価	不十分	おおむねよい	よい	必要性の有無	
Q28<評価方法とその活用> n=598 さまざまな見取りと評価方法を適切に使用し、それを指導計画と指導の改善に生かす。	・指導と評価は表裏一体であることへの理解が不十分である。 (1) 80(13.4)	・研修や他者の助言により、評価を使用した指導計画と指導の改善に着手できる。 (2) 403(67.4)	・評価を使用し、指導計画と指導の改善に生かすことができる。 (3) 115(19.2)	→	n=572 有 534 (93.4) 無 38 (6.6)
Q29<即時的な評価・フィードバック> n=587 指導における即時かつ適切な評価とフィードバックを行う。	・指導中の評価(採点等)が形式的。 ・フィードバックを行うには努力を要する。 (1) 101(17.2)	・指導中の評価(採点等)が概ね適切である。 ・フィードバックに役立つよう工夫している。 (2) 376(64.1)	・指導中の評価が適切である。 ・効果的なフィードバックを行うことができる。 (3) 110(18.7)	→	n=569 有 520 (91.4) 無 49 (8.6)
Q30<目標に基づいた評価> n=605 身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能の到達目標基準に基づき、参加者の到達状況を適切に評価する。	・指導目標の理解が十分ではない。 ・評価基準に沿って参加者の到達状況を評価するには努力を要する。 (1) 69(11.4)	・指導目標を基本的に理解している。 ・評価基準に沿った到達状況の評価ができる。 (2) 435(71.9)	・指導目標を理解している。 ・評価基準に沿った到達状況の厳格な評価ができる。 (3) 101(16.7)	→	n=577 有 545 (94.5) 無 32 (5.5)
Q31<活動状況の適切な把握・記録> n=600 参加者の活動状況・到達状況を的確に把握し記録する。	・適切に記録することが困難である。 (1) 105(17.5)	・概ね記録できる。 (2) 405(67.5)	・第3者が理解できるように組織的に記録をすることができる。 (3) 90(15.0)	→	n=573 有 520 (90.8) 無 53 (9.2)

6-1 指導④観察・分析	不十分	おおむねよい	よい	必要性の有無	
Q32<話し方・聞き方・指名の仕方> n=612 話し方、聞き方、指名の仕方等が活動にどのように有効に作用しているか、指導を観察する。	・研修や他者の助言により理解し観察できる。 (1) 46(7.5)	・基礎基本についてそれなりに理解し観察できる。 (2) 366(59.8)	・基本的なことは何かをよく理解しながら観察できる。 (3) 200(32.7)	→	n=586 有 564 (96.2) 無 22 (3.8)
Q33<プリント等の活用・記録ノート指導> n=596 プリント・記載方法の工夫等、記録ノート指導などが参加者の活動にどのように有効に作用しているか、他者の指導を観察する。	・研修や他者の助言により観察の視点が分かる。 (1) 156(26.2)	・プリントの意義、記載方法の工夫の価値などが分かり、観察できる。 (2) 351(58.9)	・効果的なプリントや記載方法を工夫しながら観察できる。 (3) 89(14.9)	→	n=575 有 512 (89.0) 無 63 (11.0)
Q34<技能、用具の活用・利用> n=606 指導内容に適した練習方法や用具の活用の仕方について他者の指導を観察し、効果的な扱いを指導に生かす。	・研修や他者の助言により観察の視点が分かる。 (1) 86(14.2)	・指導目標達成のために自分で視点を決めて観察できる。 (2) 358(59.1)	・よりよい指導のために、有効に活用・利用するよう観察できる。 (3) 162(26.7)	→	n=584 有 544 (93.2) 無 40 (6.8)

記入例	不十分	おおむねよい	よい	必要性の有無	
	(1)	(2)	(3)	→	有 無

6-2 指導④観察・分析	不十分	おおむねよい	よい	必要性の有無	
Q35<指導者と参加者の関わり> n=630 目標達成の観点から学びあいの場における指導者と参加者同士の関わり合いについて指導を観察する。	・研修や他者の助言により観察の視点が分かる。 (1) 52(8.5)	・関連的な関わり的大事さが分かり観察できる。 (2) 406(66.6)	・よりよい関連性の意義を十分理解しながら観察できる。 (3) 152(24.9)	→	n=576 有 547 (95.0) 無 29 (5.0)
Q36<個への支援> n=603 指導者による参加者の活動状況に応じた支援の仕方・対応について、指導を観察する。	・研修や他者の助言により観察の視点が分かる。 (1) 67(11.1)	・個を理解し問題点を模索するなかで、その場に応じた効果的な対応を考えて観察できる。 (2) 393(65.2)	・個の実態を理解したうえで、よりよい対応を考えて観察できる。 (3) 143(23.7)	→	n=573 有 541 (94.4) 無 32 (5.6)
Q37<指導評価> n=601 課題解決のためにどのように指導評価を効果的に行っているかについて、指導を観察する。	・研修や他者の助言により観察の視点が分かる。 (1) 80(13.3)	・ある程度の指導評価の意味、活用技術を理解するなかで観察できる。 (2) 401(66.7)	・活動の実態を捉えた課題、まとめの評価、参加者の自己評価なども理解しながら観察できる。 (3) 120(20.0)	→	n=559 有 526 (94.1) 無 33 (5.9)
Q38<マナー・約束> n=612 活動の場におけるマナーや約束ごとを知り、その意図を理解して観察する。	・研修や他者の助言により観察の視点が分かる。 (1) 21(3.4)	・理解を示しながら観察できる。 (2) 283(46.2)	・十分意識し、その大切に理解を示しながら観察できる。 (3) 308(50.3)	→	n=577 有 557 (96.5) 無 20 (3.5)
Q39<活動記録> n=600 明瞭な活動記録の取り方が分かり整理・記録する。	・研修や他者の助言により実践することができる。 (1) 133(22.2)	・ある程度の即時的な活動記録の取り方が分かる。 ・記録をまとめることができる。 (2) 384(64.0)	・活動記録の意義を理解している。 ・明確な目的のもとに即時的な記録を取ることができる。 (3) 83(13.8)	→	n=572 有 523 (91.4) 無 49 (8.6)
Q40<活動分析> n=607 活動結果の分析から次時の指導に向けた計画実践への指針を得る。	・研修や他者の助言により計画することができる。 (1) 76(12.5)	・自分なりに次時の指針を考えることができる。 (2) 392(64.6)	・分析を生かしながら次時の指導の指針を考えることができる。 (3) 139(22.9)	→	n=573 有 538 (93.9) 無 35 (6.1)

記入例	不十分	おおむねよい	よい	必要性の有無	
	(1)	(2)	(3)	→	有 無

7 指導現場の 経営・運営	不十分	おおむねよい	よい	必要性の有無	
Q41<参加者との良好な信頼関係> n=612 参加者との多様な関わりを通して参加者を理解し、良好な信頼関係をつくる。	・信頼関係を築くためには努力を要する。 (1) 15(2.5)	・良好な信頼関係をつくるために努力している。 (2) 341(55.7)	・多くの場で進んで参加者との関わりをもつ。 ・よりよい信頼関係をつくることに努力している。 (3) 256(41.8)	→	n=587 有 573 (97.6) 無 14 (2.4)
Q42<指導環境の整備> n=608 参加者の活動を促進する指導環境の整備と指導時間の有効利用をする。	・研修や他者の助言により有効利用できる。 (1) 73(12.0)	・環境整備と指導時間の有効利用ができる。 (2) 411(67.6)	・活動の促進に役立つ環境整備と多様な指導時間の有効利用ができる。 (3) 124(20.4)	→	n=579 有 555 (95.9) 無 24 (4.1)
Q43<公正な指導環境風土の構築> n=596 公正と互いの尊厳を促す指導の場における風土づくりを設定する。	・設定が不十分である。 (1) 53(8.9)	・研修や他者の助言により、ある程度設定できる。 (2) 423(71.0)	・多角的方策を考慮した考えを実践する。 ・公正と尊厳に満ちた指導の場における風土づくりを設定できる。 (3) 120(20.1)	→	n=558 有 515 (92.3) 無 43 (7.7)
Q44<規律の確立・維持> n=594 互いの行動に関する規律をつくり、その枠組みを確立し、それを維持する。	・一貫性のない不適切な枠組みをつくる。 (1) 18(3.0)	・参加者との話し合いのもとで規律をつくる。 ・その枠組みを確立する。 (2) 412(69.4)	・互いの行動に関する規律を十分話し合わせてつくる。 ・その枠組みを確立し、その履行に努める。 (3) 164(27.6)	→	n=574 有 539 (93.9) 無 35 (6.1)
Q45<いじめ・不登校等への対応> n=559 いじめ、不登校等の問題を理解し、即時的かつ効果的に対応する。	・理解が乏しく、その対応に努力を要する。 (1) 101(18.1)	・研修や他者の助言により対応できる。 (2) 323(57.8)	・問題解決のために自主的な方策等を継続的に進めることができる。 (3) 135(24.2)	→	n=534 有 485 (90.8) 無 49 (9.2)
Q46<要支援者への対応> n=587 指導現場の中での支援を要する参加者（障害者等）を理解し対応する。	・理解が不十分である。 ・対応に努力を要する。 (1) 151(25.7)	・参加者のニーズや経験を意識して対応することができる。 (2) 339(57.8)	・理解している。 ・組織的に対応することができる。 (3) 97(24.2)	→	n=556 有 522 (93.9) 無 34 (6.1)

記入例	不十分	おおむねよい	よい	必要性の有無	
	(1)	(2)	(3)	→	有 無
8 組織理解と運営への協力					
Q47<組織・運営の理解・協力> n=616 組織・運営を理解し、協力、参加する。	・組織への理解が不十分である。 (1) 29(4.7)	・ある程度理解し協力、参加することができる。 (2) 328(53.2)	・組織と運営を理解し、協力、参加することができる。 (3) 259(42.0)	→	n=588 有 569 (96.8) 無 19 (3.2)
Q48<組織における役割分担の理解> n=614 組織における役割分担と、その機能を理解する。	・機能への理解が不十分である。 (1) 39(6.4)	・機能についてある程度理解している。 (2) 321(52.3)	・機能性を深める努力をしている。 (3) 254(41.4)	→	n=581 有 562 (96.7) 無 19 (3.3)
Q49<安全性・事故防止への理解> n=620 活動における安全性への配慮について理解し、指導中の事故防止（指導環境等の工夫）に努める。	・事故防止への理解が不十分である。 (1) 13(2.1)	・研修や他者の助言により、指導中の事故防止に努めることができる。 (2) 223(36.0)	・活動における安全性の配慮について理解し、指導中の事故防止に努める。 (3) 384(61.9)	→	n=597 有 591 (99.0) 無 6 (1.0)
Q50<事故対応等への理解> n=618 活動における事故（参加者の急変等）対応について理解し、即時かつ効果的に対応する。	・事故対応への理解が不十分である。 (1) 27(4.4)	・研修や他者の助言により、対応できる。 (2) 289(46.8)	・活動における事故対応について理解し、即時かつ効果的に対応している。 (3) 302(48.9)	→	n=592 有 585 (98.8) 無 7 (1.2)

Q1～Q50の項目以外に、スポーツ指導者が身に付けておくことが望ましい基礎・基本の知識・技能について、ご意見がありましたらご記入ください。

< P63～P66 参照 >

アンケートに答えていただいたの感想をご記入ください。

< P66 参照 >

ご協力ありがとうございました。

【問5 指導種目、指導資格の集計】

	種目名	合計	日体協公認	種目団体養成	公益法人養成	教員免許等	県養成
1	アーチェリー	1	1	0	0	0	0
2	インディアカ	2	0	2	0	0	0
3	ウェイトトレーニング	1	—	1	0	0	0
4	ウォーキング	7	—	7	0	0	0
5	エアロビック	15	14	1	0	0	0
6	オリエンテーリング	2	—	0	2	0	0
7	キャンプ	3	—	0	3	0	0
8	キンボール	2	—	2	0	0	0
9	グラウンドゴルフ	12	12	0	0	0	0
10	クラブマネージャー	2	0	0	0	0	2
11	クレール射撃	1	1	0	0	0	0
12	ゲートボール	12	10	2	0	0	0
13	サイクリング	1	—	0	1	0	0
14	サッカー	10	9	0	0	1	0
15	スキー	4	3	1	0	0	0
16	スキューバダイビング	1	—	1	0	0	0
17	スケート	6	5	1	0	0	0
18	スノーボード	2	—	2	0	0	0
19	スポーツチャンバラ	2	—	2	0	0	0
20	セーリング	5	5	0	0	0	0
21	その他	34	17	3	0	13	1
22	ソフトテニス	23	20	1	0	1	1
23	ソフトバレーボール	3	0	3	0	0	0
24	ソフトボール	28	25	2	0	1	0
25	ターゲットバードゴルフ	4	—	4	0	0	0
26	ダンス	1	—	0	0	1	0
27	ダンススポーツ	5	5	0	0	0	0
28	ティボール	2	—	2	0	0	0
29	テニス	30	28	2	0	0	0
30	トランポリン	2	—	2	0	0	0
31	なぎなた	18	18	0	0	0	0
32	日本近代五種・バイアスロン	1	1	0	0	0	0
33	バウンドテニス	2	—	2	0	0	0
34	バスケットボール	7	4	0	0	1	2
35	バドミントン	32	29	3	0	0	0
36	パラグライダー	1	—	0	1	0	0
37	バレーボール	19	14	1	0	4	0
38	ハンドボール	4	4	0	0	0	0
39	フィットネス	10	8	2	0	0	0
40	フォークダンス	5	—	5	0	0	0
41	ペタンク	4	—	4	0	0	0
42	ボウリング	3	3	0	0	0	0
43	ボート	2	2	0	0	0	0
44	ラグビーフットボール	6	6	0	0	0	0
45	弓道	3	3	0	0	0	0
46	空手道	26	22	4	0	0	0
47	健康運動指導士	3	—	0	3	0	0
48	剣道	13	13	0	0	0	0
49	合気道	2	0	2	0	0	0
50	山岳	7	7	0	0	0	0
51	自彊術	1	—	1	0	0	0
52	柔道	1	—	0	0	0	1
53	銃剣道	2	2	0	0	0	0
54	障害者スポーツ	2	—	2	0	0	0
55	水泳	28	27	0	0	1	0
56	相撲	1	—	1	0	0	0
57	太極拳	11	—	11	0	0	0
58	体操（競技、新）	48	46	2	0	0	0
59	体操（一般）	32	30	0	0	2	0
60	卓球	72	64	6	0	2	0
61	軟式野球	20	20	0	0	0	0
62	馬術	2	2	0	0	0	0
63	民踊	4	—	4	0	0	0
64	陸上競技	7	5	2	0	0	0
65	3033運動	7	—	0	0	0	7
66	3B体操	11	—	11	0	0	0
	合計	640	485	104	10	27	14

【フリーアンサーの集計】

Q 1～Q50 の項目以外に、スポーツ指導者が身に付けておくことが望ましい基礎・基本の知識・技能について、いただいたご意見を内容ごとにまとめて掲載した。

また、いただいたご意見に該当すると思われる項目番号を、文中に記載した。

1 50項目に該当しない意見

- ・ 国や政府のスポーツ政策についての理解や是非の見解。
- ・ 後継者の養成が必要、痛感する。

2 50項目に該当すると思われる意見（該当する項目番号を、文中に記載）

(1) 自己研鑽の姿勢、用具の発達やルール変更への対応等

- ・ 参加者が初心者であれ、指導者は十分に技術的にはもちろん人間的なものも要求される（→Q 2、Q41）ものと思うし、常に新しい情報をキャッチし研究しながら歩いていく（→Q 19）ものと思います。
- ・ ユーモアがあり、親しみやすくいろいろなことが気軽に相談できる気安さ（→Q 3、Q41）、といつでも最新の情報が提供できるアンテナを持っていることが大切（→Q19）。
- ・ 近年のスポーツ環境は、用具の発展、利用方法によって成績が左右されることも大きな要素で、情報の伝達も早く、アスリートに対する心理的影響もレスポンスも大きい。そのためには、指導者はそれ以上に常に情報交換や研修にと日々進歩していく必要がある（→19）。これで良いというレベルはない。指導を受ける人のレベルや目的も個々に異なるため、たくさんの事例によって学ぶべきことがある（→Q 1、Q13、Q17、Q18）。そのためには、たくさんの指導者の交流は常に不可欠である（→Q 4、Q 5）。
- ・ ルールが変更になったりするので、審判資格を持たない場合でも、それを明確に説明できるという知識が必要です（→Q 7、Q19）。
- ・ 指導内容（種目）によっては、知識、技能で不足する部分が多々あることと思います。専門的に勉強したと思えても、歴史的背景のあるものなどについては、謙虚さを忘れてはいけません（→Q 2）。私自身の事を押し量っても、もう少し深く学びたいと痛感しています（→Q 5）。
- ・ ビデオを入手して基礎技術を学び、小学校のクラブ活動、中学校の部活、シニアチーム等の指導に当たっているが、大変役に立っている。（入手したビデオ、バッティング、守備、投球技術など）技術指導のビデオを斡旋したらどうか（→Q19）。
- ・ 楽しくできることや厳しくできることの情熱さと、たくさんの指導経験値、人間性など（→Q 2、Q 3、Q41）、また安全性が不可欠（→Q26、Q49）、スポーツ指導者が自ら有する知識や指導技術等を振り返ることが本当にできていないのでしょうか？日々、精進の毎日ではないかと私は思っています。評価は常にされるべき（→Q11）であり、また、それを自分の力に変えて向上すること（→Q 5）だと思っています。
- ・ 年齢、障害のあるなしにかかわらず、お互いが一人の人間である、という基本的な理念の重点がとても大切（→Q14）だと思う。もちつ、もたれつ、支えあい、明るく、笑顔、会話のある雰囲気作り（→Q 2、Q 3、Q41）が、心身ともにバランスのとれた健康づくり、人づくりだと思っています。体について、もっともっと学びたい。
- ・ 教える技能と競技の技能は別であると思っています。教える技能をもっと高めることが必要（→Q 5）かと存じます。ダメ、ダメではなく、なんでダメなのかその理由（ポイント）を教えることが大切と思う。
- ・ 「How to」では不十分、「学」の武装した指導者（→Q 5）が理想。

(2) 道徳・倫理・思いやり

- ・ 道徳的、倫理的、知識、人への思いやりなど・・・(→Q 2、Q15) でも、こういう事は、今さら人に教わって・・・って思う方は少ないですよ。
- ・ スポーツの技術だけではなく、マナー、言葉遣いなども大事なことなので、気づいたことは注意をしたり、子どもの場合は、失敗を笑ったり、言葉で人を傷つけてしまい、人間関係が原因でスポーツを続けることが嫌いになったり、いじめにつながるケースも多いため、練習はスポーツの指導だけではなく大人として 1 人ひとりに伝わるような話しかけ、平等に接しています (→Q15、Q41)。
- ・ 部活 (中学野球) の勝負よりも学校生活を、特に指導している。技術的には基本の徹底、挨拶、礼儀を重んじて指導している (→Q15)。
- ・ 社会性、心を磨くこと (→Q15)。(技術は当たり前)
- ・ 社会倫理に関すること (→Q15)、スポーツ倫理に関すること。
- ・ 礼儀を大切に、指導者としての心構えが指導を受ける者の人間的な成長、技術的な成長、社会に通用する心の項目 (→Q15) があると良いと思います。
- ・ マナーについての「しつけ」挨拶とか返事など (→Q15) はスポーツ以前の要素。健康、ケガに注意し、その対応について (→Q50) も指導が大切と思う。回りの者への思いやり、剣道では昇級、勝利のとき飛び上がって喜ぶことを禁止している。武道と一般スポーツとは少し趣が異なる、数字を争う西洋のスポーツに対して剣道では品格、気品を求めている、自ずと指導法も変わっていると思う。
- ・ 指導者の言葉遣い、態度、誠実さが大切 (→Q 2、Q 3) です。人間対人間の信頼関係の確立 (→Q41) が第一と考えます。その上での技術指導であり、効果であり、評価ではないかと思っています。
- ・ 競技スポーツでは最終的に勝者は一人しかいない。自己の身体的、精神的な能力向上を意識させる技能 (→Q 2、Q15) を指導者は身に付ける必要がある。(常に敗者の指導者としての立場に立って物事を考える)

(3) 社会的な役割の重要性

- ・ 出来れば、地域スポーツ指導者として「地域の特性、文化等」を理解 (→Q 6) して、身をもって体験する積極性を兼ね備えていたほうが良いと思います。
- ・ 昔に比べて、個人、家庭のあり方、考え方が多様化しています。一つの方向性を打ち出したときには、それぞれ対応も異なります。社会的な役割の重要性 (→Q 6) も認識して取り組まないと。
- ・ コミュニケーションの不足が全く甚だしい時代で、個人主義と利己主義とを理解していない。なんとしてもスポーツ社会で地域を活性化する必要性が重大 (→Q 6) だと思います。

(4) 指導者としての資質

- ・ 指導対象者に平等に接して、適格なアドバイスができるように心がけ (→Q 1、Q 2、Q 3、Q 4)、よりよい環境を築く (→Q43) ように努力していきたい。
- ・ 相手があつての仕事、どんな年齢に対してもコミュニケーションのとり方が大事 (→Q 3、Q41) です。なぜ、どうして今運動するのか、しているのか、しっかりと伝えることが大切だと思っています。
- ・ 指導者として知識や技能は必要なものである (→Q 7) が、それを示すと思われる資格などだけで、指導者を評価してはいけないと思います。指導者は、いろいろな経験をし、多くの人々と交流し、人としての資質を身に付けていること (→Q 2、Q 3、Q 4) が、一番重要なのではないかと考える。

(5) 安全面

- ・ 救命救急法をしっかり身に付けること(→Q49)が望ましい。社会情勢も変化がみられ、軽度と思える事故でも、補償問題に発展する事例もある。
- ・ 事故の際の対応、保険の利用、法律面での基礎知識が必要になってくるのではないだろうか。特に、事故の際の応急、手当、緊急の見極め方、(→Q26、Q50)等不安です。
- ・ 安全性、事故防止が最優先されるべきである(→Q26、Q49)と考えている。
- ・ 事故対応の部分(→Q50)は、もっと具体的に、例えばAEDは常備しているか。かかりつけ、又は常時連絡の取れる救急医はいるか、スポーツ障害の相談医はいるか、等。

(6) 対象者に応じた指導

- ・ 対象者の理解度、体力、体型、特色(関節の柔軟性など)で指導方法、導入、ここの見極めが必要である(→Q13、Q17)ことの再確認が重要と考える。
- ・ 計画(→Q10)と個の理解(→Q1)、コミュニケーション(→Q3)が必要で、専門性を持って関わることが大事だと感じ、よくできたアンケートであると感じます。

(7) メンタル

- ・ スポーツをする子が明るい子とは限らない(→Q1)。メンタル面について知りたい。
- ・ 心理学的又児童心理学といった種類のことを定期的に研修や勉強の場があると、自分の勉強の他にプラスになるのでは、現代の人の心の動きが分かりにくい方がいるので、スポーツを通じ、解決(→Q45)できたらと思っている。

(8) ボランティア

- ・ ボランティアについての項目があってもよいのではないか。精神のあり方が最も大切(→Q2)かと思われます。
- ・ ボランティア活動への心構えや、知識(→Q2)は必要だと思います。

(9) 指導者自身の体調管理

- ・ 自分自身の体づくり(→Q2)。

(10) コンディショニング(生理学・栄養学)

- ・ 運動生理学や栄養学をよく理解し、コンディショニングの重要性を指導(→Q7)すべき。

(11) 保護者の協力・理解

- ・ 参加者の保護者(父母)の理解を重要視している。

(12) ドーピング

- ・ ドーピング知識(→Q7、Q26)。

(13) 複数種目に参加する参加者への対応

- ・ 他のスポーツを並行している参加者への指導方法の知識や技能(→Q1)、いくつものスポーツを習っている子どもたちへの対応、その保護者への対応。

(14) 自然保護(環境への配慮)

- ・ 自然保護(→Q2)。

(15) 組織理解

- ・ 運営団体の金銭にルーズでないこと（→Q47、Q48）。
- ・ スポーツ（知識、技能）を指導するのみならず、経営という見方、考え方を視点に入れた「スポーツ・マネジメント・システム」の取り入れ方が必要（→Q47、Q48）と考えます。

アンケートに答えていただいたの感想を、内容ごとに集計した。

- ・ 自らの指導を振り返るよい機会となった。．．．．．101
- ・ 設問が難しかった ．．．．． 79
- ・ 現状に即さない ．．．．． 23
- ・ 調査結果の良い活用を ．．．．． 17
- ・ その他
今後、機会を改めて、指導対象者ごとの観点での指導者の質、水準をまとめられるのもよいのではないか。

【参考文献】

1) 文部省告示第五号

「社会体育指導者の知識・技能審査事業の認定に関する規程」昭和62年

2) 文部省令二六

「スポーツ指導者の知識・技能審査事業の認定に関する規定」平成12年3月

3) 文部省告示一五一

「スポーツ振興基本計画」平成12年9月

4) 第20回ユネスコ総会「体育およびスポーツに関する国際憲章」第一条、第四条、

5) 岡 達生 「財団法人日本体育協会のスポーツ指導者制度改定について」

月間トレーニングジャーナル (有)ブックハウス・エイチディ 2005 No.311

5) 神奈川県・神奈川県立体育センター

「スポーツ指導者登録・紹介制度の今後のあり方について」平成20年3月

6) 神奈川県・神奈川県立体育センター

「県民の体力・スポーツに関する調査結果報告書」平成19年2月

7) 神奈川県・神奈川県教育委員会

神奈川県スポーツ振興指針「アクティブかながわ・スポーツビジョン」平成16年12月

8) 文部科学省「アメリカ調査報告概要」

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/009/siryu/04040904/002.htm

9) 福田幸男監修

「小学校教員を目指す人のための横浜スタンダード準拠 教育実習ノート」平成20年3月

10) 特定非営利活動法人 スポーツ指導者支援協会ホームページ

<http://www.sportif-support.net/>